

第2回 神戸 2025 ビジョン策定に向けた有識者検討会議

日 時：令和2年9月14日（月）15:00～

場 所：神戸国際会館9階セミナーハウス 大会場

議 事 次 第

（配付資料）

1 開会	資料1 委員名簿
2 議事	
（1）神戸2020ビジョンの総括検証について	資料2 神戸2020ビジョン総括検証・評価報告書
（2）ワーキンググループの議論報告	資料3 ワーキンググループ議論報告書 （「若者が選ぶまち」グループ） 資料4 ワーキンググループ議論報告書 （「誰もが活躍するまち」グループ）
（3）神戸2025ビジョンの全体構成	資料5 神戸2025ビジョン全体構成（案） 資料6 施策の柱ごとの具体的な あるべき姿・施策検討状況
3 その他報告事項 今後のスケジュールについて	資料7 今後のスケジュール
4 閉会	
（参考資料）	
神戸2025ビジョン策定に向けた各アンケート結果報告	資料8 神戸2025ビジョン策定に向けた各アンケート調査結果からの示唆 資料9 神戸2025ビジョン策定に向けた各アンケート結果（抜粋）

第 2 回 神戸 2025 ビジョン策定に向けた有識者検討会議 委員名簿

会 長（敬称略）

神戸大学 理事

しなだ ゆたか
品田 裕

委 員（五十音順、敬称略）

神戸女子大学 健康福祉学部教授

うえと たかこ
植戸 貴子

滋慶医療科学大学院大学 医療管理学部研究科 准教授

おの セレスタ 摩耶

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 教授

かとう よしまさ
加藤 恵正

ネスレ日本株式会社 執行役員

かのう みき
嘉納 未来

コーポレートアフェアーズ総括部長

神戸大学大学院工学研究科 准教授

くりやま なおこ
栗山 尚子

神戸新聞社 論説委員

こばやし ゆか
小林 由佳

神戸商工会議所 専務理事

なかばやし しろう
中林 志郎

神戸市民文化振興財団 理事長

はっとり こうじ
服部 孝司

兵庫県中小企業家同友会 代表理事

ふじおか よしみ
藤岡 義己

連合神戸地域協議会 副議長

まなべ ともこ
真鍋 智子「神戸 2025 ビジョン策定に向けたワーキンググループ」代表
（五十音順、敬称略）

神戸大学大学院工学研究科 准教授

おたぎわ としもり
織田澤 利守

学校法人摺河学園 学園長

やまだ もとやす
山田 基靖

神戸 2020 ビジョン総括検証・評価報告書

1. 概要

神戸市では、2016年3月に「第5次神戸市基本計画」の実現に向けた実施計画として、「神戸2020ビジョン」を策定した。当ビジョンでは、2016年度から2020年度までの5年間で取り組む施策のうち、「若者に選ばれるまち」「誰もが活躍するまち」を全体テーマとして掲げ、その実現のために6つの基本的方向性を定め、2015年10月に策定した「神戸創生戦略」と一体的に取り組んできた。

現在、計画の達成に向けて取組みを進めているところであるが、次期ビジョンの策定に向け、今後の方向性なども踏まえながら、「神戸2020ビジョン」の総括検証・評価を行った。

なお、検証・評価は、個々の施策の達成度だけでなく、計画を推進する中で得た成果や市民アンケートの結果、まちの質・くらしの質を評価する客観的な指標も織り交ぜながら総合的に実施した。

2. 全体目標

○年間12,000人の出生数を維持

⇒実績：10,468人（令和元年）

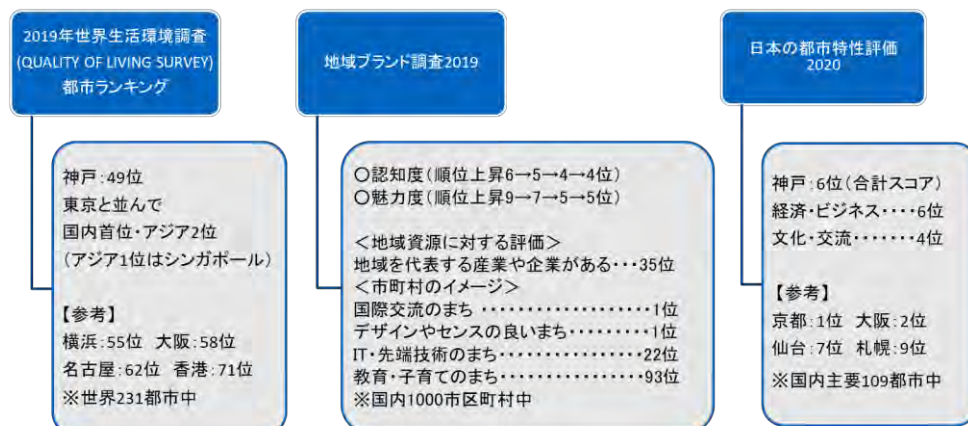
○若者の神戸市への転入を増やし、東京圏への転出超過年間2,500人を解消

⇒実績：▲2,885人（令和元年）



3. まちの質・くらしの質を示す客観的指標

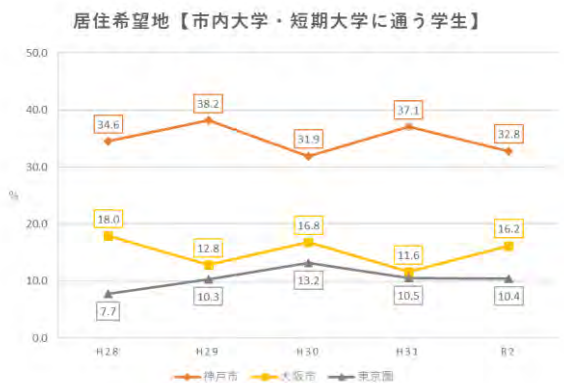
- ・民間の調査会社が実施する都市ランキングでは、国内最上位クラスに位置するものもあり、都市イメージや生活環境について高い評価を得ている一方、経済・成長産業や教育・子育てに関するイメージについては課題がある。



(資料) マーサー「2019年世界生活環境調査(QUALITY OF LIVING SURVEY)-都市ランキング」
 ブランド総合研究所「地域ブランド調査2019」
 森記念財団 都市戦略研究所「日本の都市特性評価2020」

4. 市民アンケート（在住者、転入者、大学生アンケート）の結果

- ・「今後も神戸市に住み続けたい」と答えた方は、約5割を超えている。
- ・「魅力的な住まいが多い」、「良好な住環境の地域がある」と答えた方は、約8割と高評価を得ている。
- ・神戸市内の大学生のうち居住希望地を「神戸市」と答えた方は、約3割である。

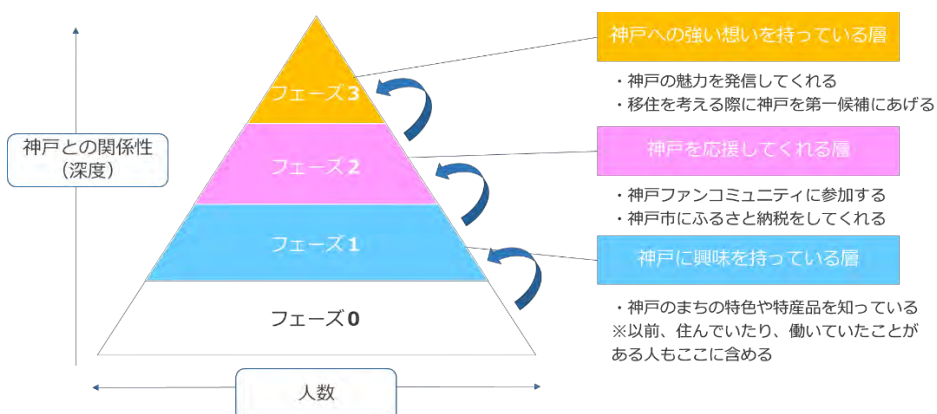


※H28の在住者アンケートは未実施

5. 総評

全体目標の達成は厳しい状況であるが、まちの質・くらしの質を評価する客観的指標や市民アンケートの結果から、都市イメージや生活環境の維持・向上が図れており、これまでの取組みの成果が一定程度現れている。一方で、経済・ビジネスや教育・子育てに関するイメージについては課題があり、さらなる施策の推進やPRに力をいれていくことが重要である。

市民アンケートの結果を見ると、特に転入者からの評価が高いことから、観光や短期的な滞在を通してまずは神戸の魅力を実感し、興味を持ってもらうなど、関係人口の増加に繋げていくことが重要である。また、継続的なアプローチにより「神戸を応援してくれる層」、「神戸への強い思いを持っている層」を増やし段階的に神戸との関係性を深化させていくことで、子育てし、住む場所として若者が選ぶまちを目指していかなければならない。



基本的方向①若者に魅力的なしごとづくり

〈数値目標〉

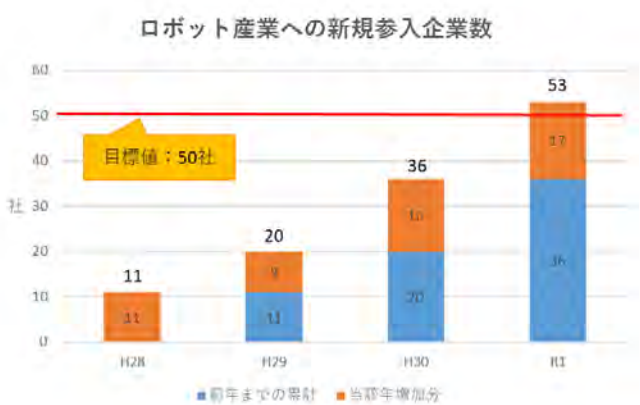
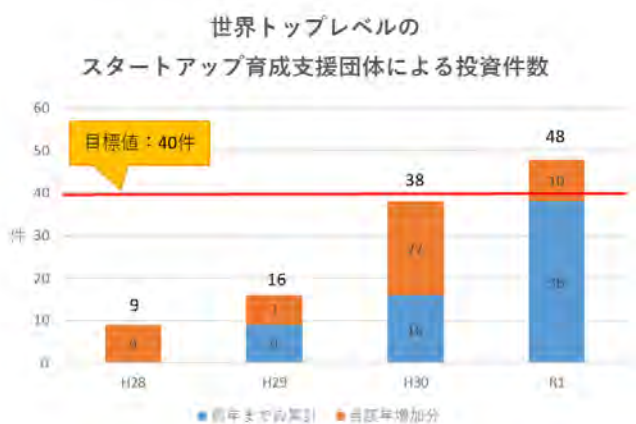
- ・市内就業者数：719,200人を維持⇒ 実績：760,200人（平成29年就業構造基本調査）

1. 主な取組み

- ・500 Startups（投資ファンド・起業家育成団体）との連携
- ・国連機関である UNOPS と、グローバル・イノベーション・センター（GIC）を神戸市内に開設する合意書を締結
- ・シリコンバレーやアフリカ・ルワンダへの派遣交流プログラムによる起業家マインドの醸成
- ・神戸医療産業都市への企業・研究機関等の誘致
- ・成長が期待される様々な分野（航空・宇宙産業や ICT、水素産業、ロボット、食など）における新事業開発の支援

2. 主な KPI 実績

- ・500 Startups との連携等を推進し、投資件数は目標値を超えた。
- ・誘致企業数は5年間で300社以上にのぼり、医療関連企業のほか、様々な企業の集積が進んでいる。
- ・誘致企業数の増加に伴い、雇用創出数も毎年増加傾向である。
- ・ロボット産業への新規参入企業数は、令和元年度に目標値を超えた。



3. 市民アンケート（在住者、転入者、大学生アンケート）の結果

- ・「就職したいと思う企業・団体が数多く存在する」と回答した割合は5割程度から6割程度まで向上した。
- ・「起業がしやすい」と回答する割合は転入者も在住者も増加傾向にある。
- ・神戸市内の大学生は、大阪市、東京都よりも神戸で働きたいと考える人の割合が多い。
- ・希望勤務地を「神戸市」と答えた学生のうち、実際に勤務予定地が「神戸市」の学生の割合は6割程度に留まっている。



※H28の在住者アンケートは未実施

4. 総評

企業誘致などを順調に推進してきた結果、計画策定当初に設定した「市内就業者数719,200人」を大幅に上回った。しかし、アンケートの結果において、希望する勤務地として「神戸市」を選ぶ学生の割合は、約3割で横ばい傾向にあることから、大学が多いという強みを十分に活かしきれていない。また、希望勤務地が「神戸市」と答えた学生のうち、実際の勤務予定地が「神戸市」である学生の割合は6割程度に留まっており、希望する就職先が不足していることが考えられる。一方で、「起業がしやすい」と回答する在住者や転入者の割合は増加傾向にあり、「起業しやすいまち」というイメージはできつつある。大学生などの若者が神戸を働く場所として選ぶことを目指し、スタートアップ支援などを通してこのイメージにさらに磨きをかけるとともに、魅力的なしごとの創出や、情報発信などを進めていくことが重要である。

基本的方向②若者を惹きつける魅力づくり

〈数値目標〉

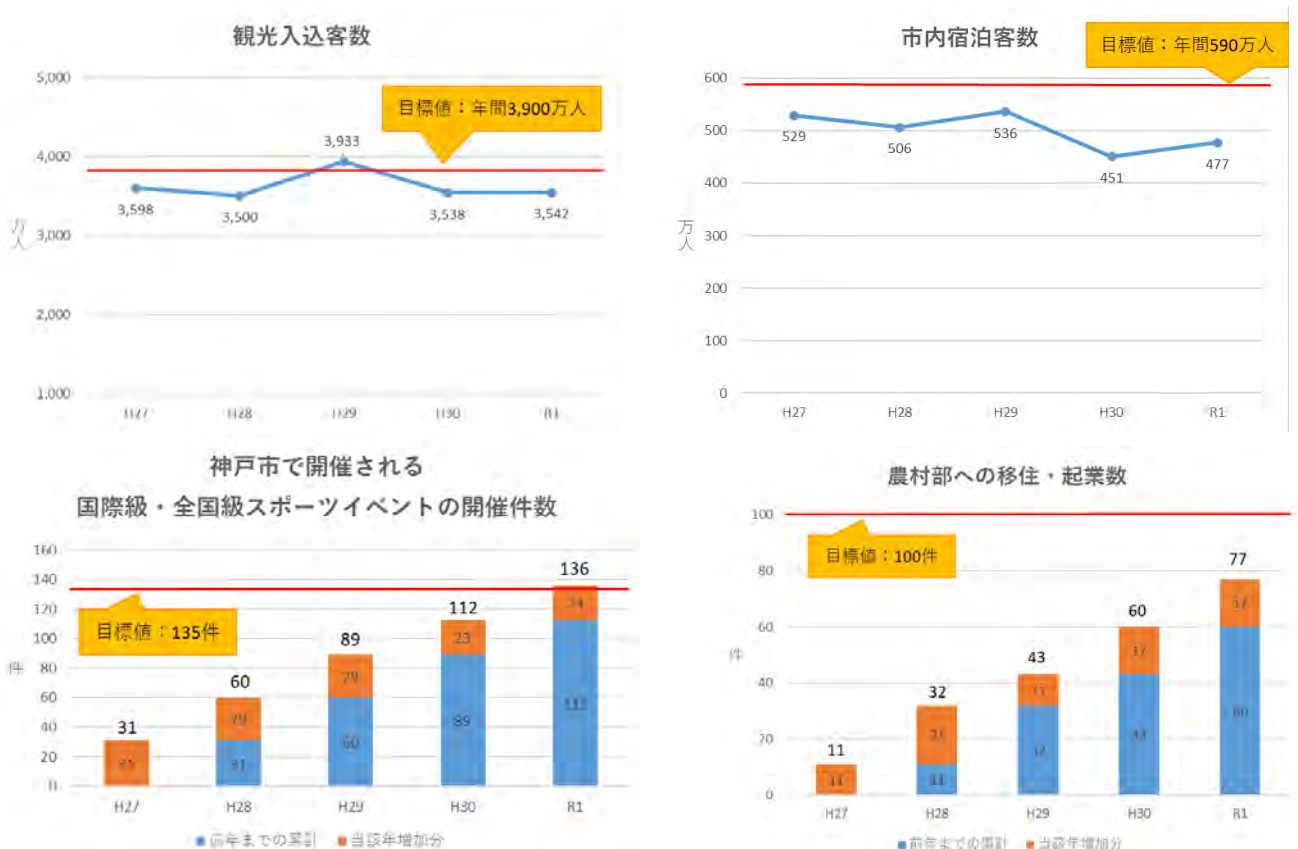
- ・東京圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）への若年世代の転出超過数の解消
⇒実績：▲2,885人（令和元年）

1. 主な取組み

- ・東京・有楽町「ふるさと回帰支援センター」内に相談ブース設置および専属相談員の配置
- ・WeWork等を活用したテーマ別のトークイベントやPRイベントの実施
- ・移住促進のプロモーション活動の実施
- ・「神戸里山暮らし」の推進
- ・六甲山上スマートシティ構想の推進
- ・三宮周辺地区の「再整備基本構想」の推進
- ・ウォーターフロントの再整備
- ・神戸空港等、市内各所へのストリートピアノの設置

2. 主なKPI実績

- ・観光入込客数は、開港150年記念イベントの開催等により、平成29年に目標値を達成したが、その他の年は目標値の9割程度で推移している。
- ・市内宿泊客数は、目標値の8～9割程度で推移している。
- ・国際級・全国級スポーツイベントの開催件数は、ラグビーワールドカップの開催等、順調に増加し、令和元年度に目標値を超えた。
- ・農村部への移住・起業数は、農村移住コーディネーターの配置や空き家改修補助等の支援制度を進めた結果、目標達成には及ばないが増加し続けている。



3. 市民アンケート（在住者、転入者、大学生アンケート）の結果

- ・どの項目も肯定的な回答が増加傾向にある。特に「食」に関する評価が高い。
- ・「楽しむ場所として魅力的である」「遊ぶ場所やイベントが充実している」と答えた割合は、在住者、転入者ともに7割以上で推移している。
- ・「スポーツを楽しむ機会が充実している」と答えた方の割合が、5割から6～7割と向上している。

楽しむ場所として魅力的である



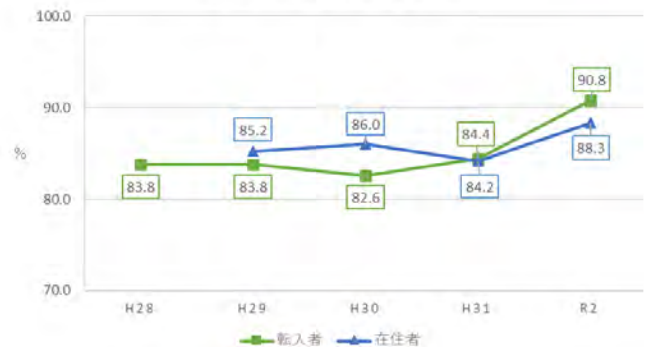
遊ぶ場所やイベントが充実している



スポーツを楽しむ機会が充実している



「食」が充実している



※H28の在住者アンケートは未実施

4. 総評

東京圏への転出超過の解消に向け、市内就職促進や東京圏をターゲットとした取組みを進めてきたが、全国的に東京一極集中の流れに歯止めがかかっておらず、「東京圏への若年世帯の転出超過数の解消」の目標達成は難しい状況である。一方で、様々な魅力づくりやその発信に取り組んできた効果が、市民アンケートの結果などに現れている。また、新型コロナウイルス感染症の影響で大規模なイベントの開催などは難しい状況にあるが、農村地域など自然が豊かな場所への関心が高まっている。これらの価値観の変化を見極めながら、多様な自然環境を有する神戸の強みを活かした取組みを進めていく必要がある。

基本的方向③若い世代の結婚・出産・子育て・教育を優先できる社会システムづくり

〈数値目標〉

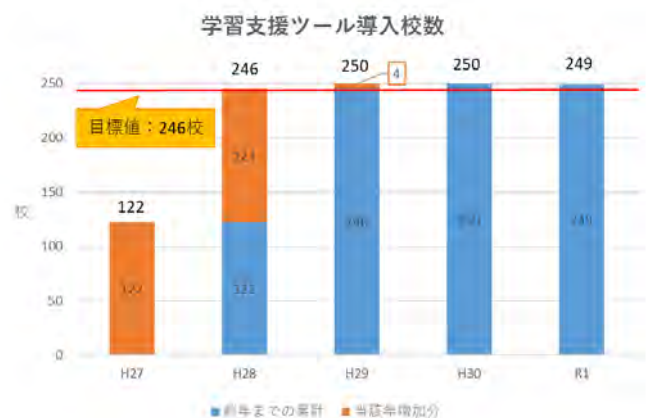
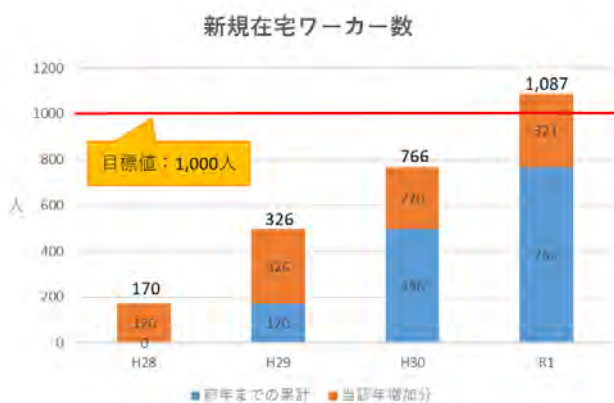
- ・市内出生数（約 12,000 人）の現状維持
⇒実績：10,468 人（令和元年）
- ・保育所等利用待機児童の解消
⇒実績：待機児童数 52 人（令和 2 年 4 月 1 日）

1. 主な取組み

- ・妊婦健康診査に対する公費助成や産後ケア事業の実施
- ・KOBE 子育て応援団「ママフレ」の運営
- ・待機児童の解消・学童保育の拡充
- ・学習支援ツールの全義務教育学校等への導入
- ・企業の働き方改革推進支援や、女性の就職・再就職支援（企業向けのテレワーク導入支援など）
- ・ひょうご出会いサポートセンターとの連携

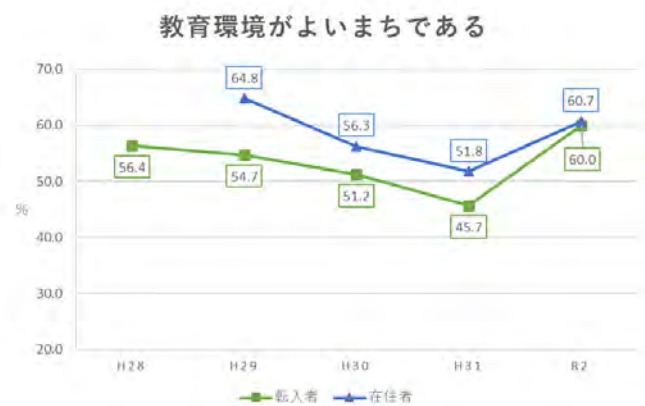
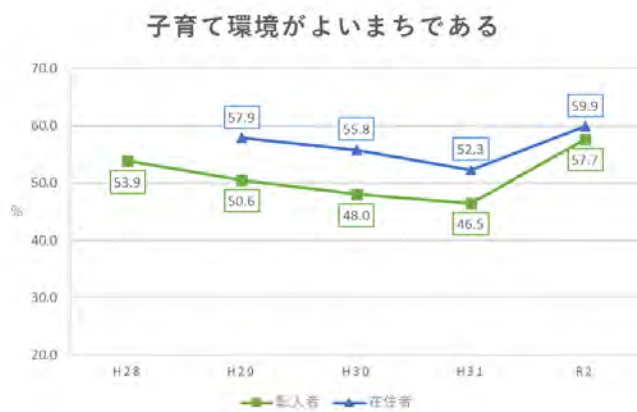
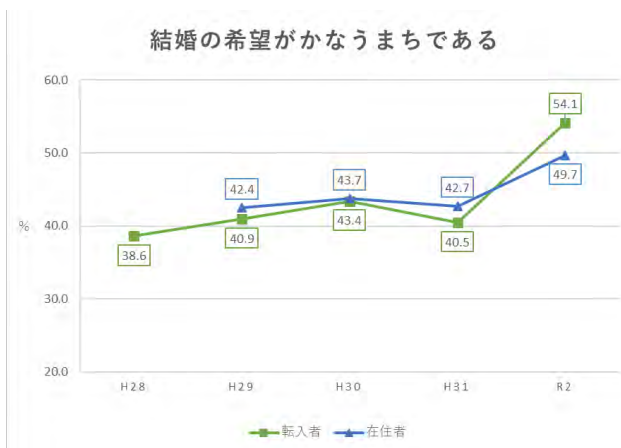
2. 主な KPI 実績

- ・保育所等利用待機児童数は一時 300 人を超えた年もあったが、解消に向けて大きく減少している。
- ・延長保育実利用員数は全ての年度で目標値を超えている。
- ・新規在宅ワーカー数は、在宅ワークセミナー等を実施し、目標値を超えた。
- ・インターネットを活用した学習支援ツールは、全小・中・義務教育・特別支援学校への導入が完了。



3. 市民アンケート（在住者、転入者、大学生アンケート）の結果

- ・どの項目も肯定的な回答が増加傾向にあるものの、5～6割程度に留まっている。
- ・「結婚の希望がかなうまちである」と答えた方の割合は、4割から5～6割程度と改善している。



※H28の在住者アンケートは未実施

4. 総評

全国的な20代～30代の若年人口の減少や晩産化、合計特殊出生率の減少により、「市内出生数12,000人の維持」という目標は達成が難しい状況にある。待機児童の解消や学童保育の拡充、国際教育といった特色ある教育など、様々な取組みを着実に実施してきたが、アンケートの結果を見ると、市民にこれらの情報が十分に届いておらず、情報発信が課題となっている。今後、さらに結婚・出産・子育て・教育環境を充実させていくとともに、戦略的なPRが必要である。

基本的方向④次世代の将来を約束できる環境づくり

1. 主な取組み

- ・北神急行線の市営化に伴う運賃の大幅値下げ
- ・神戸空港の発着便・就航都市の増加が実現
- ・港勢拡大に向けた、高規格コンテナターミナルの整備や国際フィーダー網の充実
- ・公民連携での水素エネルギー利活用拡大の取組みの推進

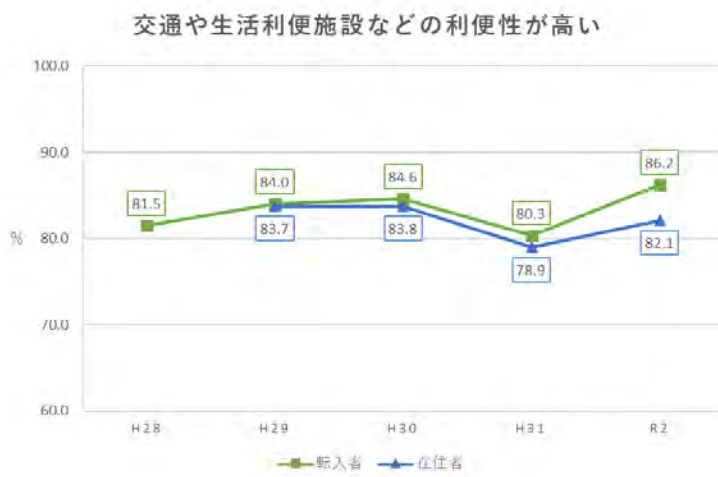
2. 主な KPI 実績

- ・地域主体の生活交通への支援地区数は、増加傾向にはあるが、目標達成には至っていない。
- ・神戸空港の機能拡充・向上への取組みを進め、令和元年度に就航都市数の目標値を超えた。



3. 市民アンケート（在住者、転入者、大学生アンケート）の結果

- ・在住者、転入者ともに概ね 8 割以上が交通や生活利便施設などの利便性が高いと回答している。



※H28 の在住者アンケートは未実施

4. 総評

北神急行の運賃値下げや、神戸空港の機能拡充等、交通利便性の向上につながる施策に取り組んできた。市民アンケートの結果も概ね高評価となっている。今後もインフラ整備を進め利便性向上を図りつつ、水素エネルギーの利用拡大など、将来にわたり持続可能な環境を目指した挑戦的な取組みが必要である。

基本的方向⑤安心なくらしづくり

〈数値目標〉地区防災計画策定数：36地区

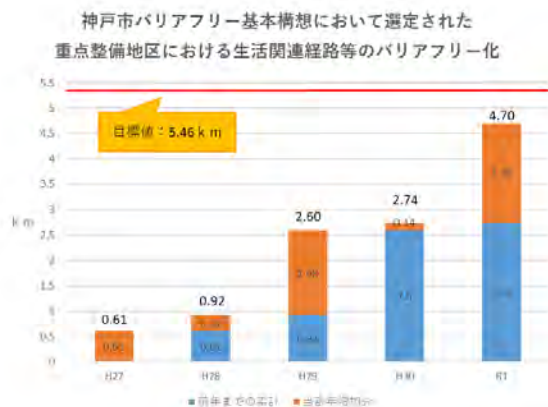
実績：108地区（令和元年度）

1. 主な取組み

- ・まちなか街灯と防犯カメラの増設
- ・総合的な防災対策と神戸における国土強靱化の推進
- ・南海トラフ巨大地震発生時に想定される千年に1度の「レベル2」津波に備えた防潮堤の補強
- ・後期高齢者の増加に対応した地域福祉の充実への取組み
（健康管理アプリ「MY CONDITION KOBE」、認知症「神戸モデル」など）
- ・公共空間のバリアフリー化推進

2. 主なKPI実績

- ・浸水被害が予想される河川についての改修を順次進めている。
- ・生活関連経路等のバリアフリー化は目標達成には至っていないが、優先順位をつけ着実に整備している。
- ・災害時の延焼防止、避難可能なまちづくりのためにまちなか防災空地整備を進め、目標値を超えている。



3. 総評

自然災害などあらゆるリスクに対して、高齢者や障がい者など誰もが安心してくらしできるように、総合的な防災対策など、ハード・ソフト両面で取組みを進めてきた。認知症「神戸モデル」など、先駆的な施策も実施しており、高齢化が進む中、市民の安心なくらしづくりをより一層進めていくことが重要である。

基本的方向⑥地域と地域の連携づくり

〈数値目標〉県及び近隣市町との連携による取組み件数：5件以上

実績：7件（令和元年度）

1. 主な取組み

- ・地域におけるコミュニティ活動を通じた地域課題解決の支援
- ・区役所における総合窓口のさらなる展開（東灘区、長田区、北区、垂水区、須磨区、北須磨支所、北神区役所、兵庫区、灘区）
- ・新たな区役所庁舎の建設に向けた動きの進展（兵庫区、北区は完成済み）
- ・電子申請の対象業務を拡大
- ・周辺自治体との連携の推進（連携協定の締結、水道の安定供給に向けた取組みなど）
- ・兵庫県との合同庁舎の開設（新長田）

2. 主なKPI実績

- ・県と近隣市町との連携による取組み件数は、目標値を超えている。
- ・近隣市町と水を融通できる、緊急時連絡管の整備については、平成30年度時点で目標値を超えている。

※緊急時連絡管：近隣市町との間に水を融通できる水道管設備



3. 総評

新長田合同庁舎の供用開始や新たな連携協定の締結など、県や近隣市町との連携を推進するとともに、兵庫区、北区の新庁舎の完成や総合窓口の展開など、市民サービスの向上や地域ニーズへのきめ細やかな対応を行ってきた。今後も地域課題解決や神戸を中心とした圏域の発展を目指して、連携を進めるとともに、地域コミュニティのさらなる活性化に取り組んでいくべきである。

(参考資料) 神戸 2020 ビジョン総括検証データ集

基本的方向① 若者に魅力的なしごとづくり

〈数値目標〉

KPI	KPI数値目標	調査周期	H24	・・・	H29	・・・	R1	達成度
市内就業者数	719,200人を維持	5年	719,200人	・・・	760,200人	・・・	—	○

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=—

(1) 革新を生み出す新たな起業・創業、新事業創出支援の展開

○主な取組み

- ・ 500 Startups（投資ファンド・起業家育成団体）との連携
- ・ 国連機関である UNOPS と、グローバル・イノベーション・センター（GIC）を神戸市内に開設する合意書を締結
- ・ 「アーバンイノベーション神戸」の実施開始と他都市への水平展開
- ・ シリコンバレーやアフリカ・ルワンダへの派遣交流プログラムによる起業家マインドの醸成

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①「神戸スタートアップオフィス」の本格展開	短期重点支援プログラムに対する投資家からの資金投入件数、資金投入額	資金投入件数：30件【累積】 資金投入金額：10億円【累積】	毎年度	計画期間 対象外	4件 130,000千円	16件 570,000千円	29件 672,600千円	29件 990,300千円	○
②世界トップレベルのスタートアップ育成支援団体神戸への誘致及び連携	世界トップレベルのスタートアップ育成支援団体による投資件数	40件【累積】	毎年度	計画期間 対象外	9件	16件	38件	48件	○
③新事業創発プログラムの実施	新事業創発プログラムによる事業創出件数	10件【累積】	毎年度	計画期間 対象外	1件	1件	1件	7件	△
④知的財産の活用・産業化	(公財)新産業創造研究機構による知財活用支援による製品化・事業化件数	60件【累積】	毎年度	9件	15件	24件	37件	48件	○
⑤スタートアップ支援への「ふるさと納税」の活用	スタートアップのための成長資金	4000万円【累積】	毎年度	計画期間 対象外	779,564円	1,013,789円	37,757,564円	40,301,564円	○
⑥人材交流型新事業創造プラットフォームの創設	新事業創造プラットフォームによる新事業の展開、新規企業の年間立ち上げ件数	100件【累積】	毎年度	計画期間 対象外	13件	38件	77件	153件	○

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=—

○達成が困難な事業（△、×の事業）の今後の方向性

- ③ KPIの達成に向けて、これまでテーマを決め、セミナーやワークショップを通して、新たな産業の創出や第二創業の促進に取り組んできたが、今後はセミナーを中心とした単発の方式を見直し、ターゲットの明確化や継続的なハンズオン支援を組み込むなど、より効果的な事業となるよう検討を進めていきたい。

基本的方向① 若者に魅力的なしごとづくり

(2) 成長産業の企業誘致等の促進

○主な取組み

- ・ 神戸医療産業都市推進機構の発足
- ・ 神戸アイセンターの開設
- ・ スーパーコンピュータ「京」および後継機の「富岳」を中核とした、研究教育拠点(COE)の形成に向けた研究開発の支援
- ・ 水素サプライチェーン構築実証事業における、液化水素荷揚・積荷基地の立地に向けた港湾施設の整備
- ・ 神戸空港の発着便・就航都市の増加が実現
- ・ 高規格コンテナターミナルの整備や、西日本諸港からのフィーダー貨物の集貨等の実施

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①神戸医療産業都市の推進	ア)誘致企業数 (医療関連企業を含む) イ)雇用創出数 (医療関連企業を含む)	ア)260社 イ)7,000人	毎年度	ア)53社 イ)1,480人	ア)128社 イ)4,262人	ア)197社 イ)5,875人	ア)286社 イ)8,288人	ア)339社 イ)12,188人	ア)○ イ)○
②雇用の場を生み出す企業誘致の推進	ア)誘致企業数 (医療関連企業を含む) イ)雇用創出数 (医療関連企業を含む)	ア)260社 イ)7,000人	毎年度	ア)53社 イ)1,480人	ア)128社 イ)4,262人	ア)197社 イ)5,875人	ア)286社 イ)8,288人	ア)339社 イ)12,188人	ア)○ イ)○
③阪神港国際コンテナ戦略港湾のさらなる推進と、多様な貨物輸送の強化を通じた神戸港の港勢拡大	阪神港の国際基幹航路等の便数 (北米・欧州など)	ア)欧州基幹航路：週3便 イ)北米基幹航路：デイリー化 ウ)南米等航路：新規航路開設	毎年度	ア)週2便 イ)6曜日寄港 ウ)未開拓	ア)週1便 イ)6曜日寄港 ウ)アフリカ航路、インド航路開拓	ア)週1便 イ)週5便4曜日寄港 ウ)アフリカ航路(平成28年度開設)	ア)欧州基幹航路 週1便 イ)北米基幹航路 週5便 2曜日寄港 ウ)アフリカ航路(平成28年度開設)	ア)欧州基幹航路 週1便 イ)北米基幹航路 週5便 2曜日寄港 ウ)アフリカ航路(平成28年度開設)	ア)× イ)× ウ)○
④神戸空港の機能充実	3空港一体運営による利便性向上・ネットワークの充実(就航都市数)	10都市【累積】	毎年度	6都市	6都市	7都市	7都市	11都市	○
⑤神戸空港島の戦略産業企業の集積・にぎわいの創出	航空・宇宙関連企業及び集客・にぎわい施設の誘致件数	5件【累積】	毎年度	2件	3件	5件	8件	10件	○

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=-

○達成が困難な事業(△、×の事業)の今後の方向性

- ③ 令和元年度は、米中貿易摩擦の激化や中国の経済成長鈍化等の影響を受け、神戸港のコンテナ貨物取扱個数は287万TEUと前年度から減少となった。このような状況の中、神戸港の港勢拡大を図るため、西日本諸港からの集貨や北米-東南アジア間等のトランシップ貨物の誘致を引き続き行う。

これらの取組みにより、国の政策目標である、欧州・北米航路をはじめ、中南米・アフリカ等、多方面・多頻度の直航サービスの充実を目指し、グローバルに展開する我が国立地企業のサプライチェーンの維持に向けた神戸港の機能強化の取組みを進める。

基本的方向① 若者に魅力的なしごとづくり

(3) 次代の基幹産業の育成・振興①

○主な取組み

- ・ 成長が期待される様々な分野（航空・宇宙産業やICT、水素産業、ロボット、食など）における新事業開発支援
- ・ 地元中小企業に対する水素関連産業の技術者育成補助、試作品・新製品の開発補助等の実施
- ・ IoT・AI・ロボット導入相談窓口を公益財団法人新産業創造研究機構（NIRO）に開設
- ・ アフリカなど成長市場との経済交流

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①航空・宇宙産業の育成	ア)神戸市の航空機関連の製造品出荷額 イ)市内中小企業に対する航空・宇宙分野の新規参入・受注拡大支援企業数	ア)1,150億円 イ)50社【累積】	毎年	ア)- イ)23社	ア)629億円 (H26) イ)27社	ア)729億円 (H27) イ)27社	ア)861億円 (H28) イ)30社	ア)999億円 (H29) イ)34社	ア)○ イ)△
②水素産業の育成	大手企業等との共同開発や部材提供等による水素産業参入企業数	30社【累積】	毎年度	5社	11社	13社	16社	19社	△
③ロボット産業都市の推進	ア)ロボット産業への新規参入企業数 イ)サービスロボットの製品化件数	ア)50社【累積】 イ)35件【累積】	毎年度	計画期間 対象外	ア)11社 イ)13件	ア)20社 イ)15件	ア)36社 イ)16件	ア)53社 イ)19件	ア)○ イ)△
④IT・データを活用した施策の推進	オープンデータ公開件数	100件	毎年度	43件	145件	149件	149件	164件	○
⑤アフリカなど成長市場との経済交流	アフリカ市場におけるビジネス創出件数	10件【累積】	毎年度	なし	2件	2件	7件	7件	△

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=ー

○達成が困難な事業（△、×の事業）の今後の方向性

- ①イ)製造品出荷額・企業数とも着実に増加してきたが、すでに完成品メーカーが生産調整を実施しており達成は困難。10月に開催される「エンジンフォーラム神戸」の活用や航空機分野の海外展開支援ほか地元中小企業を積極的に支援し、基幹産業へと育成すべく息の長い支援を継続する。
- ② 企業数は着実に増加しているものの、発展途上にある水素産業では、大手メーカーは実績のある企業の製品を採用し、また水素製品の開発、事業化に長時間を要しており達成は困難。大手メーカーへの納入の道筋となる事業計画書の策定等を中心とした伴走型の支援、開発補助制度の拡充の検討、講演会や見学会を主とする勉強会への企業参加の働きかけなど、参入促進に向けた息の長い支援を継続していく。
- ③イ)ロボット導入による利点は日頃の啓発活動で、市内企業にも根付いてきており、ロボット産業への新規参入企業数の増加に結びついている。今後は、サービスロボット分野での更なる注力が必要になる。
- ⑤ 将来性のある市場について注目は高いものの、実際の投資行動に結びつけるには、時間を要する。経済交流の真の効果は長期的に表れるものであり、毎年度ごとの評価では捉えきれない部分が多いため、引き続きビジネスセミナー等の取組を継続的に実施する。

基本的方向① 若者に魅力的なしごとづくり

(4) 次代の基幹産業の育成・振興②

○主な取組み

- ・ 「EAT LOCAL KOBE」ウェブサイトや SNS、リーフレットを活用した情報発信
- ・ 「食都神戸」海外展開促進協議会の設立と、神戸産農水産物と加工品のプロモーションと輸出促進
- ・ 最先端農業 ICT 技術の導入実証事業などのプロジェクト実施

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①「食都 神戸2020」構想のさらなる推進	ア)ファーマーズマーケット年間開催回数・来場者数 イ)農水産物輸出品目数	ア)50回、50,000人 イ)20品目	毎年度	ア)開催回数9回 来場者数4,500人 イ)3品目	ア)開催回数40回 来場者数34,000人 イ)8品目	ア)開催回数40回 来場者数36,000人 イ)商流6品目 テストマーケティング23品目	ア)開催回数42回 来場者数32,000人 イ)通常販売21品目	ア)開催回数40回 来場者数26,000人 イ)20品目	ア)△ イ)○
②新たな農業関連産業の創出	農業へのICT導入人数	200人【累積】	毎年度	12人	13人	24人	36人	116人	△
③新たな「道の駅」の整備・活用	新たな「道の駅」の年間来場者数	200,000人	毎年度	計画期間対象外	12,581人	1,504,524人	1,257,846人	1,273,632人	○

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=-

○達成が困難な事業（△、×の事業）の今後の方向性

- ① 令和元年度は、台風などの天候の影響もあり開催できない日程もあり、2月以降に予定していたマーケットも新型コロナウイルス感染症の影響により中止となるなど、開催回数を増やすことができなかった。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の状況をみながら再開を検討し、他地域でのファーマーズマーケット拡大にも引き続き取り組む。

香港におけるデモの拡大や新型コロナウイルス感染症の影響により、最も大きな輸出先である香港・マカオへのワイン等の輸出が減少した。令和2年度は、加工品など輸出に適したアイテムを増やすことに力を入れ、新型コロナウイルス感染症等の状況をみながら PR を行っていく。

- ② 新たな担い手への初期設備・機械の導入支援により ICT 技術を活用した機器を利用する生産者を増やすとともに、JA が設置した ICT を導入した大型ハウスを活用して新たな担い手を育成する。また、ICT 技術を活用して生産した花き・野菜の苗の利用を促す。

基本的方向① 若者に魅力的なしごとづくり

(5) 神戸の中小企業・商業事業者等の競争力強化

○主な取組み

- ・ 民間事業者との連携により、シンガポールとドイツ（ハンブルク）に「神戸市海外ビジネスコーディネーター」を配置、ビジネス交流促進
- ・ 海外現地商談会の開催
- ・ 市内商店街・小売市場の空き店舗情報に特化した不動産情報サイトの運営

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①中小企業等の海外展開促進支援の実施	海外展示会等出展数	150社【累積】	毎年度	12社	60社	121社	173社	218社	○
②産金学官の連携による競争力強化支援の実施	神戸リエゾン・ラボ（ものづくり工場内）活用による新規開発件数	50件【累積】	毎年度	13件	27件	38件	48件	57件	○
③商店街・小売市場の空き店舗への挑戦	空き店舗年間解消件数	60件	毎年度	19件	39件	60件	67件	38件	△

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=-

○達成が困難な事業（△、×の事業）の今後の方向性

- ③ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で空き店舗が増加しており、今後の経済状況を見据えながら、空き店舗の実情を把握していくとともに、既存の制度を活用しながら、引き続き空き店舗対策に取り組んでいく。

(6) 人材の確保・育成

○主な取組み

- ・ 交流拠点「Co-STUDY KOBE」の試行実施
- ・ 地元企業向けに外国人留学生等を対象とした合同企業就職説明会の開催
- ・ 工業高校・高専と連携し、若年中途退職者と中小製造業とのマッチングの実施

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①大学等の集積を活かした人材の育成・定着	学生・教職員に対する市内就職の意識啓発、市内企業とのマッチング等の年間実施件数	8件	毎年度	10件	5件	8件	10件	11件	○
②グローバル人材の集積・育成	就労目的の在留資格を持つ外国人の数	5,000人	毎年度	4,436人	4,910人	5,340人	5,447人	6,495人	○
③ものづくり人財確保・育成支援事業	中小製造業と若年者との年間マッチング件数	100件	毎年度	なし	16件	34件	61件	57件	△
④航空・医療・ロボット分野における新たな教育プログラムの実施	神戸市立工業高等専門学校における新たな教育プログラムの設置件数	3件【累積】	毎年度	計画期間対象外	計画期間対象外	3コース	3コース	3コース	○

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=-

○達成が困難な事業（△、×の事業）の今後の方向性

- ③ 「KOBE 無料職業紹介所（はたらこうべ）」の開所以来、個別丁寧なマッチングを実施してきたが、企業からの求人（製造・加工処理）登録が多い一方、求人にマッチしない求職（一般事務）申込が多い状態が続いており、事業のあり方を検討していきたい。

基本的方向② 若者を惹きつける魅力づくり

〈数値目標〉

KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
東京圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）への若年世代の転出超過数の解消	年間2,500人を解消	毎年	2,422人	2,411人	2,825人	2,972人	2,885人	×

達成度：KPI数値目標の80%以上＝○ 50%以上80%未満＝△ 50%未満＝× 測定不能＝－

（１） 移住・定住の促進

○主な取組み

- ・ 東京・有楽町「ふるさと回帰支援センター」内に相談ブース設置および専属相談員の配置
- ・ WeWork等を活用したテーマ別のトークイベントやPRイベントの実施
- ・ ファミリー層をターゲットとした新たな情報発信ツールの開発・情報発信
- ・ 移住促進のプロモーション活動の実施
- ・ 不動産関連会社と連携した集中的プロモーション
- ・ 東京からの移住促進事業（わくわく地方生活実現政策パッケージ）
- ・ 神戸版地域おこし協力隊

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①移住促進に向けた都市プロモーションの展開	東京圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）への若年世代の転出超過数の解消	年間2,500人を解消	毎年	2,422人	2,411人	2,825人	2,972人	2,885人	×
②「神戸のライフスタイル」魅力の見える化・発信	ア)市内宿泊客数 イ)外国人観光客数 ウ)観光入込客数 エ)観光消費額	ア)590万人 イ)130万人 ウ)3,900万人 エ)3,700億円	毎年	ア)529万人 イ)107.9万人 ウ)3,598万人 エ)3,686億円	ア)506人 イ)124万人 ウ)3,500万人 エ)3,182億円	ア)536人 イ)134万人 ウ)3,933万人 エ)3,442億円	ア)451万人 イ)141万人 ウ)3,538万人 エ)3,471億人	ア)477万人 イ)139万人 ウ)3,542万人 エ)3,272億円	ア)○ イ)○ ウ)○ エ)○
③神戸地場産業のプロモーション	「MADE IN KOBE」プロダクト（コラボ商品）の商品化件数	20件	毎年度	計画期間対象外	24件	24件	24件	24件	○

達成度：KPI数値目標の80%以上＝○ 50%以上80%未満＝△ 50%未満＝× 測定不能＝－

○達成が困難な事業（△、×の事業）の今後の方向性

- ① 移住に向けたプロモーションの効果は、短期的な取組みによって表れるものではなく、観光や短期的な滞在を通してまずは神戸の魅力を実感し、興味を持ってもらうなど、関係人口の増加に繋げていくことが重要である。また、継続的なアプローチにより「神戸を応援してくれる層」、「神戸への強い思いを持っている層」を増やし段階的に神戸との関係性を深化させていくことで、中長期的に移住に繋げていきたい。
- さらに東京圏では、移住先を限定せず漠然と地方移住を希望する層も増えており、ふるさと回帰支援センターに配置している相談員を中心に神戸を移住先の候補として選んでもらえるよう、積極的にアプローチをしていく。

（２） 大学等の活性化

○主な取組み

- ・ 国・県・経済団体等関係機関のネットワークを構築し、連携協力して神戸市域において就業支援を実施

基本的方向② 若者を惹きつける魅力づくり

(3) 都心・三宮の再整備

○主な取組み

- ・ 「えきまち空間」の実現に向けた、景観デザインコードの検討
- ・ 「三宮クロススクエア」交通社会実験の実施

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①三宮周辺地区の『再整備基本構想』の推進	三宮駅周辺ビル再建等検討件数	5件	毎年度	5件	5件	5件	5件	5件	○
②夜間景観を活かした新たな魅力づくり	フラワーロード光のミュージアム整備延長	1.4km【累積】	毎年度	0.22km	0.4km	0.7km	1.17km	実施計画に基づき、令和元年度は未実施	○
③魅力的な公共空間の創出	都心部における公共空間のリデザイン実施延長	延長3km【累積】	毎年度	0km	0.13km	0.26km	0.26km	0.30km	×

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=ー

○達成が困難な事業（△、×の事業）の今後の方向性

- ③ 道路整備に対するニーズの多様化により、都心部の公共空間のリデザインについて、当初想定より進捗が遅れているが、継続的に整備している葺合南54号線については、引き続き整備を進めていく。

基本的方向② 若者を惹きつける魅力づくり

(4) 開港 150 年・ウォーターフロントの再整備

○主な取組み

- ・ 兵庫運河（大輪田水門）のライトアップ
- ・ 須磨海岸の再整備
- ・ 神戸港福利厚生施設神戸ポートオアシスの供用開始
- ・ 新港第 1 突堤基部の再開発に引き続き、次期再開発の事業化に向けた取組みの推進

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①市民と港湾関係者が集い交流する施設の整備	市民と港湾関係者の交流施設（「神戸港福利厚生施設神戸ポートオアシス」多目的ホール）の利用率	50%	毎年度	-	-	平成29年7月供用開始のため平成30年度以降算出	30.4%	32.5%	△
②メリケンパークの再整備	観光入込客数（神戸港）	450万人	毎年	428万人	338万人	801万人	487万人	536万人	○
③須磨海岸エリアの再整備	ア)須磨海岸年間来場者数 イ)須磨海岸の健全度の向上（ファミリー向けイベント年間開催件数）	ア)100万人 イ)100件	毎年度	ア)85万人 イ)79件	ア)80万人 イ)84件	ア)80万人 イ)84件	ア)62万人 イ)79件	ア)42万人 イ)84件	ア)× イ)○
④夜間景観の演出	神戸港の夜間景観演出エリアの拡大件数	10エリア	毎年度	5エリア	6エリア	8エリア	8エリア	9エリア	○

達成度：KPI数値目標の 80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=-

○達成が困難な事業（△、×の事業）の今後の方向性

- ① 施設の管理運営については適正に実施されており、平成 29 年 7 月の開設以来、ホール・会議室とも利用率が着実に向上し、満足度調査においてもおおむね良好な結果である。しかし、利用率が 30%を超えてからは伸びが鈍化しており、新規来場者の割合が減少している。今後の利用率向上のため、積極的に会議・イベント等の誘致に努め、また、情報を頻繁に発信すること等により認知度を上げ、施設利用の向上につなげていく。
- ③ア)レジャーの多様化や異常気象等による海離れが進んだことなどにより、KPI 達成には至らなかった。今後は、平成 31 年度に初めて取得した安心・安全なビーチの国際環境認証であるブルーフラッグをはじめ、来場者数やイベントの実施数といった定量目標にとらわれることなく、海岸利用者の安心・安全にも力を入れ、家族連れが四季を問わず、訪れる海岸にしていきたい。

基本的方向② 若者を惹きつける魅力づくり

(5) 新長田地区の活性化

○主な取組み

- ・ 新長田合同庁舎の施工、完成
- ・ くにづかりポーンプロジェクトの推進
- ・ 「地下鉄海岸線中学生以下無料化社会実験」の実施

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①新長田駅南再開発エリアへの兵庫県・神戸市関係機関の共同移転	ア)新長田駅南再開発エリアの夜間人口	ア)6,100人 イ)4,500人	ア)毎年度 イ)5年	ア)5,834人	ア)5,852人	ア)6,017人	ア)6,011人	ア)6,036人	ア)○ イ)-
	イ)新長田駅南再開発エリアの昼間人口 (地下鉄駒ヶ林駅の一日平均乗降者数)			イ)- (1,203人)	イ)3,271人 (1,234人)	イ)- (1,282人)	イ)- (1,313人)	イ)- (-)	
②くにづかりポーンプロジェクトの推進	ア)新長田駅南再開発エリアの夜間人口	ア)6,100人 イ)4,500人	ア)毎年度 イ)5年	ア)5,834人	ア)5,852人	ア)6,017人	ア)6,011人	ア)6,036人	ア)○ イ)-
	イ)新長田駅南再開発エリアの昼間人口 (地下鉄駒ヶ林駅の一日平均乗降者数)			イ)- (1,203人)	イ)3,271人 (1,234人)	イ)- (1,282人)	イ)- (1,313人)	イ)- (-)	

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=-

(6) 「神戸里山暮らし」の推進

○主な取組み

- ・ 就農・移住希望者へ神戸の農業・農村地域の情報発信
- ・ 移住希望者と農村地域とをつなぐ農村定住促進コーディネーターの配置
- ・ 空き家バンクの運営、空き家改修の補助など、定住促進に向けた取組みの実施
- ・ 神戸 里山・農村地域活性化ビジョンの推進

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①「神戸里山暮らし」の推進	ア)新規就農者数	ア)250人【累積】	毎年度	ア)54人	ア)99人	ア)138人	ア)171人	ア)202人	ア)○ イ)△
	イ)農村部への移住・起業数	イ)100件【累積】		イ)11件	イ)32件	イ)43件	イ)60件	イ)77件	

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=-

○達成が困難な事業(△、×の事業)の今後の方向性

- ①イ)農村地域に活用できる空き家情報が不足していることから、ホームページやガイドブックによる情報発信、自治会からの情報収集、空き家改修の補助拡充など、定住促進につながる取組みを強化する。

基本的方向② 若者を惹きつける魅力づくり

(7) 六甲山の魅力化促進

○主な取組み

- ・ 再度公園や摩耶山自然観察園の改修、山麓電飾の灯具更新
- ・ 県市共同の「六甲山賑わい創出事業」を実施
- ・ 六甲山上スマートシティ構想の推進

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①六甲・摩耶観光の振興	六甲・摩耶の観光入込客数	230万人	毎年	201万人	204万人	208万人	187万人	191万人	○

達成度：KPI数値目標の 80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=-

(8) 神戸ブランドを牽引する魅力あふれるまちづくり

○主な取組み

- ・ 歴史的建築物等の保全活用に向けた景観形成重要建築物等の指定
- ・ 他の港と差別化できる優位性を PR し、クルーズ船の誘致活動を展開
- ・ 山の手住宅地の保全

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①歴史的建築物等の保全活用	歴史的建築物等の保全活用に向けた景観形成重要建築物等の指	5棟【累積】	毎年度	1棟	1棟	1棟	2棟	5棟	○
②クルーズ客船誘致の強化	客船の年間入港隻数	150隻	毎年	97隻	104隻	118隻	141隻	134隻	○

達成度：KPI数値目標の 80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=-

基本的方向② 若者を惹きつける魅力づくり

(9) 観光客の誘致

○主な取組み

- ラグビーワールドカップ開催を契機としたプロモーション
- 「BE KOBE モニュメント」の整備や旧居留地のLED化整備の実施
- 公衆無線LAN「KOBE Free Wi-Fi」の整備

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①メディアの複合的な活用による訪日観光・神戸ブランドPRの推進	ア)市内宿泊客数	ア)590万人	毎年	ア)529万人	ア)506人	ア)536人	ア)451万人	ア)477万人	ア)○
	イ)外国人観光客数	イ)130万人		イ)107.9万人	イ)124万人	イ)134万人	イ)141万人	イ)139万人	イ)○
	ウ)観光入込客数	ウ)3,900万人		ウ)3,598万人	ウ)3,500万人	ウ)3,933万人	ウ)3,538万人	ウ)3,542万人	ウ)○
	エ)観光消費額	エ)3,700億円		エ)3,686億円	エ)3,182億円	エ)3,442億円	エ)3,471億円	エ)3,272億円	エ)○
②地域全体の観光マネジメントを一本化するプラットフォームの構築	ア)市内宿泊客数	ア)590万人	毎年	ア)529万人	ア)506人	ア)536人	ア)451万人	ア)477万人	ア)○
	イ)外国人観光客数	イ)130万人		イ)107.9万人	イ)124万人	イ)134万人	イ)141万人	イ)139万人	イ)○
	ウ)観光入込客数	ウ)3,900万人		ウ)3,598万人	ウ)3,500万人	ウ)3,933万人	ウ)3,538万人	ウ)3,542万人	ウ)○
	エ)観光消費額	エ)3,700億円		エ)3,686億円	エ)3,182億円	エ)3,442億円	エ)3,471億円	エ)3,272億円	エ)○
③ICTを活用したおもてなし環境の構築	観光客向け公式スマートフォンアプリ総ダウンロード数	10万ダウンロード	毎年度	23,000DL	41,378DL	60,487DL	73,724DL	利便性向上のため、アプリの配信を停止し、HPやSNSの充実に移行	
⑤MICEの推進	ア)国際会議の開催件数	ア)110件	毎年	ア)113件	ア)361件	ア)405件	ア)419件	ア)調査中	ア)調査中
	イ)中・大規模の国内会議の開催件数	イ)60件		イ)58件	イ)54件	イ)91件	イ)129件	イ)127件	イ)○

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=-

(10) 芸術・文化、スポーツの振興

○主な取組み

- 新・神戸文化ホールの整備検討
- フルート・ジャズ等のまちなかコンサートの開催
- ラグビーワールドカップ2019神戸開催

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①神戸の文化・芸術の創造発信プロジェクト	まちかどステージ観客数	10,130人	毎年度	9,650人	10,540人	57,945人	17,330人	42,104人	○
②大規模スポーツイベントを通じた魅力の発信	神戸市で開催される国際級・全国級スポーツイベントの開催件数	135件【累積】	毎年度	31件	60件	89件	112件	136件	○

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=-

基本的方向③ 若い世代の結婚・出産・子育て・教育を優先できる社会システム

〈数値目標〉

KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1
市内出生数の現状維持	12,000人	毎年	12,140人	12,124人	11,565人	10,711人	10,468人

KPI	KPI数値目標	調査周期	H29.4月	H30.4月	H31.4月	R2.4月	達成度
保育所等利用待機児童の解消	待機児童の解消	毎年	93人	332人	217人	52人	※

達成度：KPI数値目標の80%以上＝○ 50%以上80%未満＝△ 50%未満＝× 測定不能＝－

※待機児童の減少数は、全国2位、関西でトップの165人となった。

(1) 妊娠・出産・子育てに切れ目のない支援

○主な取組み

- ・ ひょうご出会いサポートセンターとの連携
- ・ 妊婦健康診査に対する公費助成、産後ケア事業の実施
- ・ 子育て世帯への経済的支援の拡充
- ・ K O B E 子育て応援団「ママフレ」の運営
- ・ 待機児童の解消・学童保育の拡充

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①待機児童の解消	教育・保育施設等の利用定員	26,195人	毎年度	25,545人	26,250人	26,776人	27,269人	28,672人	○
②学童保育の拡充	学童保育で高学年を受け入れている施設の割合（公設） ※高学年（6年生まで）	100%	毎年度	57.5%	53.2%	69.8%	98.90%	98.90%	○
③多様な地域子育て支援事業の推進	ア)延長保育実利用人数 イ)一時預かり利用人数 ウ)ファミリー・サポート・センター週あたりの活動件数	ア)3,725人 イ)967,783人 ウ)554件	毎年度	ア)3,850人 イ)740,334人 ウ)247件	ア)4,208人 イ)836,339人 ウ)275件	ア)4,000人 イ)886,976人 ウ)253件	ア)3,768人 イ)936,377人 ウ)227件	ア)3,870人 イ)1,025,184人 ウ)224件	ア)○ イ)○ ウ)×
④親・子世帯の近居・同居の促進	親・子世帯の近居・同居住み替え助成事業により親・子世帯が近居・同居を行った件数	400件【累積】	毎年度	75件	185件	284件	374件	489件	○
⑤特に援助を必要とする家庭への支援	ア)児童養護施設本体施設への措置・委託児童数の割合 イ)グループホームへの措置・委託児童数の割合 ウ)里親等への措置・委託児童数の割合	ア)71.7% イ)15.8% ウ)12.5%	毎年度	ア)86.0% イ)6.5% ウ)7.5%	ア)85.3% イ)5.8% ウ)8.9%	ア)81.0% イ)9.5% ウ)9.5%	ア)76.7% イ)13.4% ウ)9.9%	ア)75.8% イ)13.0% ウ)11.2%	ア)○ イ)○ ウ)○

達成度：KPI数値目標の80%以上＝○ 50%以上80%未満＝△ 50%未満＝× 測定不能＝－

○達成が困難な事業（△、×の事業）の今後の方向性

- ③ウ)現状、依頼会員の増加率に対して、協力会員の増加率が追いついていない状況にある。今後、マッチングシステムの導入による利便性の向上とともに積極的な広報活動を通じて、協力会員・両方会員の更なる増加を図り、増大するニーズに対応できる制度としていく。

基本的方向③ 若い世代の結婚・出産・子育て・教育を優先できる社会システム

(2) 教育環境の充実

○主な取組み

- ・ 学習支援ツールの全義務教育学校等への導入
- ・ 「チーム学校」の教育力、組織力の強化
- ・ 建築後 30 年以上を経過した改修が必要な学校園施設を中心に大規模な老朽改修を実施。

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①確かな学力の育成	学習支援ツール導入校数	246校	毎年度	122校	246校	250校	250校	249校 ※小学校1校 統合のため の1校減	○
②安全・安心な学校づくり	グラウンド等学校施設の安全性 向上件数	200箇所【累積】	毎年度	計画期間 対象外	90箇所	194箇所	293箇所	374箇所	○
③特別支援教育の推進	ア)特別支援学校に配置する看護師1人あたりの医療的ケア対応 児童生徒数 イ)特別支援学校建設 (新設2校)の進捗管理	ア)5人 イ)100%	毎年度	ア)6.8人 イ)25%	ア)7人 イ)60%	ア)6.1人 イ)60%	ア)5.6人 イ)60%	ア)5.7人 イ)70%	ア)○ イ)△

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=-

○達成が困難な事業（△、×の事業）の今後の方向性

- ③イ)現在、HAT 神戸で建設中の特別支援学校が令和2年度末に完成し、目標を達成する予定である。

(3) 働き方改革の推進

○主な取組み

- ・ 企業の働き方改革推進支援や、女性の就職・再就職支援（企業向けのテレワークの導入支援など）

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①テレワークの推進	新規在宅ワーカー数	1,000人【累積】	毎年度	計画期間 対象外	170人	496人	766人	1,084人	○
②女性の活躍推進	ネットモニター調査における ワーク・ライフ・バランスの認知度	70%	不定期	-	45.7%	-	-	(38.9%) 「男女共同参 画の意識に関 する調査」	-
③女性の就職・再就職支援	未就労女性支援件数	300件【累積】	毎年度	計画期間 対象外	74件	125件	215件	279件	○

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=-

○達成が困難な事業（△、×の事業）の今後の方向性

- ② 現在ワーク・ライフ・バランスの推進に積極的に取り組む事業所を「こうべ男女いきいき事業所」として表彰し、企業や学生に向けて啓発・広報を実施している。既存事業と連携してワーク・ライフ・バランスの認知度の向上につなげていく。

基本的方向④ 次世代の将来を約束できる環境づくり

(1) 公共交通網の充実

○主な取組み

- ・ コミュニティタクシーやコミュニティバスの運行
- ・ 北神急行線の市営化に伴う運賃の大幅値下げ
- ・ 自転車利用環境の整備

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①公共交通を中心とした安全で快適な交通環境の形成	地域主体の生活交通への支援地区数	21地区【累積】	毎年度	3地区	11地区	14地区	16地区	16地区	△

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=-

○達成が困難な事業（△、×の事業）の今後の方向性

- ① 令和2年度より地域コミュニティ交通の支援制度を拡充し、一定の条件のもと市街地においても補助が受けられるようになったことから、地域コミュニティ交通の導入を要望する地域が増加することが考えられる。引き続き、地域の交通課題の解決を図ろうとしている地域に対し、他事例の紹介や支援制度の活用による適切な需要把握を行うなど、地域コミュニティ交通導入の支援を行っていく。

(2) 陸・海・空の交通基盤の充実

○主な取組み

- ・ 大阪湾岸道路西伸部や神戸西バイパスの着工、料金の対距離制・都心流入割引の導入（阪神高速・第二神明）
- ・ 神戸空港の発着便・就航都市の増加が実現【再掲】
- ・ 高規格コンテナターミナルの整備や、西日本諸港からのフィーダー貨物の集貨等の実施【再掲】

(3) 環境貢献都市の推進

○主な取組み

- ・ 地球温暖化対策のための啓発活動「KOBE COOL CHOICE」実施
- ・ 安定的・効率的なごみ処理システムの確立

(4) 神戸の豊かな自然を守る

○主な取組み

- ・ キーナの森・神戸ゴルフ倶楽部で自然観察会実施
- ・ 生物多様性シンポジウム開催

基本的方向⑤ 安心なくらしづくり

〈数値目標〉

KPI	KPI数値目標	調査周期	H24	・・・	H29	・・・	R1	達成度
地区防災計画策定数	36地区【累積】	毎年度	計画期間 対象外	計画期間 対象外	70地区	86地区	108地区	○

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=-

(1) 多様な住まいづくり

○主な取組み

- ・ リノベーション神戸の推進
- ・ 「空き家・空き地地域利用バンク」の創設
- ・ ベンチの設置、道路照明灯のLED化

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①計画的開発団地 (ニュータウン)のリノベーション	ア)親・子世帯の近居・同居住み 替え助成事業による子世帯の計 画的開発団地(ニュータウン) への流入件数 イ)計画的開発団地(ニュータウ ン)の近隣センター・サブセン ター・会館のリニューアル件数 及び若年世帯向け新規住宅供給 戸数	ア)160件【累積】 イ)3件、400戸【累積】	毎年度	ア)24件 イ)0件	ア)53件 イ)0件	ア)79件 イ)0件	ア)108件 イ)0件25戸	ア)144件 イ)0件25戸	ア)○ イ)×
②こうべ空き家活用促進 事業	ア)空き家率 (住宅土地統計調査による) イ)既存住宅の流通シェア率 (住宅土地統計調査による)	ア)12.5% イ)30%	5年 5年	ア)- イ)-	ア)- イ)-	ア)- イ)-	ア)13.3% イ)28.4%	ア)- イ)-	ア)- イ)-
③質の高い道路空間づく り～道路のリデザイン～	道路のリデザイン実施延長	延長30km【累積】	毎年度	2.92km	8.24km	10.44km	12.52km	14.87km	×
④身近な公園の再生	身近な公園再整備数	10箇所【累積】	毎年度	1箇所	1箇所	2箇所	3箇所	3箇所	×

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=-

○達成が困難な事業(△、×の事業)の今後の方向性

- ①イ)名谷南センターのリニューアル事業は、平成29年11月に新会館棟、平成30年7月に商業棟がオープンしており、現在、住宅棟などに着手し、令和3年度に竣工予定である。かりばプラザのリニューアル事業は、令和2年8月に事業者公募を開始し、12月上旬に優先交渉権者の決定予定である。
- ② 平成30年住宅・土地統計調査では、賃貸用・売却用以外の「その他空き家」の数が平成25年調査と比較して全国では約1割増加したが、本市では減少しており、市場流通支援等の取組みが一定寄与していると考えている。引き続き、使える(住める)空き家は活用する、使えない(危ない)空き家は壊す、を基本方針に、空き家発生の予防のための広報・意識啓発、空き家等の流通促進及び地域活性化や福祉利用を目的とした転活用など、総合的な空き家対策を推進するとともに、特に「その他空き家」のうち、戸建て・長屋に重点を置いた施策を実施する。
- ③ 道路のリデザインに関しては、道路整備に対するニーズの多様化により、当初の想定よりも進捗が遅れているが、KPI達成に向けて、引き続き取り組んでいく。
- ④ 身近な公園の再生については、期間の前半にラグビーワールドカップ開催による御崎公園改修事業に事業費等を注力したため、当初の想定よりも他の公園事業が後半にずれ込んだ。一方で、平成30年2月に「KOBEPARKリノベーション」を策定し、特に子どもの遊び場拠点や健康づくり拠点等に位置づけている公園や人口減少対策プロジェクトである「リノベーション・神戸」エリアにおける拠点公園等を重点的に現在計画的に再生の取り組みを推進しているところである。

基本的方向⑤ 安心なくらしづくり

(2) 神戸における国土強靱化の推進

○主な取組み

- 総合的な防災対策と神戸における国土強靱化の推進
(河川等の土砂災害対策、浸水対策、地震・津波対策、大規模多様化する自然災害に対応できる消防・救急体制の構築等)
- すまいの耐震化を推進するため、無料耐震診断・耐震改修補助を実施

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①土砂災害対策、浸水対策	河川改修	ア)延長1,840m【累積】 イ)橋梁改良5橋【累積】	毎年度	ア)282m イ)2橋	ア)320m イ)2橋	ア)470m イ)2橋	ア)1,240m イ)3橋	ア)1,529m イ)3橋	ア)○ イ)△
②地震・津波対策	ア)橋梁(緊急輸送道路に架かる15m以上の橋梁)の耐震化率 イ)上水道の送水バックアップ率 ウ)防潮堤の補強延長	ア)85% イ)80% ウ)既成市街地の人家部及び都心部の浸水面積を概ね96%縮減	毎年度	ア)72.3% イ)60% ウ)胸壁改良1,300m、道路嵩上げ1箇所(胸壁進捗率:11%)	ア)74.1% イ)74% ウ)胸壁改良1,900m、洗掘対策3箇所(胸壁進捗率:29%)	ア)76.7% イ)75% ウ)胸壁改良3,525m、洗掘対策3箇所(胸壁進捗率:39.6%)	ア)77.7% イ)75% ウ)胸壁改良6,063m、洗掘対策4箇所(胸壁進捗率:73%)	ア)80.4% イ)75% ウ)胸壁改良6,722m、洗掘対策4箇所(胸壁進捗率:80%)	ア)○ イ)○ ウ)○
③社会基盤(道路、河川、公園、上下水道、港湾施設など)の戦略的な維持管理・更新	汚水管渠の再構築(耐震化)済エリア内昼間人口	33万人【累積】	毎年度	15万人	18万人	18万人	22万人	26万人	△
④自己決定力を高める防災基盤づくり	地区防災計画策定数	36地区【累積】	毎年度	計画期間対象外	計画期間対象外	70地区	86地区	108地区	○
⑤密集市街地の再生	まちなか防災空地整備件数	40箇所【累積】	毎年度	20箇所	36箇所	44箇所	50箇所	55箇所	○

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=-

○達成が困難な事業(△、×の事業)の今後の方向性

- イ)令和2年度完了予定
- 今後、下水道については、令和2年3月に策定した神戸市公共下水道事業経営計画に定める新たな管理指標に基づき継続して事業を進めていく。

(3) 健康寿命の延伸

○主な取組み

- 認知症「神戸モデル」の推進
- 健康管理アプリ「MY CONDITION KOBE」の運用開始
- フレイルチェックの実施

基本的方向⑤ 安心なくらしづくり

(4) 安全・安心な地域づくり

○主な取組み

- ・ 老朽家屋・空き家・空き地対策
- ・ 認知症神戸モデルの推進など、地域福祉の充実
- ・ 防犯カメラの設置補助事業

(5) ユニバーサルデザインのまちづくり

○主な取組み

- ・ 鉄道駅舎のバリアフリー化やノンステップバス導入の支援
- ・ 障がいサポーター養成講座などの啓発事業の実施
- ・ 出前授業や親子体験教室など「世界一ユニバーサルなまち神戸」を目指したさまざまな取組みの実施

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①ユニバーサルデザインの普及・啓発	子どもや学生への出前授業等の受講者数	23,000人【累積】	毎年度	計画期間対象外	6,837人	13,408人	20,728人	25,437人	○
②誰もがくらしやすいまちづくりの推進	ア)神戸市バリアフリー基本構想において選定された重点整備地区における生活関連経路等のバリアフリー化 イ)歩道の段差・波打ちの解消 ウ)公園における主要園路の段差解消等 エ)地下鉄駅施設における計画的なバリアフリー整備の推進	ア)5.46km【累積】 イ)延長10km【累積】 ウ)68%【累積】 エ)西神・山手線三宮駅ホームドアの設置	毎年度	ア)0.61km イ)1.5km ウ)55% エ)西神・山手線三宮駅ホームドアの設置 実施設計業務を実施	ア)1.53km イ)4.9km ウ)57% エ)西神・山手線三宮駅ホームドアの設計・発注	ア)2.60km イ)5.6km ウ)58% エ)西神・山手線三宮駅ホームドアの設計・発注	ア)2.74km イ)6.4km ウ)59% エ)地下鉄駅施設における計画的なバリアフリー整備の推進 西神・山手線三宮駅ホームドアの設置・運用開始(平成29年度)	ア)4.70km イ)7.2km ウ)60% エ)地下鉄駅施設における計画的なバリアフリー整備の推進 西神・山手線三宮駅ホームドアの運用	ア)○ イ)△ ウ)○ エ)○

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=-

○達成が困難な事業(△、×の事業)の今後の方向性

- ②イ)道路整備に対するニーズの多様化により、当初想定よりも進捗が遅れているが、数値目標達成に向けて、引き続き取り組んでいく。

基本的方向⑤ 安心なくらしづくり

(6) 地域福祉基盤の強化

○主な取組み

- ・ 区役所の自立相談支援窓口(くらし支援窓口)のアウトリーチ機能を専門に担うネットワークを配置
- ・ 市社会福祉協議会に地域福祉ネットワークを統括する職員を配置し、地域のネットワークづくり、居場所づくり、しごとづくりを推進

(7) 貧困の連鎖防止に向けた取組み

○主な取組み

- ・ 生活困窮者への学習支援
- ・ 住宅セーフティネットの構築(住宅確保用配慮者の入居を拒まない賃貸住宅の登録制度)

(8) 障がい者が安心して暮らせるための支援

○主な取組み

- ・ グループホームの改修費用の助成
- ・ 空き市営住宅を利用したグループホームの整備

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①住まいの確保	グループホーム(定員数)	850人【累積】	毎年度	586人	618人	680人	734人	810人	○

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=x 測定不能=-

基本的方向⑥ 地域と地域の連携づくり

〈数値目標〉

KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
県及び近隣市町との連携による取組み件数	5件以上	毎年度	2件	4件	7件	7件	7件	○

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=-

(1) 顔の見える地域社会づくりと支え合い活動の推進

○主な取組み

- ・ 地域におけるコミュニティ活動を通じた、地域課題解決の支援

(2) 市民とつながる区役所改革

○主な取組み

- ・ モデル実施の検証を踏まえた、総合窓口のさらなる展開（東灘区、長田区、北区、垂水区、須磨区、北須磨支所、北神区役所、兵庫区、灘区）
- ・ 新たな区役所庁舎の建設に向けた動きの進展（兵庫区、北区は完成済み）

(3) 都市間連携

○主な取組み

- ・ 淡路3市との連携協定の締結及び連携事業の実施
- ・ 神戸隣接市・町長懇話会構成市町職員合同研修の拡充
- ・ 隣接する芦屋市、稲美町、明石市と緊急時連絡管の整備及び既設整備箇所含めた5市1町で定期的な合同訓練の実施

OKPI 達成状況

施策	KPI	KPI数値目標	調査周期	H27	H28	H29	H30	R1	達成度
①近隣市町との連携	県及び近隣市町との連携による取組み件数	5件以上	毎年度	2件	4件	7件	7件	7件	○
②水道の安定供給体制強化に向けた県下市町との広域連携の検討と技術連携	近隣市町との緊急時連絡管整備箇所数	12箇所【累積】	毎年度	9箇所	11箇所	11箇所	12箇所	12箇所	○

達成度：KPI数値目標の80%以上=○ 50%以上80%未満=△ 50%未満=× 測定不能=-

(4) 県市協調

○主な取組み

- ・ 新長田合同庁舎供用開始
- ・ 兵庫県のひょうご産業活性化センターを神戸市産業振興センターに移転し、総合窓口としての「ひょうご・神戸経営相談センター」を開設
- ・ 中小企業融資制度の県市一本化

令和元年度 地方創生推進交付金・地方創生拠点整備交付金 事業

1 アスタ新長田「オールインワンオフィス」整備事業

【事業の概要】

・新長田駅南地区の再開発エリアにて、地区外からの事業転入者の誘致、周辺地区への定着による地区全体の活性化を目的とした、公共のビジネス交流拠点「オールインワンオフィス」を整備した。

【KPI 令和元年度実績】 ()内は目標値

- ・本計画における直接経済効果 314,000円増 (1,256,000円増)
- ・拠点における会員からの会費収入月額 56,000円増 (220,000円増)
- ・賃貸料増加額 (レンタルオフィス) 520円増 (0円増/月・坪)

2 大学との連携による市内就職促進事業

【事業の概要】

・市内に 24 大学が立地する特性を活かし、今まで学生に届きにくかった市内中小企業の情報を有機的、効率的に伝える取組みを通じて、卒業後の学生の神戸市内への就職を促した。

【KPI 令和元年度実績】 ()内は目標値

- ・神戸市域における若年者の住民登録者数の増 1,673人減 (100人増)
- ・神戸企業による合同説明会参加学生の増 37名減 (50人増)
- ・産学連携による大学生等と地元中小製造業のマッチング参加学生数の増 23人増 (0人増)

3 高度外国人材等獲得促進事業

【事業の概要】

・留学生の獲得、市内就職・定着支援に関する施策を一体的に取り組むとともに、在住外国人への総合支援によるくらしの質の向上事業を通じて、高度外国人材のさらなる市内定着を図り、高度外国人材の獲得及び活躍を目指す

【KPI 令和元年度実績】()内は目標値

- ・「留学」による在留資格から就労可能な在留資格に変更した市内在住外国人のうち、在留資格変更の翌年度12月末時点で市内に居住している者の数 90人増 (25人増)
- ・「留学」による在留資格から就労可能な在留資格に変更した市内在住外国人数 201人増 (60人増)
- ・留学生を対象とした地元企業とのマッチングイベント(合同企業説明会)等への参加者数 188人増 (15人増)
- ・市内の大学・短期大学・専修学校の留学者数 0人増 (0人増)

4 新たな交通政策の検討・実施

【事業の概要】

・コンパクトなまちづくりの検討に合わせ、次代の変化に対応した、市民の移動ニーズに合った公共交通を実現するため、まずは客観的なデータを収集し、それに基づいて公共交通の再編を行う。再編にあたっては、既存の公共交通の見直しだけでなく、地域の特性や移動の実態に応じた新たな移動手段の導入を検討することで、地域の移動手段を維持・確保し、住み継がれるまちの実現を目指す。

【KPI 令和元年度実績】()内は目標値

- ・神戸市バスの1便あたりの営業収益 0円増/便 (0円増/便)
- ・新たな移動手段の導入数 0箇所増 (0箇所増)
- ・自動移動サービスの利用者数 0人増 (0人増)

5 里山地域における「しごとつくる」プロジェクト

【事業の概要】

・海・山に囲まれたコンパクトな都市部、国内有数の大学集積、県内有数の農村地域など多種多様なプレイヤーが互いに連携しながら活躍できる地域特性を最限に活かしながら、人口減少・高齢化が課題である市内農村地域に新たに移住・起業者を呼び込むため、農村地域で活躍できる人材を育成する里山起業スクールを開催。また、スクール修了生等が農村地域で活躍するための住居・起業拠点を整備し、移住・起業を促す。併せて神戸里づくりサポーターを創設し、地域内連携、広報発信を強化する。

【KPI 令和元年度実績】()内は目標値

- ・里山起業スクールを終了した受講者のうち、農村地域へ移住または農村地域で起業した人数 0人増 (0人増)
- ・里山起業スクール受講者数 20人増 (20人増)
- ・里山地域活性化拠点施設の整備 2箇所増 (2箇所増)

6 健康・医療分野におけるベンチャーエコシステム構築事業

【事業の概要】

・健康・医療分野のベンチャーを支援する専任コーディネーターを配置し、健康・医療分野の新たなシーズ・ニーズを発掘。育成プログラムの提供・概念検証費用の助成を通じて、健康・医療分野の起業・創業を支援する。また、創業前後のベンチャーが入居するインキュベーションラボを整備し、ベンチャーの資金調達のハードルを下げるとともに、前述の育成プログラム・検証費用助成を通じて、スムーズな事業化を促す。これら施策を通じてベンチャーと協業を図る大企業の集積を目指し、神戸医療産業都市内でのエコシステム構築を目指す。

【KPI 令和元年度実績】 ()内は目標値

- ・交付金対象事業を活用して神戸医療産業都市に進出した企業・団体数 4社・団体増 (2社・団体増)
- ・ベンチャーとのオープンイノベーションを求めて神戸医療産業都市に進出した企業・団体数 0社・団体増 (0社・団体増)

7 都市型創造産業及びクリエイティブ活動の集積と新たな価値の創造による六甲山の活性化

【事業の概要】

六甲山上エリアにおいて、都市型創造産業に関する事業所進出のニーズや誘致に向けた効果的なインセンティブについて基礎調査を行い、企業による山上遊休施設などの活用等により、オフィスの誘致を進める。併せて、既存施設などと連携して、施設の一部をワークスペース活用し、六甲山上全体をクリエイティブ活動ができる、他都市にはない、魅力的な空間へと成長させる。都市型創造産業等の集積、観光と仕事の融合という新たな六甲山上での魅力を発信するため、戦略的なプロモーション活動を行う。

【KPI 令和元年度実績】 ()内は目標値

- ・六甲山上の都市型創造産業関連事業所数 0箇所増 (0箇所増)
- ・六甲山上のワークスペースの活用事業者数 0人増 (0人増)
- ・神戸市観光客入込客数 (六甲・摩耶) 40,000人増 (70,000人増) 令和元年度実績は8月末ごろ

8 先端技術による価値創造社会づくりプロジェクト

【事業の概要】

・荷物配送など民間分野での目視外飛行も含めたドローンの利活用 (災害対応、インフラ維持管理、農林水産業等) を促進するため、最新技術を用いたドローンを防災・農林・土木等の多様な行政分野で先行的に利活用する。(兵庫県との共同事業)

【KPI 令和元年度実績】 ()内は目標値

- ・製造品付加価値額 - 億円増 (494億円増) ※令和元年度の数値は年末に算定。
- ・産学官共同研究参加企業数等 12団体増 (27団体増)
- ・目視外でのドローンの飛行面積 111ha増 (50ha増)

9 閉園幼稚園を活用した「地域の方の働く場」及び「地域活性化の場」の整備

【事業の概要】

・若年・子育て世帯の流入促進と流出抑制を進めるため、若年世帯に求められる共働きや職住近接等のライフスタイルに対応し、就業場所が限られている名谷エリアで、子育て中の方など短時間勤務を希望される方を対象とした新たな雇用を創出する「地域の方の働く場」を整備するとともに、子育て世代・若者・高齢者など様々な世代が集うことができる「地域活性化の場」をあわせて整備することにより、多世代交流の機会を創出し、地域の活力を維持向上させ多世代のひとが共生し持続可能なまちづくりを推進することで地方創生の実現につなげる。

【KPI 令和元年度実績】()内は目標値

・「地域の方の働く場」の雇用者数のうち若年・子育て世帯かつ新規就業者（49歳以下かつ直前未就業者）18人増（60人増）
・「地域の方の働く場」の若年・子育て世帯の就業者（49歳以下）の中で「地域活性化の場」での地域コミュニティ活動参加者割合 43%増（30%増）

10 革新的な医療技術の創出を加速させる次世代医療開発センター整備計画

【事業の概要】

・新たに建設されるオープンノベーション拠点ビルに、最先端の研究設備や動物実験設備、共同ラボスペースを備えた「次世代医療開発センター（仮）」を設置し、高品質な研究環境の共同利用を促すことにより、集積する企業や新たに拠点ビルに入居する企業による医薬品等の研究開発を効果的に支援し、革新的な医療技術等のイノベーションを創出し、神戸市の医療産業を更に発展させ、神戸市の所得拡大や更なる「まち」の活性化を図る。

【KPI 令和元年度実績】()内は目標値

（令和元年度は施設等の整備中であるため、未実施）

・神戸市における医療・福祉関連産業の付加価値額（0億円増）
・当該事業を通じて集積した企業等との共同研究開発契約締結数（0件増）
・次世代医療開発センター（仮称）利用件数（0件増）

11 シミュレーション技術とビッグデータ処理技術の高度連携によるものづくり革新拠点整備事業

【事業の概要】

・産業界が、スーパーコンピュータ『京』の後継機『富岳』を利用するために必要な技術レベルを身につけるトレーニング環境を整えるため、高度計算科学研究支援センターを高度化整備する。高度化により、ものづくり革新に不可欠な高度シミュレーション技術やビッグデータ処理技術の産業界への普及を加速させ、大型放射光施設Spring-8を活用した革新的材料開発や神戸医療産業都市にける創薬研究等との相乗効果も生み出しながら、地域経済の活性化を図る。（兵庫県との共同事業）

【KPI 令和元年度実績】()内は目標値

・県内の金属関連産業（新素材含む）の製造品出荷額を、2023年度までに約341億円増加させる。0円増（0円増）
・神戸医療産業都市進出企業数を、2023年度までに24件増加させる 17件増（0件増）
・本事業の実施により、新たに1,056人の雇用を創出する。0人増（0人増）

企業版ふるさと納税 事業

1 六甲山の名勝「再度公園」の活性化事業

【事業の概要】

・六甲山の中腹に位置する再度公園において、施設の改修と利活用の検討、公園までのハイキングコースの整備等を行い、利便性と快適性を向上させることで、再度公園ひいては六甲山の交流人口の増加に繋げるとともに、神戸の魅力を広く発信する。

【KPI 令和元年度実績】()内は目標値

・再度公園におけるイベント等参加者数 4,838人 (6,148人)

【寄附 令和元年度実績】()内は申請時点での寄附の見込み

・0千円 (100千円)

2 クリエイティブ人材育成事業

【事業の概要】

・新しい価値・文化・社会の姿を提案する「神戸クリエイティブフォーラム」の開催を支援することで、神戸市における都市型創造産業の活性化と新たな雇用創出につなげる。

【KPI 令和元年度実績】()内は目標値

・フォーラム後の参加者の事業企画数 0事業 (5事業)

【寄附 令和元年度実績】()内は申請時点での寄附の見込み

・0千円 (600千円)

3 食と里のネットワーク構築プロジェクト

【事業の概要】

・農漁業地域で新たに起業・就業する人材について、既存の農漁業者や連携の見込まれる多様な業種とのネットワーク作りを支援する。

【KPI 令和元年度実績】()内は目標値

・ネットワーク参加者のうち新規就農者数 6人 (20人)

・ネットワーク参加者のうち農村への移住者数・起業数 2人 (10人)

【寄附 令和元年度実績】()内は申請時点での寄附の見込み

・0千円 (2,000千円)

神戸 2025 ビジョン策定に向けたワーキンググループ 議論報告書（「若者が選ぶまち」グループ）

1. 議論概要

「若者が選ぶ」という視点を中心に、社会経済情勢の変化、特に新型コロナウイルス感染症の影響などを見据えながら、しごとの創出、子育て・教育環境の充実などの具体的な施策、また、ビジョンそのものの PR について議論を実施した。

2. 提案・意見

○ 魅力的な仕事の創出、経済活性

- ・テレワークの推進に伴い、東京圏からオフィスや住居を移す例が増加しており、シェアオフィスやコワーキングスペースの整備、また U ターンを考えている人などをしっかりと囲い込む施策が必要である。
- ・中小企業に対しては、大学生のインターン充実などの人材確保支援、IT 整備支援、東京進出を検討する企業への支援などを通して、競争力強化を図るべきである。
- ・500 Startups との連携など、起業家育成支援は着実に続けていくべきである。
- ・MaaS を取り入れ、交通環境を充実していかなければならない。

○ 子育て環境の充実

- ・子育て世帯にとって、「地域とのつながりの欠如」、「悩みを共有する場が無い」ことに悩みを持っている人や「子育てとキャリアの両立」を望む人が多い。これらを踏まえ、キャリア等の相談もできるサロンの運営や「神戸だから子育てができた」というロールモデルの発信していくべき。
- ・「子育て環境が良い」とイメージのもと、近隣市に子育て世帯が流れているのがうかがえる。神戸も制度は着実に充実してきているので、PR にもっと力を入れていくべき。
- ・子育て世帯が在宅勤務するのは難しいので、親子連れで利用できるコワーキングスペースなどの整備が必要。

○ 教育環境の充実

- ・これからの教育は一つの枠にはめるのではなく一人ひとりに寄り添い、イノベティブな人間を育てていく必要がある。オンライン授業の流れを捉え、著名な学者に講義を行ってもらうようなことも考えられる。
- ・LGBTQ への理解促進など「多様性」を育むような教育も重要である。
- ・子育て世代にとって住居選びの際に、教育環境は大きな判断材料となる。神戸には良質な教育環境があるのでもっと PR すべき。また、習い事施設や学童施設の充実なども必要である。

○ ビジョンのプロモーション

- ・ビジョンを PR する際は、他の都市に埋もれてしまわないように尖ったものにしていくべき。それぞれのテーマでゴールのイメージを明確にすることが重要。「これから変わっていく」というイメージをシンプルな単語で表せば良い。
- ・手法に関してもドローンを活用し山から海への映像や、若者に訴求するため SNS を積極的に活用すべき。

(ワーキンググループ 委員一覧)

※敬称略

神戸大学大学院工学研究科 准教授	織田澤 利守 (代表)
株式会社三井住友銀行 公務法人営業第二部 部長代理	大仁 恵美子
ヤフー株式会社	田邊 昭博
こ・ねくすと 代表	西岡 幸子

○ 第1回ワーキンググループ（「若者が選ぶまち」グループ）主な意見

委員A

- ・テレワークにより通勤の必要が減ると考えると、地下鉄沿線は非常に魅力がある。図書館整備と併せて、コワーキングスペースを整備してはどうか。
- ・授業をオンラインでするなら、例えば京大の山中先生に授業を行ってもらえるなど、世界のトップが授業を行うことも可能ではないか。まず勉強を好きになってもらうことが重要である。
- ・明石は「子育てがしやすい」というイメージが出来上がっており、神戸からの転出が目立っている。対策として、須磨や垂水のブランディングが重要ではないか。
- ・西区、北区には良好な住宅地があるが若い方が入っていかず、代謝がない。習い事のバラエティがないことが原因ではないか。高齢化が進んでいるので、若者、高齢者がまじりあうメリットを活かすのはどうか。
- ・住宅への助成事業は、新築への助成は止めリノベーションへの助成のみにしたほうが良いのでは。
- ・民間の学童は、プールや英語等習い事までカバーできることもあり、恵まれた環境である。
- ・ひとつの枠にはめる教育ではなく、一人ひとりに沿った教育が大切である。これから重要なのはそういう尖ったイノベティブな人間ではないか。画一的な人間はAIに仕事を奪われる。
- ・実際にコロナウイルスに感染した大学生も、どう対応したら良いかわからなかったようだ。災害や感染症の経験を生かしてフローを作っておくことなどが重要。

委員B

- ・東京圏など、神戸市から出ていった人を取り戻すために、メリットを示すような具体的な施策が重要である。例えば、WEB系の仕事の方へネット環境への補助を行うなどはどうか。
- ・シリコンバレーは電車一本で行けるとところにサンフランシスコがある。神戸からしかアクセスできない集積地があれば良いのでないか。
- ・減災や感染症対策という面では、満員電車を極力減らすことが重要。ポートアイランドの病院に満員のポートライナーで通うのは危険なので、車やバスでの通院を推進すべき。
- ・神戸は安心して質の高い公立高校に通わせられる。魅力として発信すべきでないだろうか。学校ごとに特色があっても良い。
- ・仕事の集積のため、500startupは継続すべきである。支援する数が重要。
- ・西神中央は谷上に比べ、土地も余裕があるためクリエイティブな空間として可能性がある。

委員 C

- ・ 大学を卒業し東京へ行く人が多いが、学生時代に神戸で働くイメージが湧いていなかったことが原因。インターンシップの充実が重要ではないか。
- ・ テレワーク等新しい働き方の啓蒙を企業だけでなく、学生に対しても行うべき。
- ・ I Tの整備が重要。特に老舗企業等は整備進んでいない。
- ・ 企業にとって、自治体との協働は敷居が高いように感じられる。自治体ではビッグデータ整備が進んでいるが、「こんなデータほしい」という企業は多い。こういった課題を捉え、神戸に相談すれば解決できるのではないかと企業に思われるようになるべき。
- ・ 週4回は神戸で在宅勤務し、週1回は東京に出社、といった働き方が可能になる。社員は神戸で働くが、東京に本社機能を作りたいといった企業に、共同オフィスを提供してはどうか。
- ・ 単身赴任者の妻への配慮が必要。神戸ならではのコミュニティや保育の提供など妻を神戸に繋ぎとめておける施策があれば良い。
- ・ 多世代近居はメリットが多いのでPRすべきではないか。
- ・ 災害時は情報が錯そうする。自分の家の危険度や避難場所など、普通の人への「見える化」が重要。保育園の避難訓練も、基準がまちまちで先生が混乱している。基準の統一が必要。
- ・ 市営住宅の空き家を中小企業の社宅にできないだろうか。入居者が少なくなっても、循環、代謝を進められるようにできれば良いと思う。

委員 D

- ・ 子育て世帯の悩みとして、「育休中のキャリア継続や子どもの成長に関する相談・情報共有ができる異業種間、神戸在住者の交流の場の提供」が無いので、そのような場があれば良い。
- ・ 身近なロールモデル（神戸で子育て・仕事をしながらキャリアを積むといった見本）が欠如しているので、そのような発信が重要ではないか。
- ・ 子連れの在宅勤務へ支援として、子ども連れで行って、親と子どもが別々に過ごせるスペースの提供が必要。
- ・ 教育に関するオンライン環境の整備をお願いしたい。不登校生のハードルを下げるためにも重要ではないか。
- ・ 関東は民間の学童保育が非常に多い。神戸市では、東灘区は比較的多いが、西側に行くと学童保育が少なくなる。半官半民等で充実すべきでは。

○ 第2回ワーキンググループ（「若者が選ぶまち」グループ）主な意見

委員 A

- ・大学が多いのが他のベッドタウンとの違い（強み）。神戸に下宿経験がある人が、神戸市を勤務希望地に挙げる。地縁が深い人ほど、その場所に住んでも良いと思うので、下宿生がねらい目。
- ・5年後に形になるものは限られている。開発のイメージがつくと、人も投資も集中する。「これから変わる」というイメージをPRしていくことが短期的には重要。
- ・（淡路島への本社移転報道を受け）パソナの関連企業を誘致するのはどうか。海外投資のハブになる企業を安く誘致すると、経済的なインパクトがあるという研究結果が出ている。
- ・5年を象徴するようなシンプルな単語を。生まれ変わるとか。5年後のビジョンのテーマなので、5年間をどのように切り取るかという視点があれば。
- ・キーワードとして、例えば「風」が良いのでは。風見鶏とか、吹き降ろす風等。
- ・PRイメージとして、神戸市内の農村地域は想像よりきれい。そこから海に行くような映像をドローンで取れたら映える。若者は反応するのでは。
- ・スポーツ事業をぜひ入れてほしい。体を動かすアクティビティが必要。
- ・東京IT企業が地方にオフィスを置いて、主婦を常勤で雇うなどの取組みをしているが、最初の教育の部分（プログラミングとか）に行政的なサポートがあればよい。そういう人材がたまれば、神戸で人材を確保しやすい。副業的に活躍できる人が増えるのでは。
- ・“「自分にはよいところがあると思う」児童生徒の割合”というKPIは素晴らしい。さらに「多様性の部分でみんな違ってみんないい」という項目を入れることが出来れば、「多様性」のPRにもなる。
- ・今回示した事業は、現行の2020ビジョンとの関係を示すと今後も継続すべきものがわかる。
- ・施策の柱に「働き方」が表現されていない。副業フリーランスの人たちのような働き方もあっていい。起業とかベンチャー、中小に努めるとか、多様な働き方に対するキーワードがあれば良いのでは。
- ・神戸まっぴりは神戸のイメージと合致しないものを大々的にやっているが、もっと神戸に根付くコミュニティなどの出し物があっても良い。
- ・案内板など神戸市どこに行っても同じデザインにするなどは効果があるかもしれない。

委員 B

- ・神戸の抱える問題は大阪のベッドタウンになる関西の他の自治体も抱えており、差別化が必要。神戸から転出し戻ってきていない人に対して、何が課題なのかアンケートを取るといい。戻ってくるとしても神戸ではなく、関西ではどこでもいい、という人に対して差別化を行うべき。
- ・北区の山の中等に税金免除などの優遇措置をして企業誘致すると、人もくるしお金も落ちる。
- ・交通の便が良く、神戸空港は関西圏のハブになっている。そういったイメージもPRすべき。
- ・掲載する施策をまとめたらどうなるかについて、一言で言えたら良い。まとめて大きく言える良い言葉があれば、方向性も決まる。ビジョンを達成するために、何かしら銘打って注力施策に名前を付けたら。神戸らしいものをピックアップすればいい。神戸の魅力に合致するものを探す。
- ・LGBTQなど、多様性を受け入れる文化が若者を集める。いろんな人が住んで活躍できるということをPRできればよい。
- ・人流データもKPIとして使えるのでは。「東遊園地経由で三宮からウォーターフロントに行った人がどれくらい増えました」などのデータが取れたら、KPIとして経常的なものがでてくる。
- ・SNSを積極的に使っていくべき。中高生大学生のネット層が次の世代のボリューム層で、どんどんオンラインの世代になる。オンライン化が進む中で、PCから目を挙げると海が見えるとか、

そういうところが大事。そういったところに、コワーキングスペースとかがあればよい。

- ・子どもの年齢に対する保育士の数というのは決まっている。コワーキングエリアに保育施設をつけると良いのでは。何かあった時だけ親御さんに声をかけるということにして、保育士の数を減らすなどの規制緩和はできないか。
- ・雇用環境などでは、Wi-Fiの整備が重要。
- ・IT系は教育にコストをかけてもその後に出ていく人が多い。大学の方に助成金をだして教育するなどが良いのでは。またコンピュータ専門学校に通っている主婦の方などをどう取り込むか。
- ・外国人に対するPRに関して、情報発信よりも「情報の取り方」を発信すべき。「ここにいけば情報が取れるよ」というものを伝えれば良いのでは。
- ・人流データを見ると8割程度の場所が2月と同水準に戻っているが、神戸市内での人の動きが増えている。阪神間からの人は昨年度からほぼ変わらず。滋賀大阪奈良あたりは7割くらい。それ以上遠いのは5割ほど。転出抑制などのために市内の人向けのPRを打つなら今がチャンス。

委員C

- ・PRはとがった感じで打ち出すべき。「他の都市にもあるよね」という感じで埋もれてはいけない。東京方面から来た人からしても、まちなみとかおしゃれなイメージなど、特色あるところを出していくのもいいのでは。
- ・災害時の情報の「見える化」については、台風の時など保育園が開園しているのかしていないのか基準がわかりづらいので、整理いただきたい。

委員D

- ・子育て施策など、明石に追随しても差別化を図れない。ブランド価値が高いという点から著名人の方を使うなど、神戸らしい差別化を考え絡めていく必要がある。
- ・結婚と同時に仕事をやめて西・垂水に行く傾向は、神戸市の東側よりも多いと感じる。全員に就業意欲があるのかはわからないが、子育て世代の働く環境があるとまた変わる。
- ・ビジョンとして「目指すところはここである」というものを見る化すると神戸らしいところが伝わる。例えばファミリー層の多い地域の図書館のコワーキングスペースは親子連れでできるようにすれば、2つの事業を併せて1つの事業で打ち出せる。
- ・子どもは、環境問題、SDGs絡みに純粋に興味がある。また神戸にはいろんな産業があるので、その点を活用していけば、神戸らしい自主的な学びにつながっていくのでは。
- ・保育園は朝7時に開くが学校は8時くらいからしか開いてないので、阪神間に仕事している人は、子どもより先に仕事に行かなければならないので不安。朝の送迎とかを地域でできるような施策が加わるといい。
- ・育休ママの交流の場の施策については、育休明けも不安なので、就学前くらいまでの交流の場があれば。あとママだけでなくパパも必要。子どもの時から神戸愛が育まれると、何十年後かの人口を確保できる。

神戸 2025 ビジョン策定に向けたワーキンググループ 議論報告書（「誰もが活躍するまち」グループ）

1. 議論概要

「誰もが活躍するまち」という視点を中心に、神戸の強みである多様性をより推進していくための施策、医療・介護・福祉環境の充実、地域コミュニティの活性化やシティプロモーションなどについて議論を行った。

2. 提案・意見

○ 「多様性」の推進

- ・「多文化共生、多様性」は多くの自治体がPRしており、「いかに差別化していくか」が重要。外国人に関しては、シビックプライド醸成やあらゆる面で共生できる環境づくりに取り組んでいかなければならない。
- ・シビックプライドの醸成に向け、外国人を「単純な労働者」とみなすのではなく、「外国人とともに育っていく」視点が必要であり、留学生への支援など学生時代から来てもらう仕組みづくりや特区制度を活用した労働環境の整備、地域コミュニティへの参加促進が必要である。
- ・外国人を対象にした災害対応や医療提供環境にはまだ課題がある。単に多言語化すれば良いということではなく、発信内容の精査やオンライン診療の促進などに取り組んでいくべき。
- ・LGBTQに関しては、パートナーシップ制度のような具体的な施策を検討するとともに、小学生などの小さい頃からの教育も重要である。

○ 医療・介護・福祉環境の充実

- ・生涯にわたり健康で安心して住み続けられる環境は、住居選びの際にも大きなポイントとなってくる。環境の充実とともにPRしていくことが大切である。
- ・先端技術（IoTやデータなど）を活用したフレイルチェックや先制医療を進めていくべき。
- ・認知症神戸モデルは全国初の取り組みであり、PRを続けていくべき。

○ 地域コミュニティの活性化

- ・社会の無縁化が進む中、地域コミュニティを活性化していくことは不可欠。しかしながら、若者の参加が進まないことや地域活動の負担が大きいという課題がある。このため、個々の地域団体が縦割りで活動している状況（PTA、自治会、婦人会など）の見直しや、電子申請の促進、地域活動の有償化、議事録作成などの事務面の支援などに取り組んでいく必要がある。
- ・NPOへの支援は、単に補助金を入れるのではなく収益力を上げるためのノウハウの提供が必要である。

○ シティプロモーション

- ・東京圏へのPRに関して、単にコストの差だけではなく、仕事や居住環境などを踏まえた上で、「ハイクオリティな暮らしを低いコストで実現できる」ことを総合的に打ち出していかなければいけない。
- ・SDGsに取り組んでいくことを明確にPRするためにも、資金調達にサステナビリティ債の活用を検討すればよい。

(ワーキンググループ 委員一覧)

※敬称略

学校法人摺河学園 学園長	山田 基靖 (代表)
関西学院大学人間福祉学部 准教授	澤田 有希子
兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科 教授	竹村 匡正
神戸労働者福祉協議会 委員	永野 敦子
林英樹司法書士事務所 司法書士	林 英樹
東灘区カネボウアーバン自治会 会長	

○ 第1回ワーキンググループ（「誰もが活躍するまち」グループ）主な意見

委員 E

- ・外国人を外から呼んでくる際、単純労働者と外国人をみなすと失敗する。どのような移民を受け入れるか先に議論すべき。数を前提とした外国人招聘は、真の多文化共生とはならない。
- ・「外国人材を受け入れる」ではなく「外国人材とともに育つ」プロジェクトを推進すべき。
- ・外国人に神戸が選ばれるためには単純な労働者としてではなく、総合職と変わりなく働けることが必要。特区制度も活用し日本人と変わらず働けるような環境をつくればどうか。
- ・神戸に就職してもらう条件で、中学高校の段階から神戸に来てもらい、シビックプライドを醸成するなどの取り組みはできないか。あるいは、年齢関係なく、日本語学校の学費を負担することはどうか。
- ・在外公館を使って神戸市の発信をすればどうか。
- ・外国人留学生へ民間住宅や市営住宅の空家を提供できないか。
- ・神戸は世界（国連）ではビルドバックベター（復興）の象徴であるなど、レジリエントなまちづくりに関心を寄せられる。
- ・オンライン診察は世界では標準だが日本ではコロナ禍でようやくできるようになった。外国人材が安心して医療を受けられるように市の施策で病院と連携してオンライン診療を推進できないか。

委員 F

- ・神戸では外国人コミュニティでの通訳サポートなどがさかんであるが、NPOは金銭面で非常に困っており、寄付等によりやりくりしている。新たなものに支援するのではなく、既存のNPOへの支援を充実することも重要。
- ・外国人に地域コミュニティに入っていただく形で、一緒に暮らせる取組みが必要だと思う。また、日本の生活を楽しめるように、コミュニティでのサポートも必要。
- ・神戸も高齢者が増えており共助が重要。認知症神戸モデルでは認知症診断を7,000人予定していたが、実績では21,000人が診断を受けている。事故救済制度も他都市にはない。このように、高齢者が安心して地域にでていってもらえるようなまちづくりが重要。
- ・地域での看取り施策、家族が地域で看取っていくための医療との連携を。

委員 G

- ・留学生は保証人がないので神戸では部屋を借りれない。担当する教員が保証人になることもある。学校が保証する制度などがあれば良い。
- ・外国人は災害時に行政に頼るが、発信がグーグル翻訳に任せになっていることがある。例えば災害時に避難指示はあるが、戻れという指示はない。日本人はなんとなく帰っていくが、外国人は戻るタイミングが分からない。情報提供の中身もとイケないのでは。また、顔の見える地域コミュニティで支援すべき。
- ・どんな方がどんな病気になるのか、データから測定できるような先制医療の取組みをすべき。

- ・フレイルチェックを進めるべき。そのためには普段からの情報が必要。ITの仕組みで個々の方の情報をどれだけ追えるか。必要なデータは、行政に一番多いが出てこない。
- ・行政からデータを得て、訪問介護を行うべき方を見つけるなど、仕組みを作る余地は多い。
- ・在宅から急性期病院に送られると認知機能が下がるという声がある。

委員H

- ・NPO法人は行政の補助金に頼ることが多いが、どのような活動をしているかはっきりしていれば、賛同する方から寄付があり成り立っていく。それが本来の姿だと思う。NPOの収益力を上げるためのノウハウを提供することも行政の役目だと思う。
- ・自治会への外国人参加は難しいので地域団体との連携が重要である。まちづくり協議会、防災福祉協議会、ふれまち、PTAなどに外国人が入っていない。ここに外国人が入る仕組みを作れないか。
- ・神戸市の防災アプリは充実しているが活かしきれていない。これを市民全員がダウンロードしていれば良いのだが。
- ・防災福祉コミュニティなど既存の枠組みで尽力している方が一定数いる。これをもっと地域につなげていけないだろうか。また、地域に合わせたしくみ（防災庫にマニュアルがあり、それに対応が可能である等）を地域で共有すべき。
- ・地域活動は縦割りで各団体がばらばらに活動している。大阪市の導入する、地域活動協議会の〇〇部、〇〇部という仕組みを導入できないか。横の連携ができるようになるし、人材交流や子育てが終わってから定年するまでの「空白世代」の地域参加にもつながる。
- ・年間100日以上活動を無償とするのは難しいので、地域活動の有償化をしてはどうか。他自治体では給料の出ているところもあるようだ。
- ・まちづくりコンサルの拡充など、地域活動の事務的な面での支援があれば良い。
- ・生活支援サポーター、自治会活動ハンドブック等制度が知られていないので、地域団体の役員への周知をお願いしたい。

委員I

- ・病院では外国人患者は、言葉の分かる方と一緒に来られないと大変。今の病院の体制では海外からの受け入れ準備はない。現場の変革が必要。
- ・独居の方が自宅で倒れていた場合、宅配業者が発見するということも珍しくない。民間サービスに見守り機能を担ってもらい、その情報も統合できれば、入退院支援につなげられる。

○ 第2回ワーキンググループ（「誰もが活躍するまち」グループ）主な意見

委員 E

- ・LGBTQ に対する適応を打ち出すのであれば、パートナーシップ制度くらいまでは検討しておかないといけない。外国人ウェルカムです、と言うのに海外から同性カップルがきたときになんの制度もないのは厳しい。制度設計をするくらいでないと、KPI も考えられない。
- ・神戸市で就きたい仕事がない、ということで、魅力的な仕事の創出は重要。パソナが淡路島に移動させるということはインパクトがある。本社機能の神戸市への誘致は難しいのか。
- ・神戸市は、これだけ高齢者向けの施策があるので、首都圏で介護施設に高い費用を使っている人に対して PR すると、移り込んでくるかもしれない。ただ、神戸のタワマンの値段などはそこまで変わらない。どのレベルの生活コストを計算して違いを打ち出すのかを考えて、トータルでこれだけ魅力があるということを出さないといけない。
- ・資金調達は、サステナビリティ債（ボンド）を検討すべき。市債で充てる部分はサステナビリティ債にふさわしい案件、という打ち出しで印象だけでなく安定して 10~20 年資金調達が可能。
- ・ソーシャルボンドで、医療や安全面で市債を発行すればインパクトが大きい。サステナビリティボンドは、ソーシャルボンドとグリーンボンドの掛け算。神戸市が抱えている社会課題に「金融という切り口で挑みます」というような掛け算ができればインパクトがある。
- ・SDGs 未来都市は交付税ももらえるので検討していくべき。
- ・生活コストの部分で、「これだけハイクオリティだけどコストはこれくらいですよ」という面を出さないといけない。神戸市以外にも安く住めるところはたくさんあるので、逆効果になる。仕事だけでなく住む環境の良さ。大阪へのアクセスの便利さのアピールの部分と、仕事もこういうのがありますよ、という形で、レイヤーを分けてメッセージ性を出すべき。
- ・都内のホテルがコワーキングスペースとして人気。コワーキングスペースを市として作れば、「この市は住みやすい、働きやすい」と思うようになるかもしれない。
- ・若者が選ぶまちを打ち出すのであれば、若者に対する施策を売りとしてあるといい。「若者が選ぶまち」+「誰もが活躍するまち」というのは被っている部分がある。柱に SDGs を入れるならば、「若者を含めた誰もが活躍するまち」であると打ち出し、シニアに対する手当もある、ということパッケージ化すべき。
- ・私学を中心に教員の発想で「成功者は東京」というイメージが植え付けられていると聞く。高校くらいまでにそういうマインドが出来上がると、東京に出ていった若者を呼び戻すのは難しい。地方に対するイメージを東京都とイコールに考えられるようにする授業などの仕組みを作らないといけない。教員のマインドを変える必要があるかもしれない。

委員 F

- ・認知症神戸モデルを含め、既にやっている事業も含め、アピールとして出していくべきだと思う。若い世代にとって介護も重要。介護をする人に対する支援があるということを伝えると、長く住んでもらえるまちになるのでは。
- ・ビジョンの中で「暮らしやすさ」について取り上げているところが限られている。アンケートで待機児童や保育所の整備とかの要望が出ている中で、「暮らしやすさ」などを打ち出すことはできないか。病児保育が充実しているところが少ない。子供の受入環境があることは魅力。
- ・子育て支援では、子どもがいる住宅に住居手当とか。滋賀県にいるとき、栗東市が子育て支援が手厚く、若い世代が栗東市に行っていた。子育て世代は、金銭的な補助はインセンティブになる。

- ・空き家を留学生だけでなく大学生へ提供するのはいかがでしょうか。
- ・総合学習や道徳学習等、教育という観点で LGBTQ が入れれば。条例ができていない市でも仕組みづくりを考えており、相談窓口を立ち上げたりしている。大学生からは「小学生のときなどの、一番悩んだりする年代で学ぶべきだ」という意見があった。

委員 G

- ・京大に IT ベンチャーがあり、京大の事務を仕事として振っていた。大きい企業は全部自分たちでやろうとするが、地元のベンチャー企業を使ってもらえると彼らにもお金が回る。仕事があれば人は集まる。ベンチャーが神戸に支社を作ることも多いと聞く。基幹システムは大企業に丸投げなので、仕事がベンチャーに振ってこない。
- ・シリコンバレーに通うために、サンフランシスコ市内側にグーグルのバスが止まるバス停周りの値段が高騰した。例えば、西神とかに、大阪直通のバスとかがあれば、住みたい人も増えるのでは。
- ・「阪神しまなみ海道」というのが自転車乗りの間で全国的に有名。神戸空港がゴール。こういうことの PR は健康にもつながる。神戸にはコベリンなどもある。メッカになるかもしれない。
- ・小学生の時から LGBTQ が当たり前という印象があれば。ただシニア世代は、そういうことに偏見があるかもしれないので、全体的な教育も重要。

委員 H

- ・神戸市内 NPO 法人は 900 法人ほど。そのうち認定 NPO は 20 数法人なので、数パーセントしかない。ほとんど稼働できてないので、法人の成長に寄り添う施策。NPO で働きたい若者や、シニア雇用施策などに絡めていくと、非営利活動である中で、社会貢献しながら働けるという新しい形ができるのではないか。
- ・学生支援をしているある NPO は、月額で寄付を募集している。〇〇円寄附をすると、「学生一人が専門の相談員に 30 分コンサルティングを受けられる」といったように自分の寄付が何に使われているか明確にしている。そういったことをマネジメントできる人材（コンサル）を神戸市として派遣したりすれば良いのでは。
- ・シニアの方は電子申請の仕組みができて、利用できない人も多い。シニア向けの Zoom や LIN を使えるようになるための支援が進めばよい。シニアの人も、オンラインをきっかけに新しいコミュニティ形成ができ、防災の PR にもつながる。
- ・認知症に優しいまちづくりは、力を入れているのなら引き続きビジョンとして打ち出すべき。
- ・自転車施策が進むと、区レベルではあるが駐輪問題が出てくる。そこは注視して欲しい。
- ・区単位で、マンションコミュニティの活性化を政策課題としているが、マンションに住む人がより増えてくるため、コミュニティの施策を打ち出していけると、住みやすいまちのイメージがつくと思う。管理組合との連携をどうするかが問題になるが、市としてどうしていくかが課題。
- ・地域コミュニティも含め、障がい者への取組みも重要ではないか

ビジョンのテーマ（仮）

若者が選ぶまち + 誰もが活躍するまち + 「人と自然が奏でる創造のまち」

ビジョンの取組の視点・横断目標、施策の柱（仮）

取組の視点・横断目標

1. 神戸の強み（多文化共生、多様性、進取の気性）を活かしたSDGsの達成
2. あらゆる危機への平時からの備えと、人と自然が調和する神戸らしい新たな価値・スタイルの創造
3. 進化するテクノロジーの実装による市民生活の豊かさと利便性の向上（デジタル化の加速、Society5.0の推進、EBPM（エビデンスに基づく政策立案））

施策の柱

①魅力的な仕事の創出と多様な人材の確保による経済成長	②神戸独自の魅力の磨き上げと発信	③出産・子育て支援と特色ある教育環境の充実	④災害や感染症等を踏まえた社会システムの構築	⑤安心・安全、健康でゆとりあるくらしの実現	⑥将来にわたり持続可能なインフラの整備	⑦産学官連携強化と地域コミュニティの活性化
----------------------------	------------------	-----------------------	------------------------	-----------------------	---------------------	-----------------------

柱ごとの数値目標・施策・事業・事業のKPI



勘案

国の第2期「総合戦略」

- 【横断的な目標1】多様な人材の活躍を推進する
- 【横断的な目標2】新しい時代の流れを力にする（Society 5.0の推進、地方創生SDGsの実現など）

【基本目標1】 稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする	【基本目標2】 地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる	【基本目標3】 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	【基本目標4】 ひとが集う、安心してくらすことができる魅力的な地域を作る
--------------------------------------	---	------------------------------	---

ビジョンのテーマ 具体的なあるべき姿

テーマ① 若者が選ぶまち＋誰もが活躍するまち

- ・ 仕事や子育てを始め希望がかなうまちという印象を神戸に対して持ち、行動に移している。
- ・ 神戸に関心を寄せる市内外の人が増加している。
- ・ 若者、高齢者、障がい者、外国人など全ての人がそれぞれの分野（仕事、地域活動、ボランティア、趣味など）で充実したくらしを送れている。
- ・ 活躍できる環境が整っており、多様なバックグラウンドの人が集まっている。

テーマ② 人と自然が奏でる創造のまち

- ・ 多様な自然環境の中で、仕事・生活・文化など、様々な場面において、創造的で心豊かに過ごすことができる。
- ・ 人が集まり、交流し、創造性を活かし、イノベーションが創出されている。

神戸2025ビジョン 施策の柱ごとの具体的なあるべき姿・施策検討状況

①魅力的な仕事の創出と多様な人材の確保による経済成長

- ・国内外から多様な人材が流入し、競争力強化やイノベーションが起こっている。
- ・魅力的なしごとの集積や恵まれた起業環境により若年人口が増加している。
- ・市外から資金が流入するとともに市内循環が起こり、経済が成長している。

②神戸独自の魅力の磨き上げと発信

- ・国内外を問わず様々な出生地、文化、考え方を持った人が集まり、神戸独自の魅力を創出している。
- ・高い都市ブランドを持ち、市民が神戸に住んでいることに対し誇りをもつ。
- ・神戸の魅力が認知され、関係人口が増加している。

③出産・子育て支援と特色ある教育環境の充実

- ・子どもを産み育てられる環境が整っている。
- ・神戸独自の教育環境が充実している。
- ・質の高い子育て、教育環境が認知され、市外から子育て世帯が移り住む。

④災害や感染症等を踏まえた社会システムの構築

- ・災害や感染症等の対策が万全で、誰もが安全で安心して過ごせる。
- ・デジタル環境の整備が進み、誰もが生活の豊かさと利便性を享受できている。

⑤安心・安全、健康でゆとりあるくらしの実現

- ・空家や空地が有効活用され、安全の確保と都市の魅力向上につながっている。
- ・企業や地域コミュニティなどで、誰もが健康で充実したくらしを送れている。
- ・経済的格差が是正され、くらしやすい環境が整っている。

⑥将来にわたり持続可能なインフラの整備

- ・交通やエネルギーなど、都市における活動を支える社会インフラが、先進的な技術の活用などにより、環境的にも財政的にも持続可能な方法で整備・維持管理されている。

⑦産学官連携強化と地域コミュニティの活性化

- ・様々な主体の知恵や経験が集まり、社会課題解決などに取り組んでいる。
- ・多様で活力ある地域コミュニティが数多く存在している。
- ・都心エリアが賑わい活性化している。

神戸2025ビジョン 施策検討状況

事業		KPI(案)
①魅力的な仕事の創出と多様な人材の確保による経済成長		
外国人が活躍する機会の創出		
1	・高度外国人材の調査・発掘・開拓	・東欧、ベトナム、インド等、対象とする地域からの理系留学生(研究員含む)の受入人数
2	・コウベ・インターナショナルクラブの普及と積極的な情報提供	・設置支部数 ・会員数 ・シティプロモーション実施都市数
3	・外国人材が働きやすい環境を整備するための特区の創設	-
4	・アジアAI人材の留学費用、起業資金を支援する仕組みの構築	-
先端技術の活用の更なる推進		
5	・(仮)富岳との連携	-
6	・「Be Smart KOBE」の推進	・検討中
スタートアップ支援・イノベーションの創出		
7	・大学・企業と連携したスタートアップ創業支援及び起業家育成	・域内スタートアップ設立数 ・域内大学発ベンチャー設立数 ・域内スタートアップVISA認定件数
8	・スタートアップ育成・集積のための育成プログラム×UIK(フィールド提供)×投資環境整備	・支援スタートアップ数 ・VC・ファンド投資スタートアップ数
9	・シアトルをモデルとした、重厚長大産業から新産業創造への支援	-
10	・京阪神のポスドクなど技術的背景のある人材に創業資金・オフィスを提供	-
11	・生産プラントを「オープンイノベーション」の場と捉え、若者に魅力的なしごととしてPRする。	-
12	・雇用の場を生み出す企業誘致の推進	・雇用創出数
中小企業への支援		
13	・東京への進出を望む中小企業へ、東京への共同オフィス提供支援	-

神戸2025ビジョン 施策検討状況

事業		KPI(案)
六甲山における都市型創造産業の振興		
1 4	・六甲山上スマートシティ構想の推進	・「共創ラボ」の開設数 ・六甲山上の都市型創造産業誘致事業者数
持続的な農業と農村地域の活性化		
1 5	・里山・農村地域活性化ビジョンの推進	・営農組織の広域化・法人化数 ・スマート農業導入数 ・移住数 ・起業数
神戸港の港勢拡大		
1 6	・(仮)国際戦略港湾	-

神戸2025ビジョン 施策検討状況

事業		KPI(案)
②神戸独自の魅力の磨き上げと発信		
都心三宮再整備		
1	・都心三宮再整備の推進	・三宮周辺地区の建替え計画の検討件数
文化・芸術の振興		
2	・第10回神戸国際フルーツコンクールの開催	・コンクール応募者数、応募者の参加国数 ・ネットモニターに対するアンケート ・Youtube等動画配信サービスを活用したコンクールや関連イベントの視聴回数
3	・文化財の新たな保存と活用の推進	・基金からの助成件数 ・神戸歴史遺産未指定文化財の新規認定件数 ・指定文化財等の新規指定件数
食都神戸の推進		
4	・食都神戸の推進	・ファーマーズマーケット回数、来場者数 ・世界市場へ届ける神戸の「食」の開発数 ・「農」体験、活動を行う市民の人数 ・地域食材の利用を意識している割合
ウォーターフロントの魅力向上		
5	・新港突堤西地区の開発	・検討中
6	・中突堤周辺地区の開発	・検討中
7	・ウォーターフロント内の回遊性促進検討	・検討中
駅前活性化		
8	・駅前空間の魅力創造	・駅前空間クオリティアップの整備完了数
9	・地下鉄沿線の図書館整備と併せたコワーキングスペースの整備によるテレワークの推進	-
観光推進(仮)		
10	・(仮)観光推進	-
首都圏等への神戸の魅力発信による移住促進		
11	・首都圏と神戸市の生活コストの違いを分かりやすく発信	-

神戸2025ビジョン 施策検討状況

事業		KPI(案)
LGBTQに対する施策		
1 2	・LGBTQに対する施策	-

神戸2025ビジョン 施策検討状況

事業		KPI(案)
③出産・子育て支援と特色ある教育環境の充実		
神戸の特色ある学び(創造的学び、国際教育等)の推進		
1	・こどもの創造的学びのプラットフォームと助成制度の創設	・こどもの創造性を育むプログラムを市内で展開する団体数
2	・神戸市外国語大学における「世界と神戸を結ぶ」グローバル人材の育成	・検討中
3	・著名人によるオンライン授業の実施	-
4	・SDGsを教育に取り込み、キャリア教育のきっかけに	-
生きる力と夢を育む教育の推進		
5	・GIGAスクール構想の実現とこれからの時代に求められる学校教育の推進	・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う」児童生徒の割合
6	・子どもたちが生き生きとした安全・安心で楽しい学校の構築	・「自分にはよいところがあると思う」児童生徒の割合
仕事と子育ての両立支援		
7	・待機児童対策	・教育・保育施設等の利用定員
8	・保育士等の負担軽減(保育関連業務の効率化)	・希望するすべての施設での導入
9	・病児保育事業	・検討中
10	・親子連れで利用できるテレワーク環境の整備	-
11	・半官半民、習い事を兼ねる等、学童の充実	-

神戸2025ビジョン 施策検討状況

事業		KPI(案)
妊娠・出産・子育ての支援		
1 2	・在宅育児支援	-
1 3	・地域子育て支援拠点の整備	・こべっこあそびひろば 整備数 ・おやこふらっとひろば 整備数
1 4	・子育て施策全体の効果的な情報発信	-
1 5	・育休ママ向けの交流の場の提供	-

神戸2025ビジョン 施策検討状況

事業		KPI(案)
④災害や感染症等を踏まえた社会システムの構築		
防災・減災の取組み		
1	・(仮)最大災害想定(津波・高潮・洪水・土砂災害・南海トラフ)への対応	-
2	・災害時の情報の「見える化」の推進 ・災害時の外国人に対する情報の精査	-
3	・「withコロナ」時代における安定的な消防体制の確立	・電子申請化済みの申請種別数 ・感染防止資器材の備蓄量
4	・(仮)災害に強いみなとづくり	-
新しい生活様式への対応		
5	・図書館サービス自動化の推進	・図書館システム導入時の本格実施
6	・自転車の利活用促進	・シェアサイクル会員数
ICTの一層の活用、行政のIT化		
7	・GIGAスクール構想の実現とこれからの時代に求められる学校教育の推進(再掲)	・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う」児童生徒の割合(再掲)
8	・(仮)来庁不要の市民サービスの向上	-
9	・地域団体向けの電子申請の仕組みを検討	・検討中

神戸2025ビジョン 施策検討状況

事業		KPI(案)
⑤安心・安全、健康でゆとりあるくらしの実現		
安心して暮らせるまちに向けた取組み		
1	・空き家・空き地の流通促進	・補助件数 等
神戸医療産業都市の推進		
2	・神戸未来医療構想の推進	・国産手術支援ロボットに実装された新技術の件数
3	・(仮)ヘルスケア分野のエコシステムの創造	-
医療の変革		
4	・先制医療の推進	-
5	・行政が保有するデータを活かしたフレイルチェックの推進	-
6	・(仮)オンライン診療の促進	-

神戸2025ビジョン 施策検討状況

事業		KPI(案)
⑥将来にわたり持続可能なインフラの整備		
きめ細やかで持続可能な交通環境の形成		
1	・MaaSの導入	-
2	・大型バスの最適配置	・市バスの乗車効率
3	・小規模な移動手段の導入検討	・小規模な移動手段の導入地区数
4	・新たなモビリティサービスの導入支援	・新たなモビリティを活用した事例数
5	・自転車の利活用促進(再掲)	・シェアサイクル会員数
交通インフラの整備		
6	・大阪湾岸道路西伸部関連事業	・神戸西バイパス整備後の第二神明道路の交通量(台/日)
7	・神戸空港のさらなる機能強化	・検討中
8	・(仮)空港島の利活用	-
今後のエネルギー政策		
9	・ポートアイランドでの効率的なエネルギー利用の社会実証に向けた検討	・温室効果ガス減少割合 ・FCV台数 ・水素ステーション基数
10	・産官学官連携による水素エネルギー利活用に向けた施策展開	-
11	・さらなる再生可能エネルギーの導入に向けた施策展開	-
12	・デジタル化されたサービス産業への転換によるエネルギー消費・環境負荷の減少	-
13	・再生可能エネルギーを使って水素を生成する仕組みづくりを、神戸市が西日本の拠点となり先導	-

神戸2025ビジョン 施策検討状況

事業		KPI(案)
持続可能なまちづくり		
1 4	・コンパクト・プラス・ネットワークの推進(都市空間向上計画)	自動車分担率 新規就農者数 農村部への移住・起業数 防災上課題のある箇所の人家の減少数

神戸2025ビジョン 施策検討状況

事業		KPI(案)
⑦産学官連携強化と地域コミュニティの活性化		
在住外国人との共生の推進		
1	・総合的な日本語学習プラットフォームの構築	・市内日本語教育推進拠点数 ・地域日本語教室における学習者数 ・企業等への日本語教師の年間紹介件数
2	・在住外国人への情報発信及び言語サービスの充実	・外国人も対象となる広報物の多言語(英中越・やさしい日本語)対応率 ・外国人向け双方向型情報共有ネットワークの提携拠点数
3	・地域コミュニティへの外国人流入の活性化	-
4	・民間住宅や市営住宅の空き家の外国人留学生への提供	-
地域活動の活性化		
5	・地域団体向けの電子申請の仕組みを検討(再掲)	・検討中
6	・「地域活動協議会」を参考とした各団体統合	-
大学との連携促進		
7	・地域連携プラットフォーム(仮称)構築の検討	・「地域連携プラットフォーム(仮称)」の構築
8	・外国人留学生の戦略的獲得と定着	・市内留学生数(大学、短大)
地下鉄海岸線沿線やHAT神戸、ポートアイランドの活性化		
9	・兵庫運河の魅力づくり(夜間景観・プロムナードの延伸)	・ライトアップ整備箇所 ・プロムナード整備延長
10	・HAT、ポートアイランド、六甲アイランド活性化	

神戸2025ビジョン策定スケジュール

有識者検討会議の日程及び主な検討事項等(予定)

第1回会議:7月中

- 神戸市内外を取り巻く状況説明
- ビジョンのテーマ、施策の柱等全体構成についての検討

第1回・第2回WG:8月～9月上旬

- 神戸市内外を取り巻く状況説明
- 神戸2025ビジョンにおいて取り組む施策アイデアの案出
- 施策の柱ごとの基本的方向性、施策、主要事業とKPIIについて意見交換

第2回会議:9月14日(月)

- ワーキンググループ議論の報告
- 神戸2020ビジョン総括検証報告
- 全体構成、あるべき姿の検討

第3回会議:10月16日(金)

- 新型コロナウイルス感染症による影響、若年層の意識・消費動向等調査の報告
- 神戸2025ビジョン(素案)についての検討

11月

素案の完成

12月～1月

パブリックコメント

3月

「神戸2025ビジョン」完成

2025 ビジョン策定に向けた各アンケート調査結果からの示唆

1. 在住者アンケート

■神戸に継続して住み続けてもらうために

- ・「神戸市に住み続けたいか」という質問に約 60%の人は「住み続けたい」と回答。一方、「住み続けたいと思わない」人も 10%弱いる。
- ・神戸市に住み続けたい理由は、「交通の利便性」が最も多く、「地域の様子・雰囲気」が気に入っている」がこれに続く。一方、住み続けたくない理由は、「子育てをする環境が整っていない」が最も多く、「経済的な活気がない」がこれに続く。

※ ネットモニターアンケートの結果

今年実施したネットモニターアンケートの「2020 ビジョンの施策の柱のうち取組みが足りないと感じるもの」という質問の結果も「若者に魅力的な仕事づくり」や「若い世代の結婚・出産・子育て・教育を優先できる社会システムづくり」という回答が多かった。

⇒「子育て環境の充実」、「経済の活性化」は重点的に取り組む必要。「子育て環境の充実に」に関しては、PRにも力を入れていかねばならない。

■「理想的な子どもの数」を持っていただくために

- ・「理想的な子どもの数」よりも「予定している子どもの数」の方が少ない傾向。
- ・「子供を産み、育てるために必要な取り組み」では「保育所等、保育施設の拡充」と答えた人が最も多い。

⇒保育施設の拡充には引き続きしっかりと取組まなければならない。各地域の状況を分析しながら、対応していくことが必要。

■神戸市に対する評価から

- ・各分野の評価に関し、「魅力的な住まい」や「良好な住環境」などの「暮らす環境」、「神戸に住むことへの誇り」や「都市としてのブランド」などで特に高い評価を得ている。
- ・「楽しむ場所」としての評価に関しては、「食の充実」に対し高評価を得ている一方、「若者を惹きつけるような都市づくり」は比較的低い評価となっている。

⇒高評価を得ている「暮らす環境」や「都市としてのブランド」は引き続き維持・向上するとともに、PRを通して人口流入に繋げていかなければならない。

⇒若者を惹きつけるために、「食の充実」といった強みは伸ばしていく一方、再開発などを通してより魅力的な都市をつくっていくことが重要。

2. 転入者・転出者アンケート

■転入・転出理由から

- ・転入・転出理由は、どちらも「結婚」のほか、回答者や配偶者の「就職・転職」、「転勤」が多い。

⇒仕事と居住地の移動はセットであることが改めて確認できたことから、成長分野や雇用創出効果の高い企業の誘致を進めていくことが重要。

■Uターン意向から

- ・転入者のうち約35%の方が「神戸に以前住んだことがある」と回答し、また転出者のうち約50%の方が「将来神戸市に戻ってきたい」と回答。

⇒Uターン希望者は一定数いることが確認できたことから、これらの層に継続的にアプローチを続けていかなければならない。

3. 大学生アンケート

■就職に関する意識から

- ・大学生の出身地の約70%が「市外」また現住所の約45%が「市外」と、市外から多くの人が神戸の大学に通っている。
- ・就職希望地や居住希望地では「神戸市」は約35%~40%に留まっており、実際に市内の企業等に就職活動を行っている割合も約35%に留まっている。
- ・勤務地の応募先を決める際には「業種」や「職種」が重視される。

⇒市外から神戸の大学に通っている層を卒業後取り込めていない状況が続いている。特に重視される「業種」や「職種」について、若者に魅力的なものは何なのかの分析を進め、企業誘致、産業創出を行っていくことが重要。

■就職情報の入手方法から

- ・市内企業等に就職活動を行っていない理由として、「就職情報を得にくい」という回答も一定数ある。
- ・市内企業等の情報の入手方法としては、「大学内での説明会」や「企業を集めた就職フェア」が比較的重視されている。

⇒市内企業等に関する情報を希望する学生にしっかりと届けていくことも必要。

4. 市在住外国人グループインタビュー

■市の強み及び弱みから

- ・「多文化を受け入れる包容力」に強みがある一方、多言語対応や情報発信、コミュニティの確保などに課題がある。
- ・インタビュー参加者の中の数人は一度神戸を離れたが、愛着や住みやすさなどから戻ってきた。

⇒課題に着実に対応し、「多文化共生」を進めていかなければならない。

⇒将来的に定住してもらうには、まずは一度住んでもらうことが必要である。

2025ビジョン策定に向けた 各種アンケート結果(抜粋)

アンケート実施概要

●在住者アンケート

(対象者)神戸市在住の20歳～39歳の方(令和2年5月31日時点)を対象に無作為抽出

(回答者数)479人

(属性)性別:女性59.7% 男性39.7% その他0.6%

年齢:20歳～24歳17.3% 25歳～29歳21.5% 30歳～34歳25.1% 35歳～39歳36.1%

●転入者アンケート

(対象者)本市において、令和元年5月～令和2年4月に転入届を提出した20歳～39歳の方

(回答者数)554人

(属性)性別:女性58.4% 男性41.4% その他0.2%

年齢:20歳～24歳17.4% 25歳～29歳34.0% 30歳～34歳29.5% 35歳～39歳19.2%

●転出者アンケート

(対象者)本市において、令和元年5月～令和2年4月に転出届を提出した20歳～39歳の方

(回答者数)471人

(属性)性別:女性61.8% 男性37.6% その他0.6%

年齢:20歳～24歳27.6% 25歳～29歳33.3% 30歳～34歳23.8% 35歳～39歳15.3%

●大学生アンケート

(対象者)神戸市内の大学生(3回生以上、短期大学については1回生、2回生)

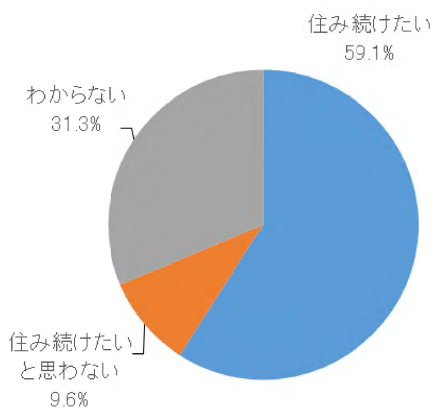
(回答者数)1,835人

(属性)性別:女性69.2% 男性30.6% その他0.3%

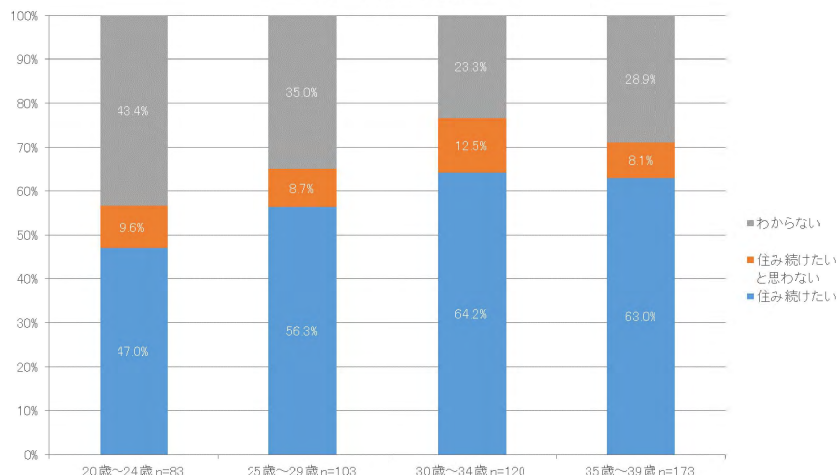
学年:3回生(短期大学は1回生)59.3% 4回生(同左2回生)35.3% 5回生以上5.3%

神戸市に住み続けたいか

神戸市に住み続けたいか(全体) n=479

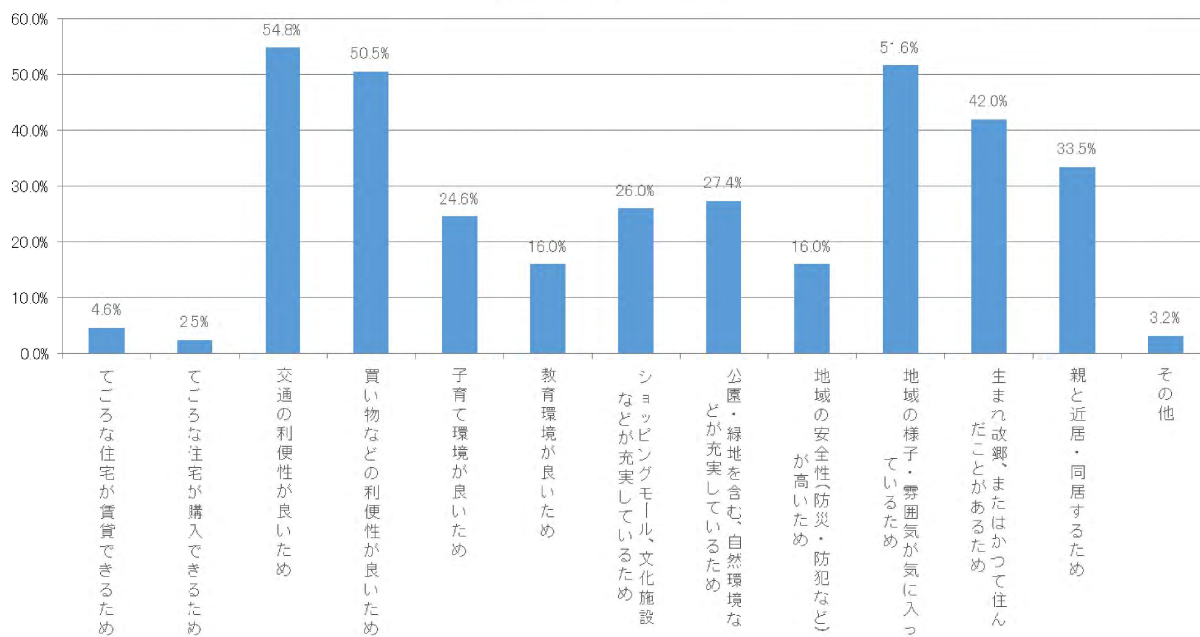


神戸市に住み続けたいか(年齢別)



住み続けたい理由

住み続けたい理由(全体) n=281

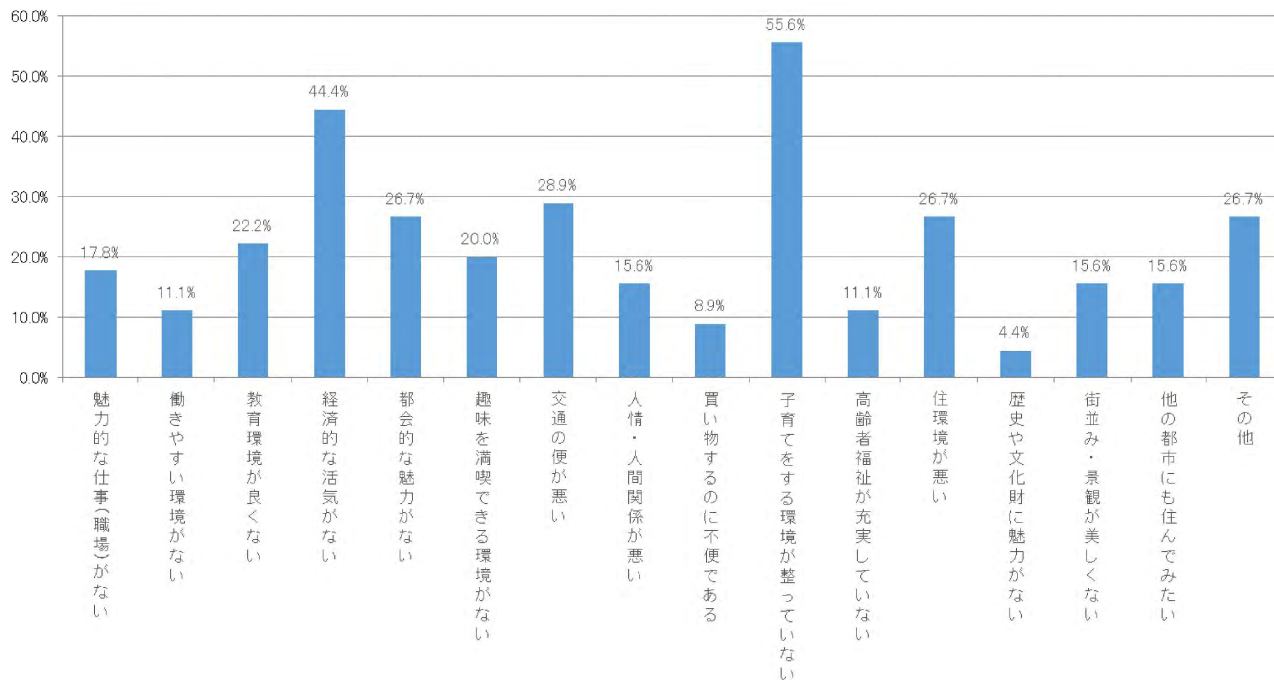


注)神戸市に「住み続けたい」とした回答者のみ

住み続けたくない理由

住み続けたくない理由(全体)

n=45

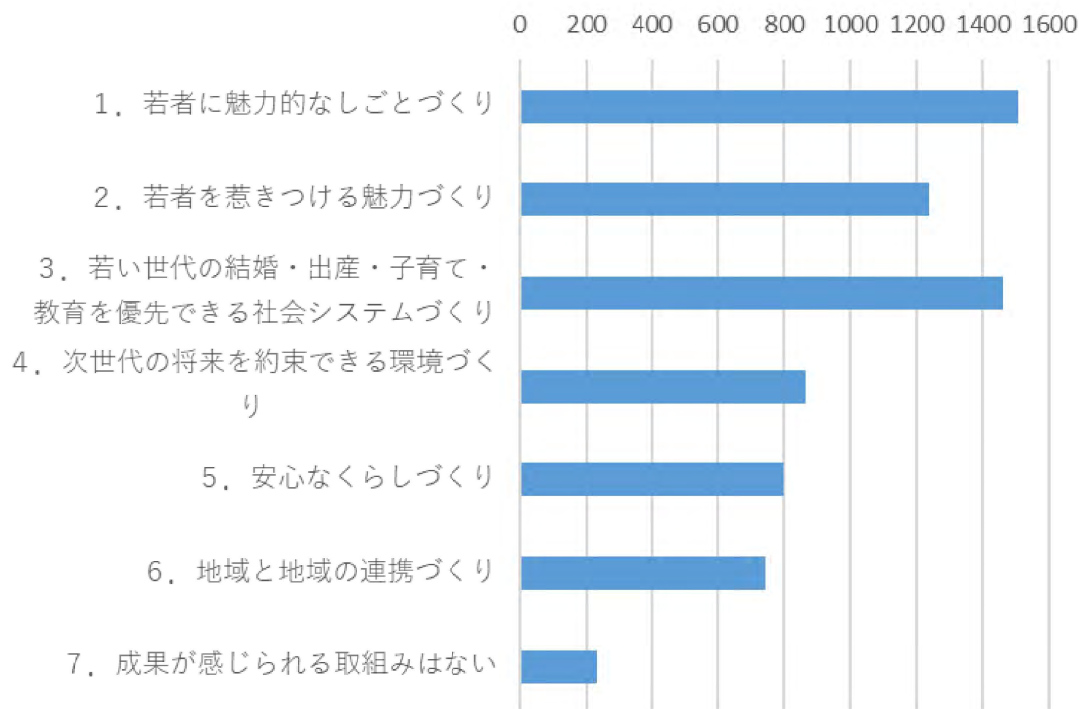


注)神戸市に「住み続けたくない」とした回答者のみ

BE KOBE 5

(ネットモニターアンケート結果)

「若者に選ばれるまち」「誰もが活躍するまち」に向けて、取組みが足りないもの



注)単位は回答者数。複数回答あり。

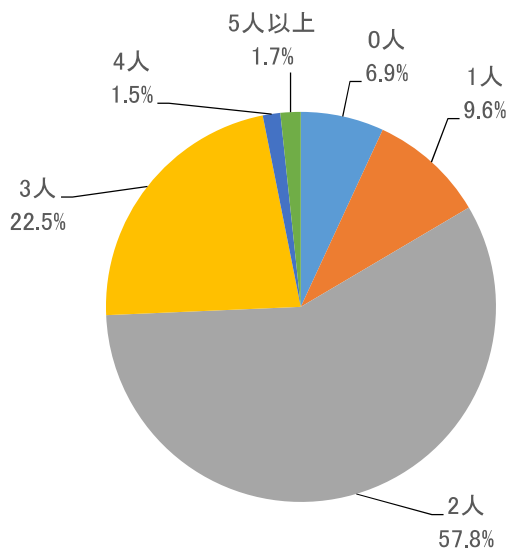


BE KOBE

理想的な子どもの数・予定している子どもの数

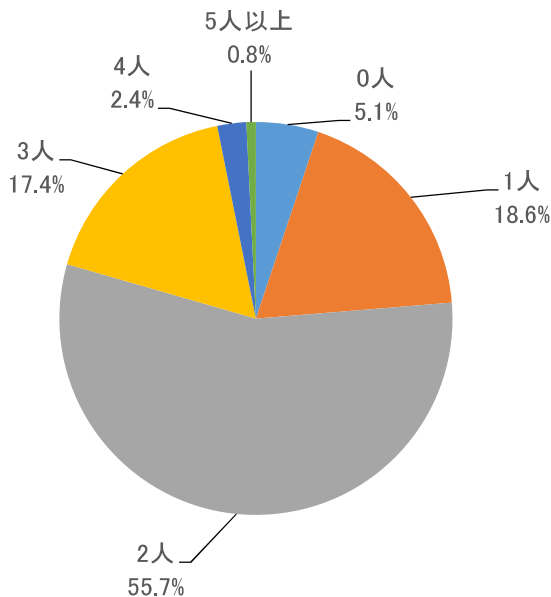
理想的な子どもの数

n=479



予定している子どもの数

n=253

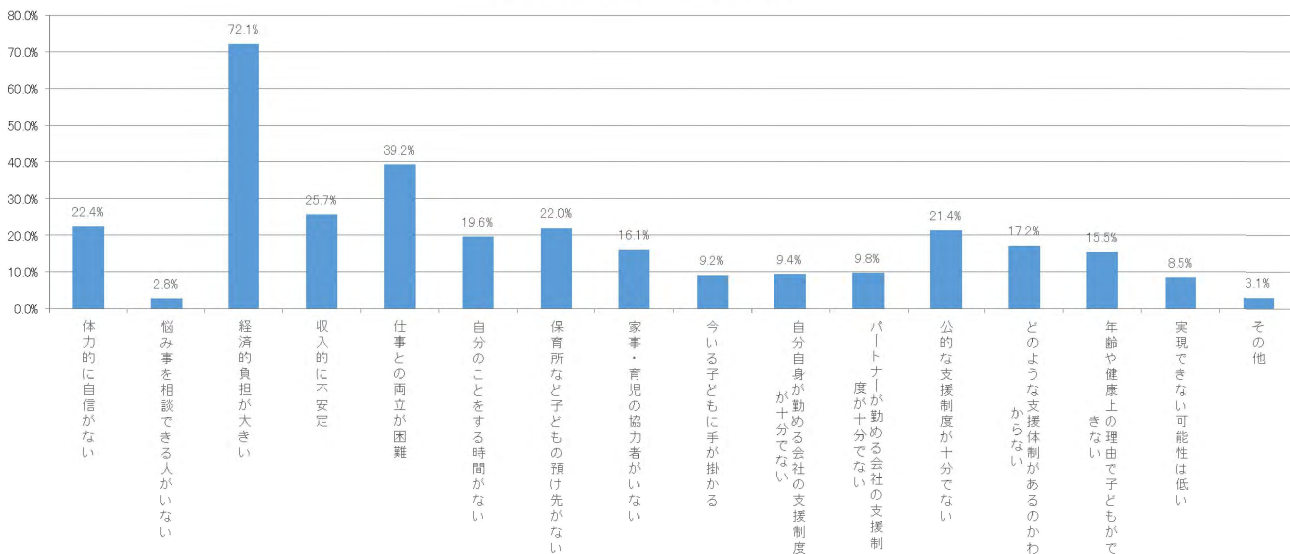


注) 予定している子どもの数は、配偶者を「有り」とした回答者のみ

子どもの数が予定数に満たない原因

子どもの数が予定数に満たない原因

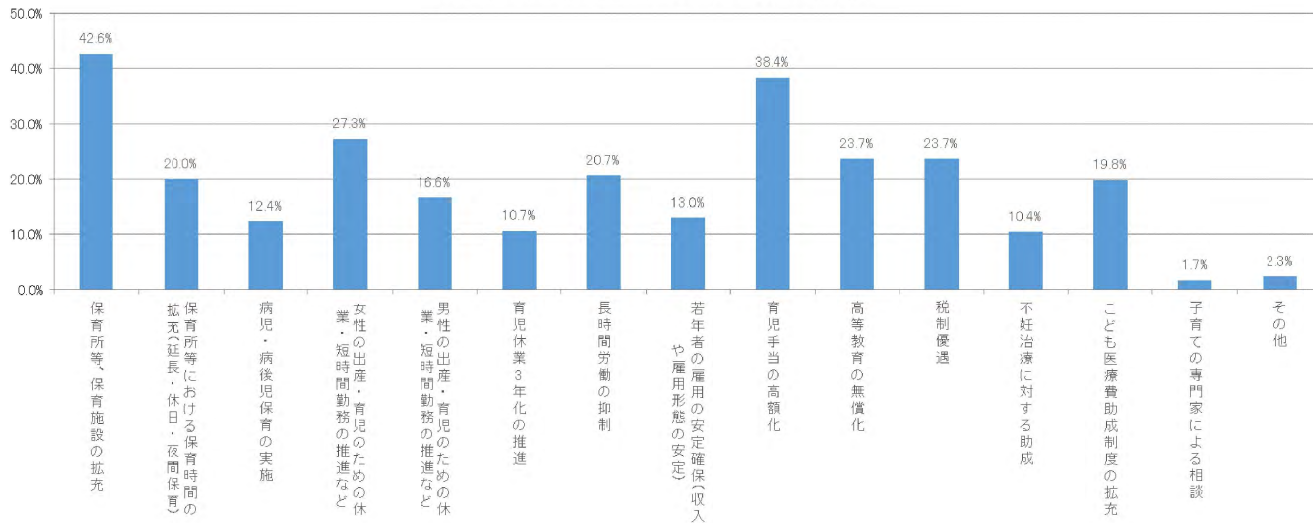
n=459



子どもを産み、育てるために必要な取り組み

子どもを生み、育てるために必要な取り組み(全体)

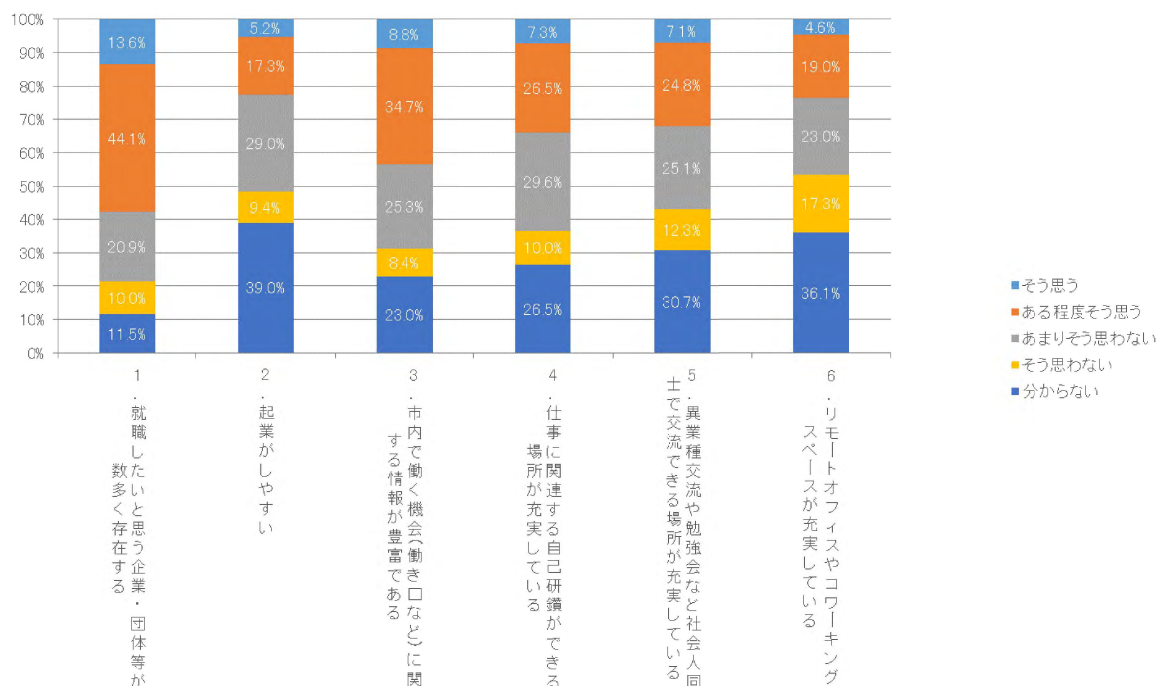
n=469



『働く希望をかなえるまち』としての神戸市に対する評価

『働く希望をかなえるまち』としての神戸市に対する評価

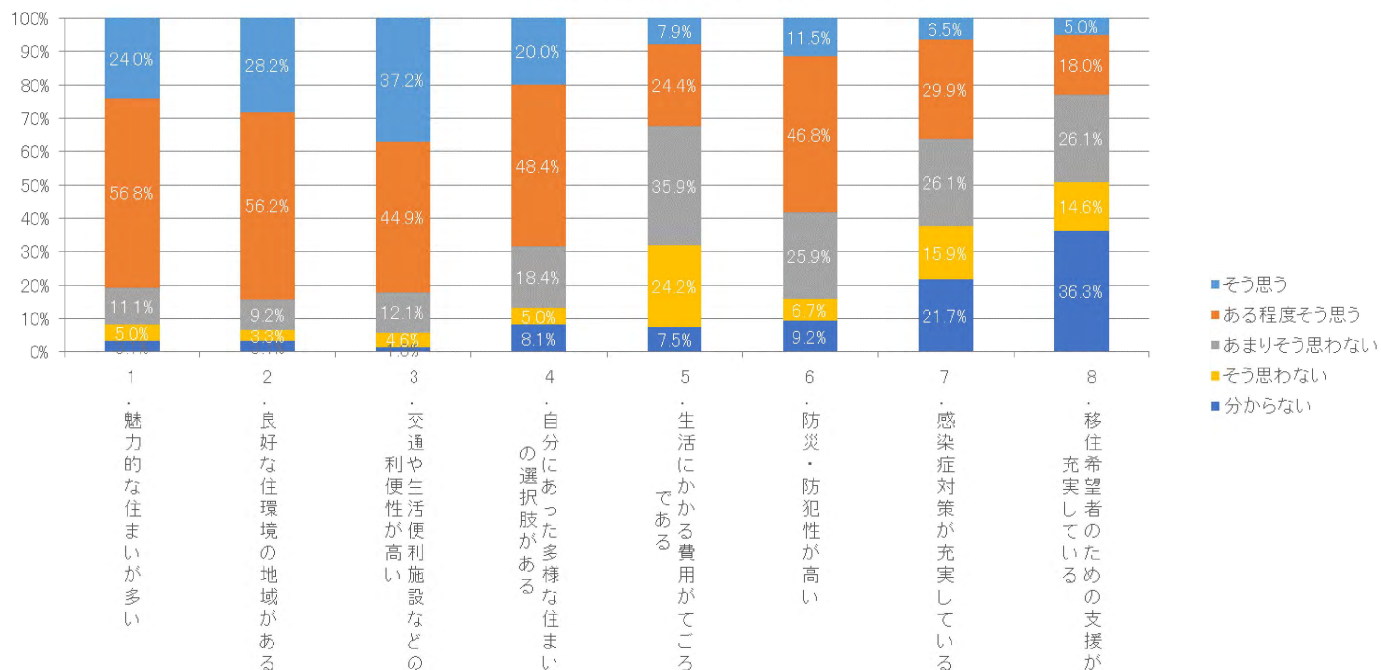
n=479



『暮らす環境』としての神戸市に対する評価

『暮らす環境』としての神戸市に対する評価

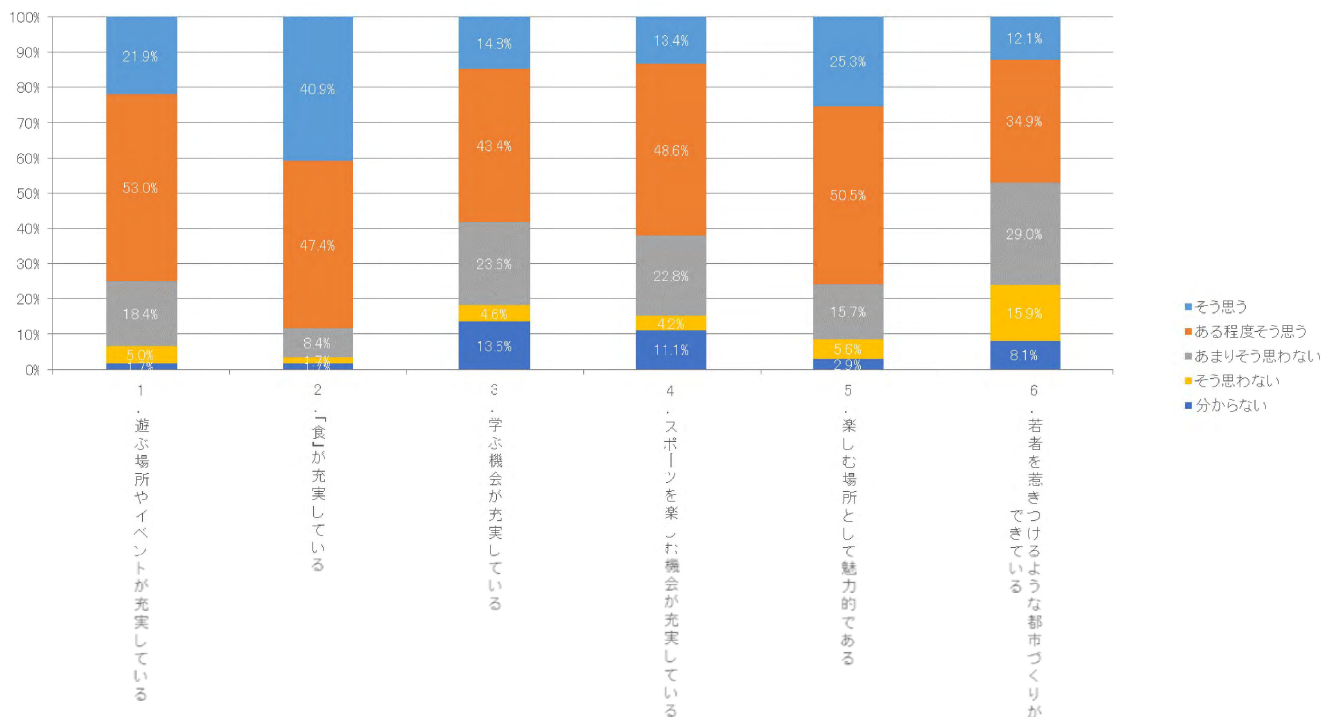
n=479



『楽しむ場所』としての神戸市に対する評価

『楽しむ場所』としての神戸市に対する評価

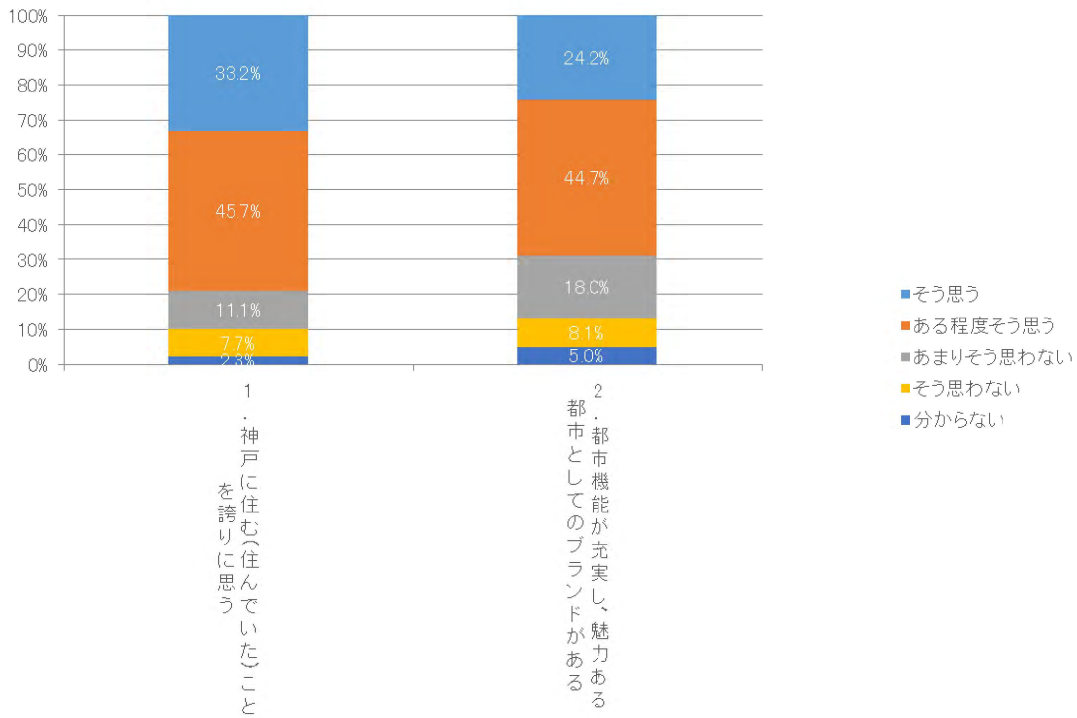
n=479



神戸市のまちとしての『価値』や『ブランド』について

神戸市のまちとしての『価値』や『ブランド』について

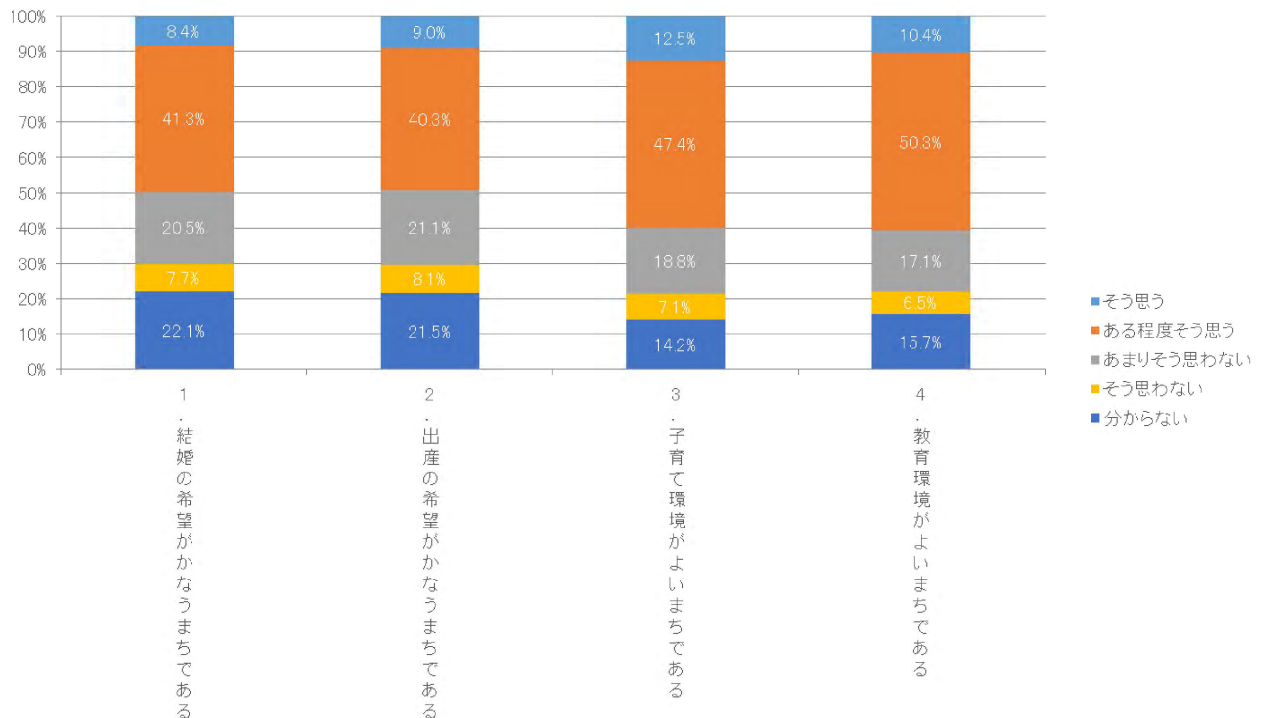
n=479



神戸市での『結婚・出産・子育て・教育』について

神戸市での『結婚・出産・子育て・教育』について

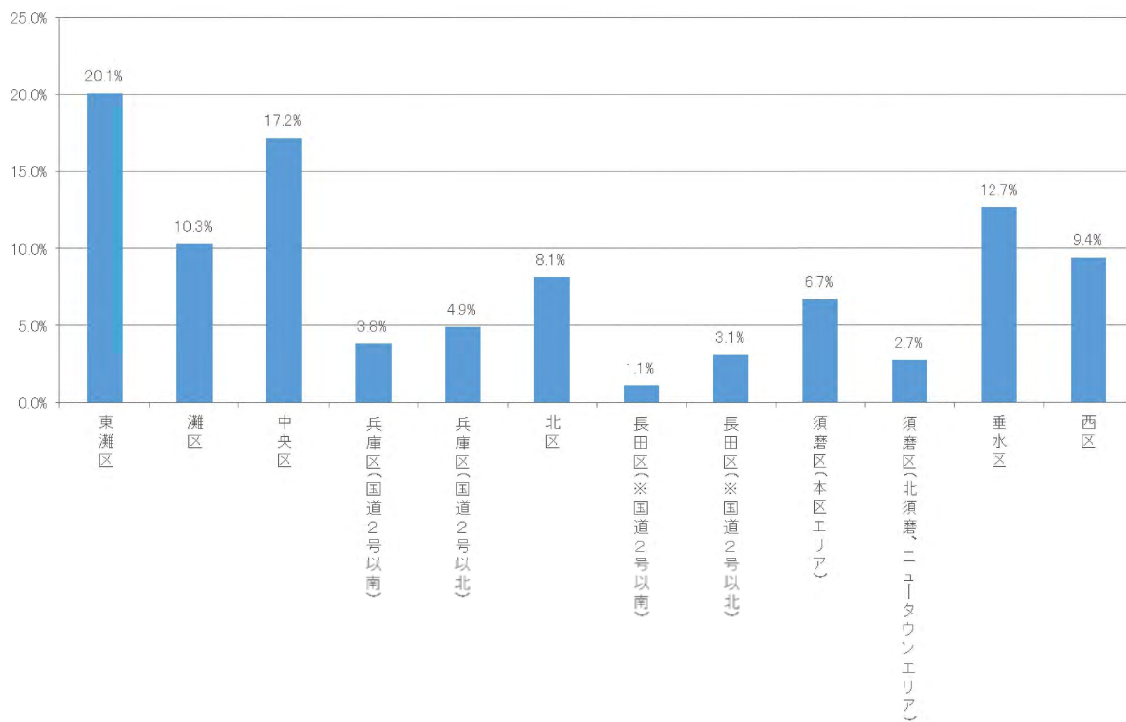
n=479



現在の住所

現在の住所(全体)

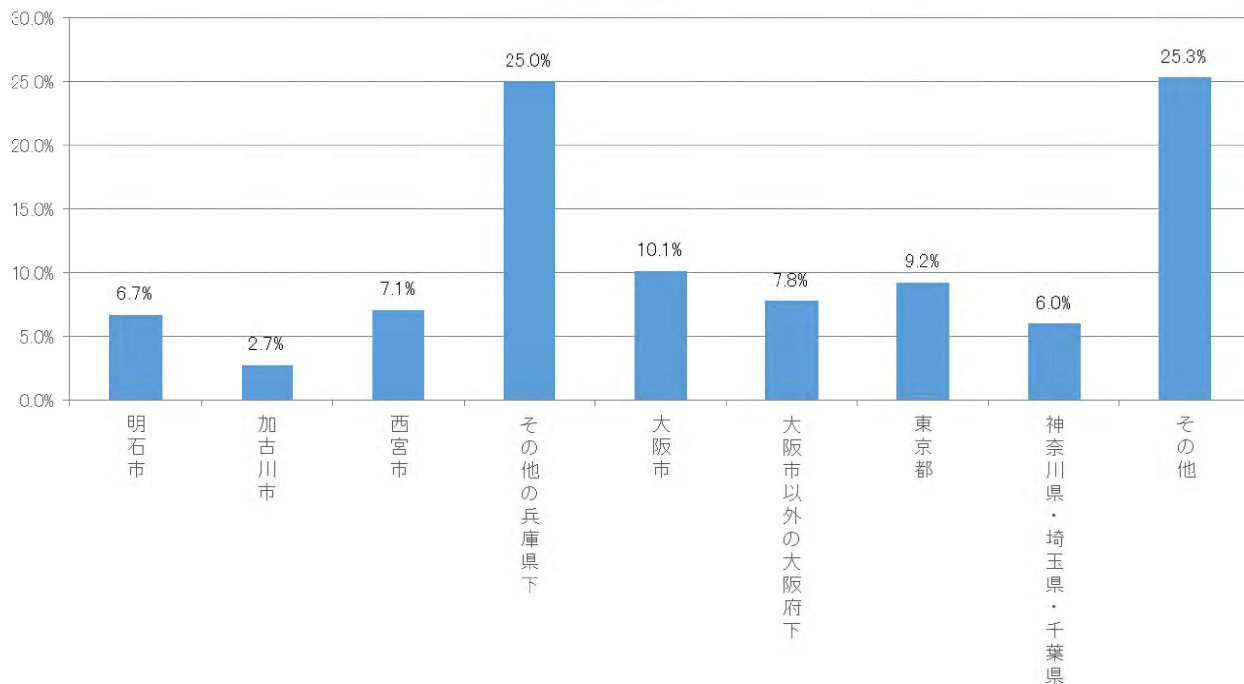
n=553



移動前の住所

移動前の住所

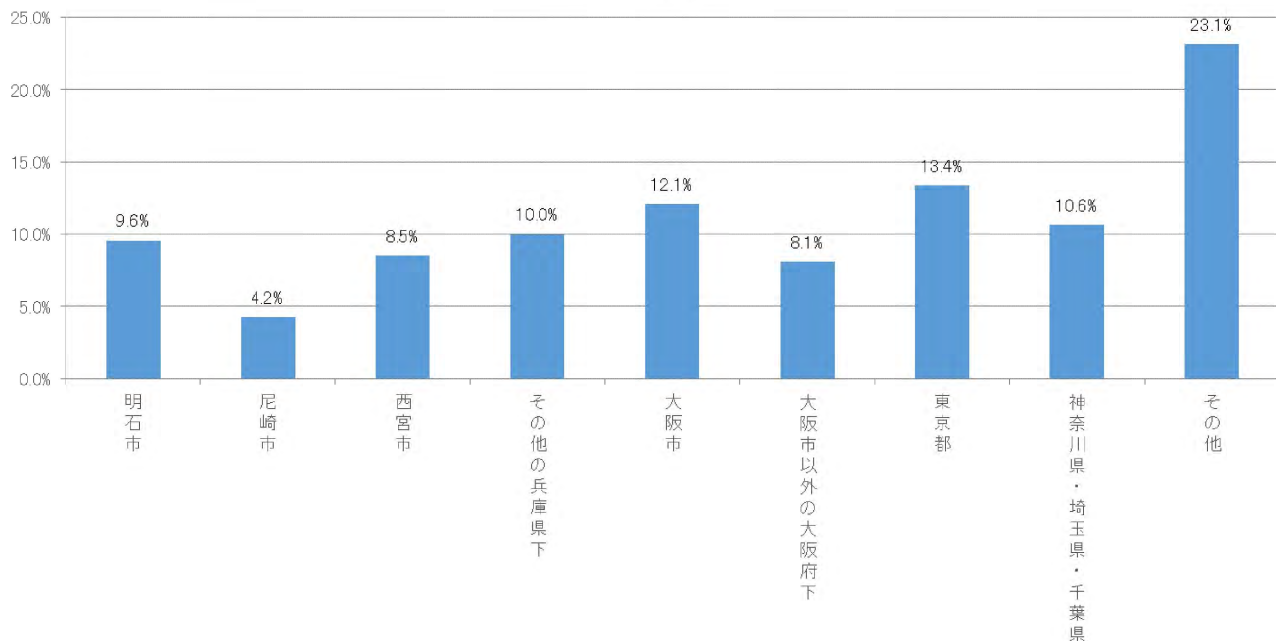
n=553



現在の住所

現在の住所

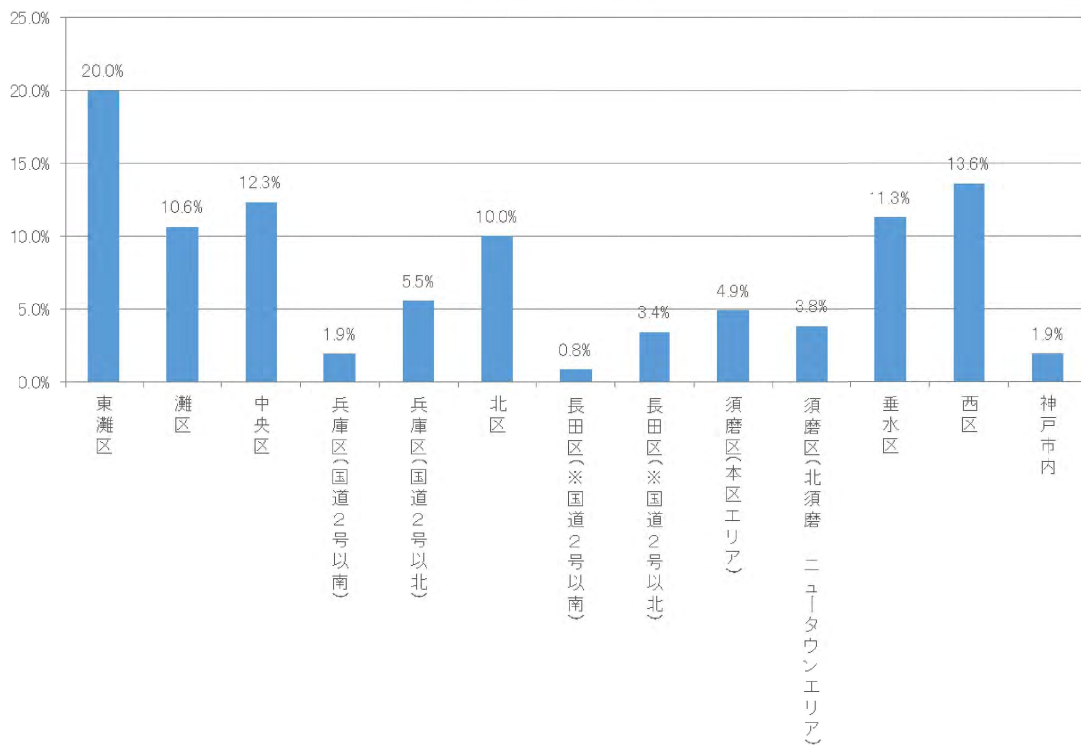
n=471



移動前の住所

移動前の住所(全体)

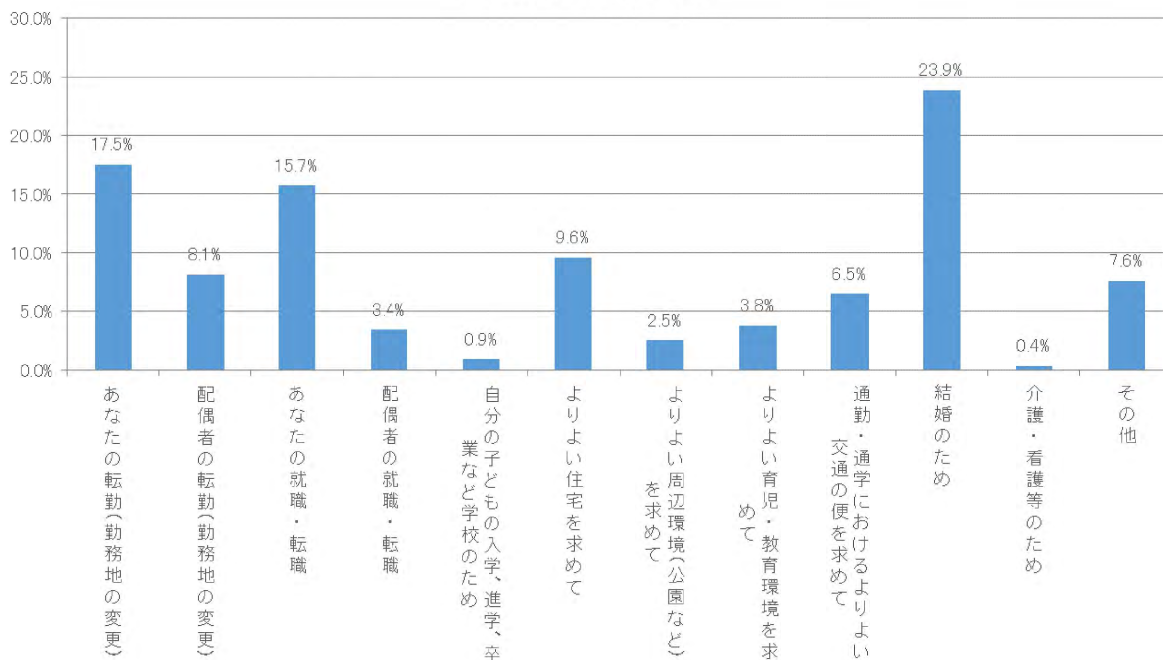
n=471



移動のきっかけ

移動のきっかけ(全体)

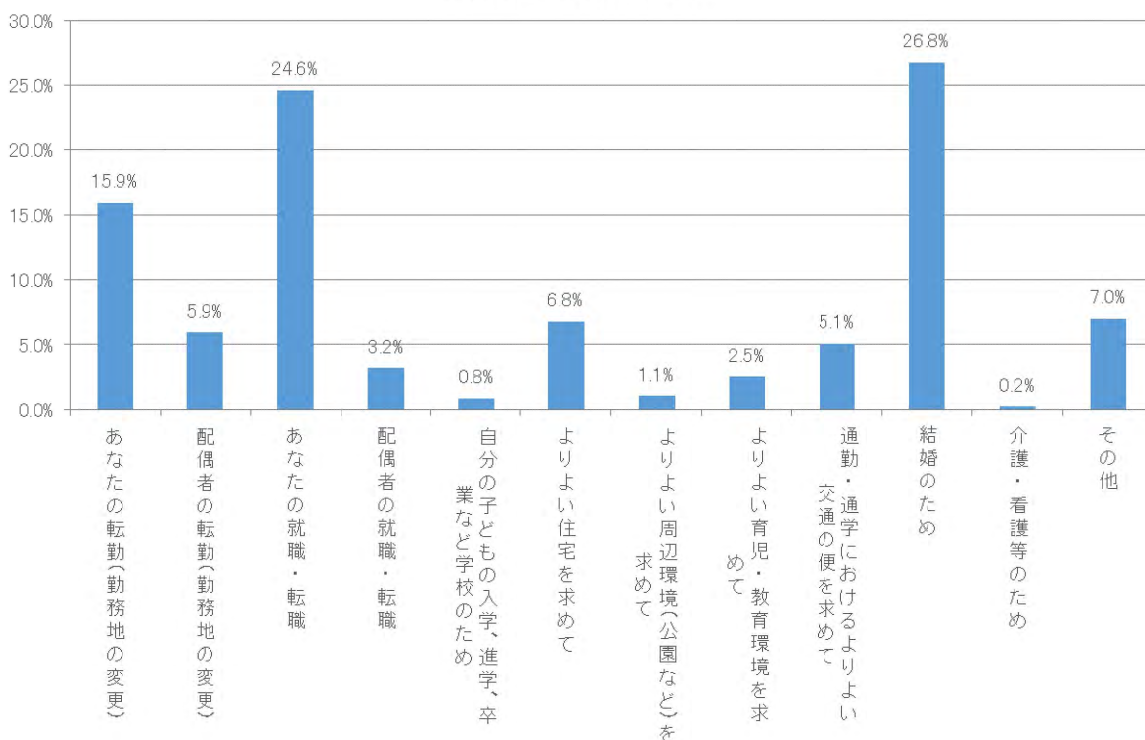
n=553



移動のきっかけ

移動のきっかけ(全体)

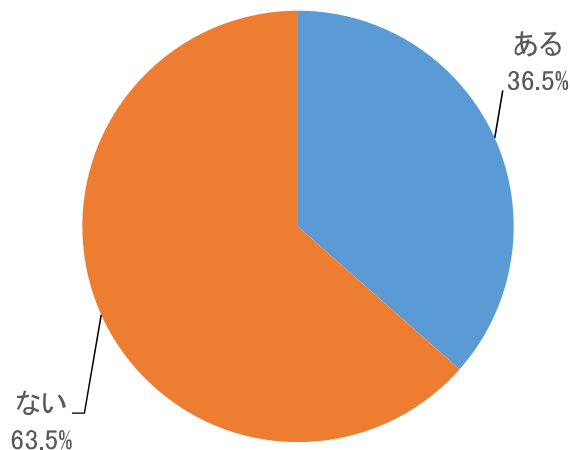
n=471



今回の転入以前に神戸市に住んでいたことはあるか

今回の転入以前に神戸市に住んでいたことはあるか

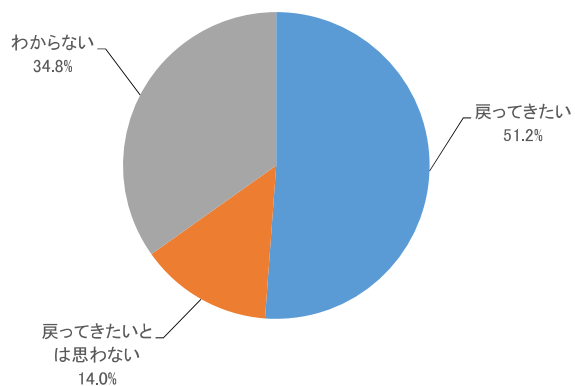
n=553



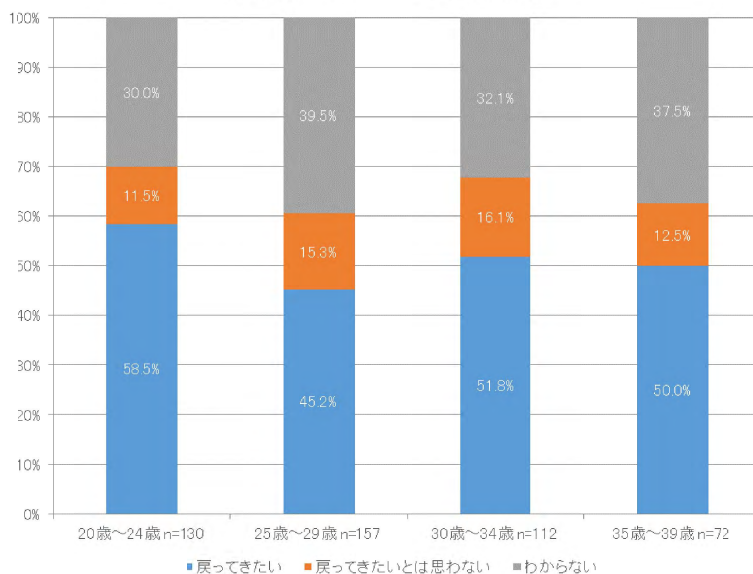
将来神戸市に戻りたいか（全体）と（年齢別）

将来神戸市に戻りたいか（全体）

n=471



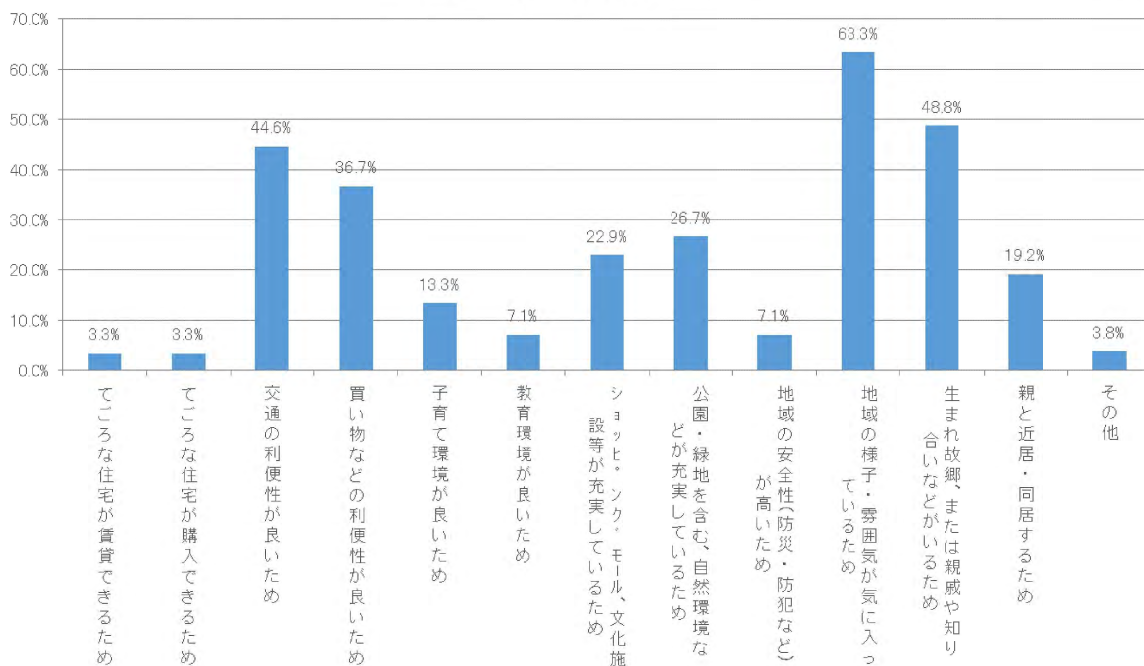
将来神戸市に戻りたいか（年齢別）



神戸市に戻ってきたい理由

神戸市に戻ってきたい理由(全体)

n=240

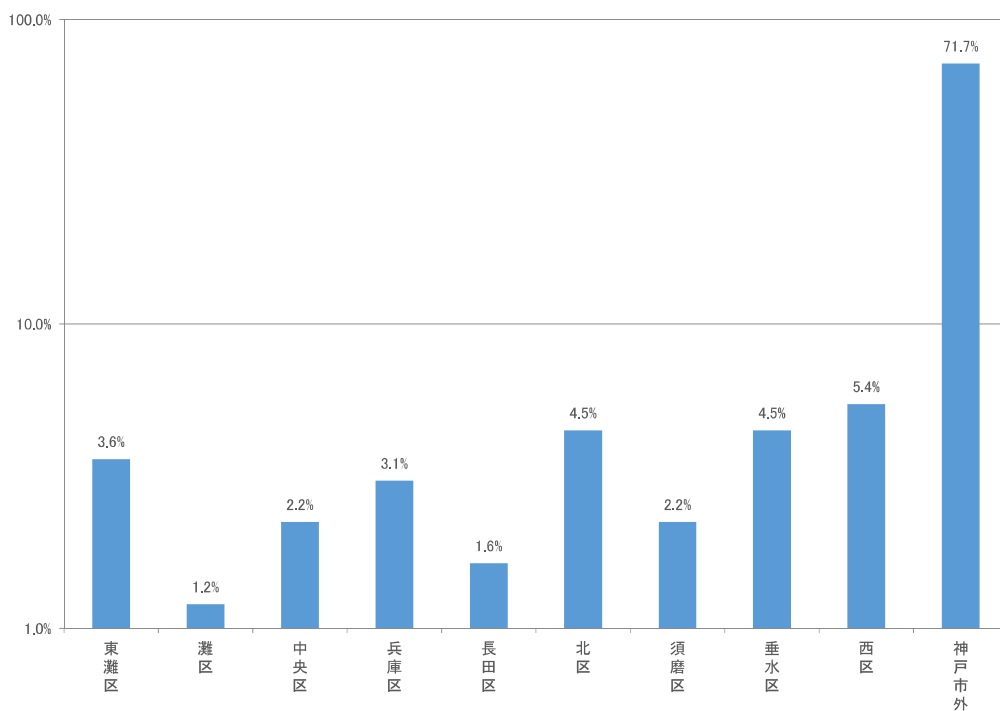


注) 将来、神戸市に「戻ってきたい」とした回答者のみ

出身地

出身地

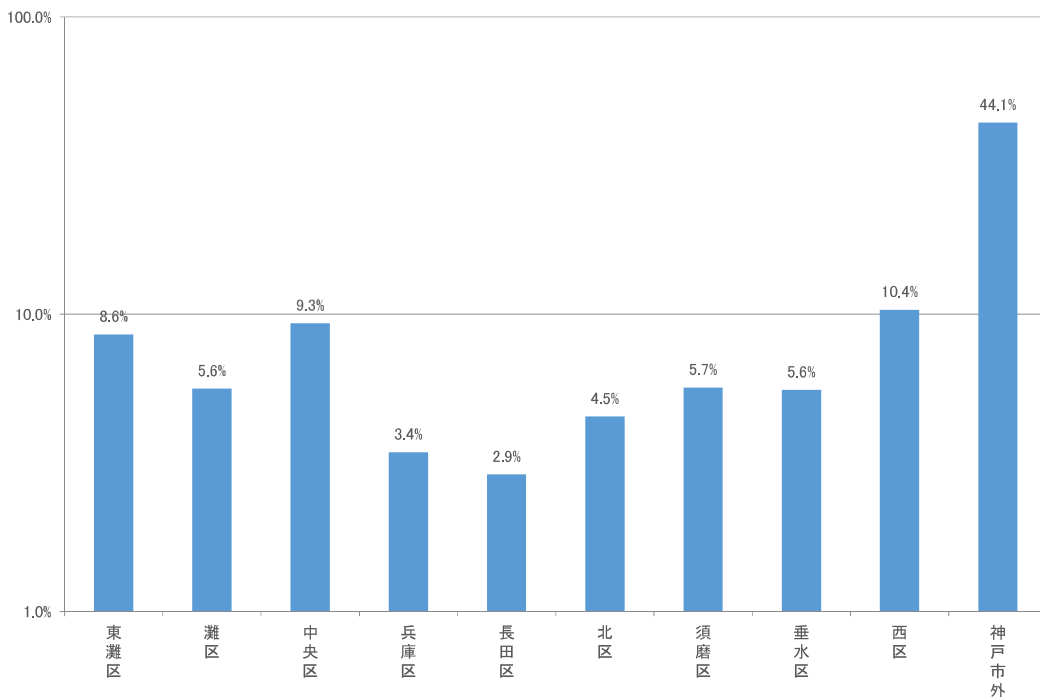
n=1,835



現在の住所

現在の住所

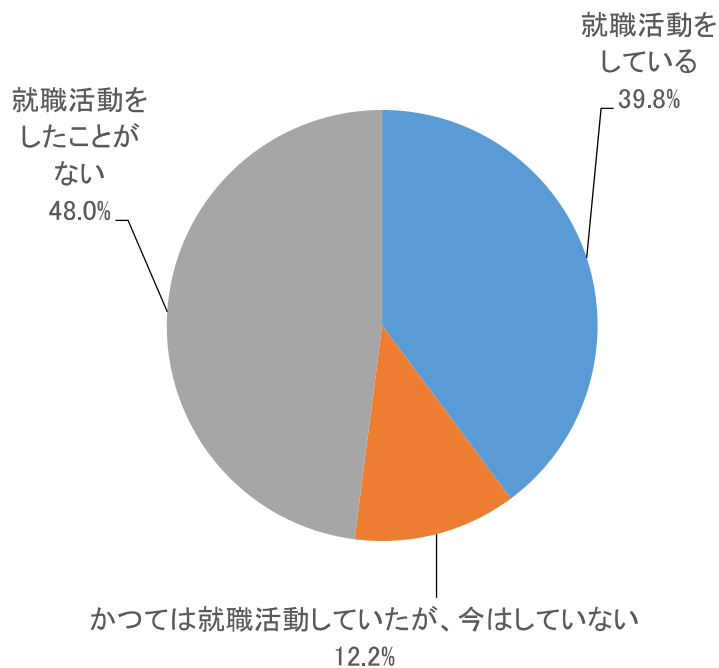
n=1,835



就職活動について

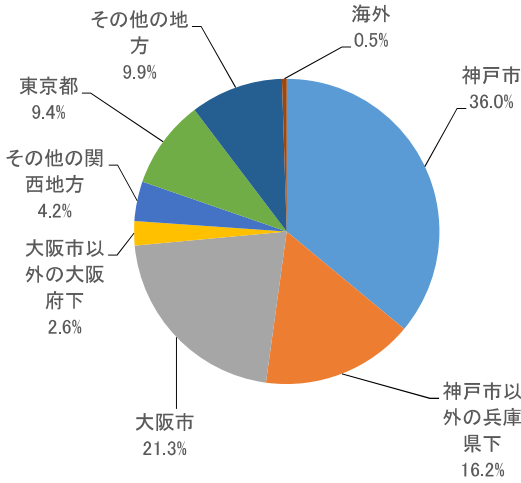
就職活動について

n=1,835

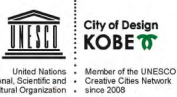
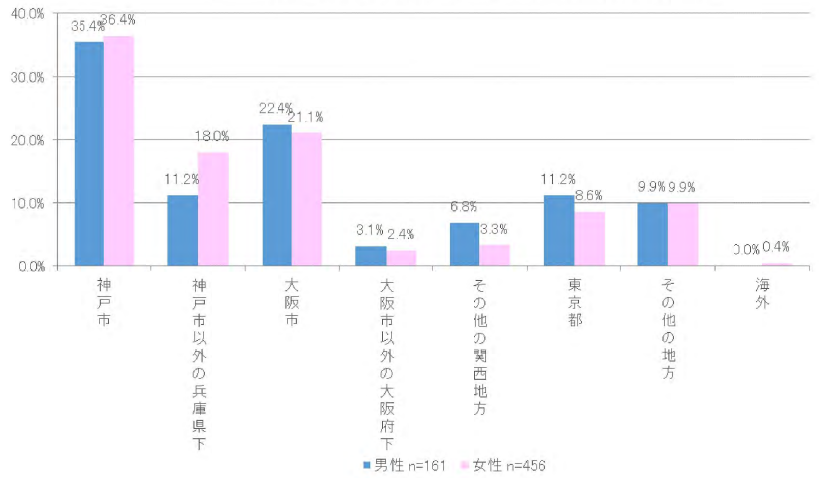


就職活動を始めた時点で最も希望していた勤務地 (全体) と (性別)

就職活動を始めた時点で最も希望していた勤務地(全体) n=619



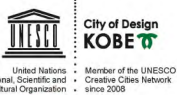
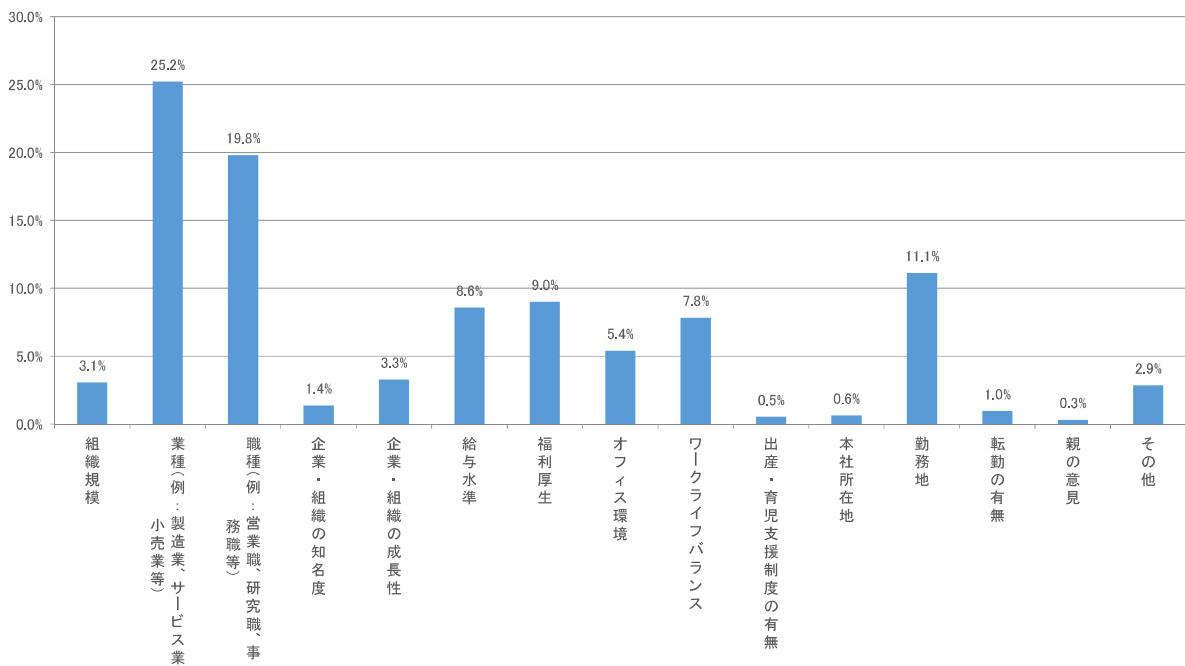
就職活動を始めた時点で最も希望していた勤務地(性別)



注)「就職活動をしている」及び「かつて就職活動をしていたが今はしていない」人のみ
注)「希望する勤務地があった」人のみ

応募先を決める際に重視したこと【1位】

応募先を決める際に重視したこと(1位) (全体) n=944

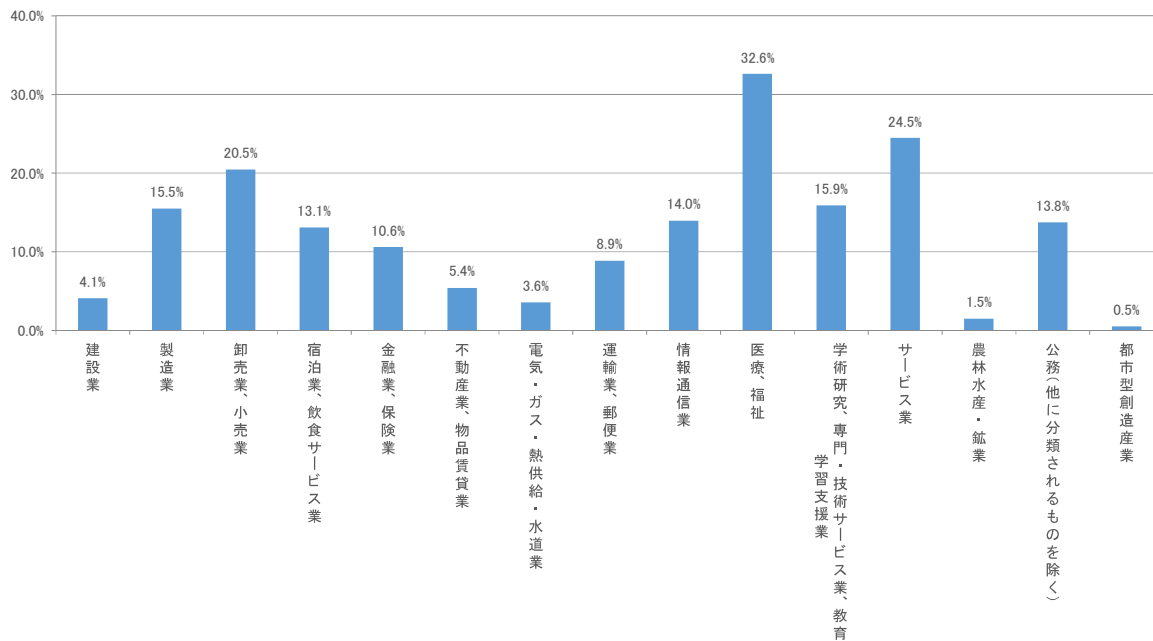


注)「就職活動をしている」及び「かつて就職活動をしていたが今はしていない」人のみ

予定または希望する就職先の業種

就職先の業種(全体)

n=923

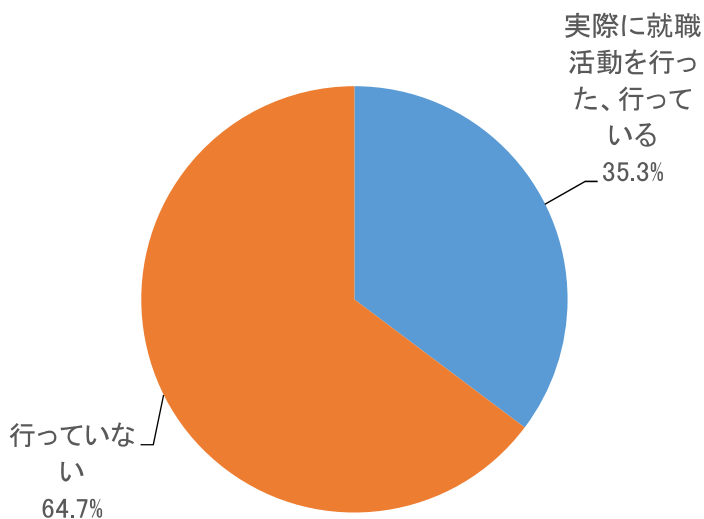


注)「就職活動をしている」及び「かつて就職活動をしていたが今はしていない」人のみ

神戸市内の企業・団体に就職活動を行ったか

神戸市内の企業・団体に就職活動を行ったか

n=936

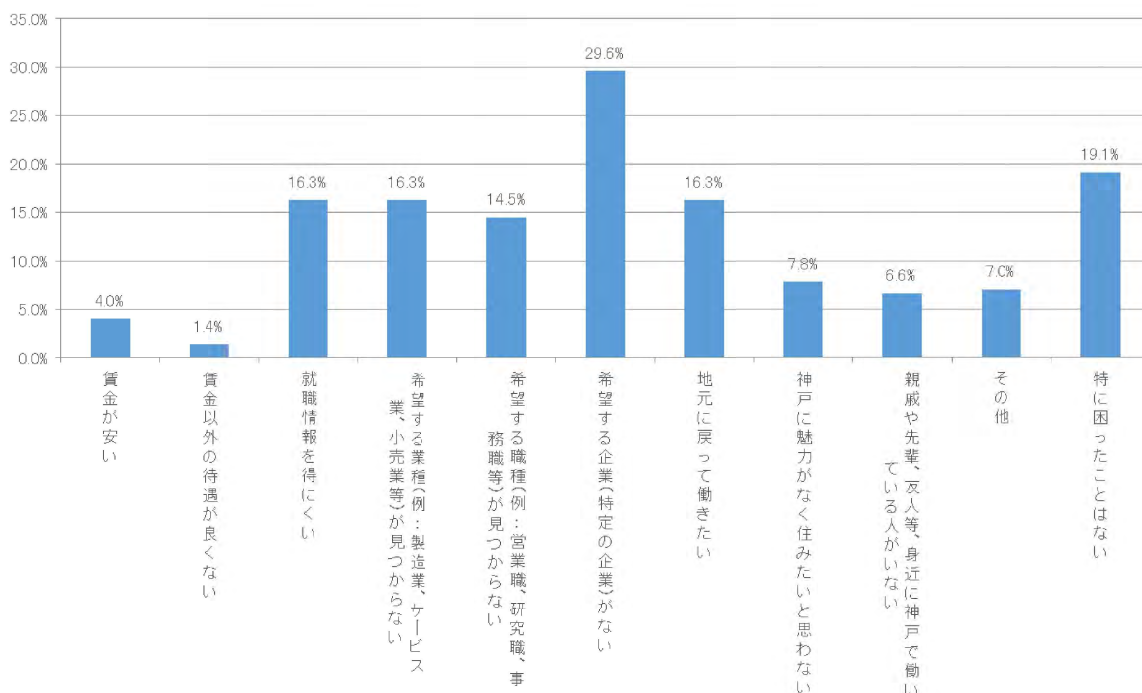


注)「就職活動をしている」及び「かつて就職活動をしていたが今はしていない」人のみ

市内企業等に就職活動を行っていない理由

市内企業等に就職活動を行っていない理由(全体)

n=497



注)「就職活動をしている」及び「かつて就職活動をしていたが今はしていない」人のみ
 注)神戸市内の企業・団体に対して就職活動を「行っていない」人のみ



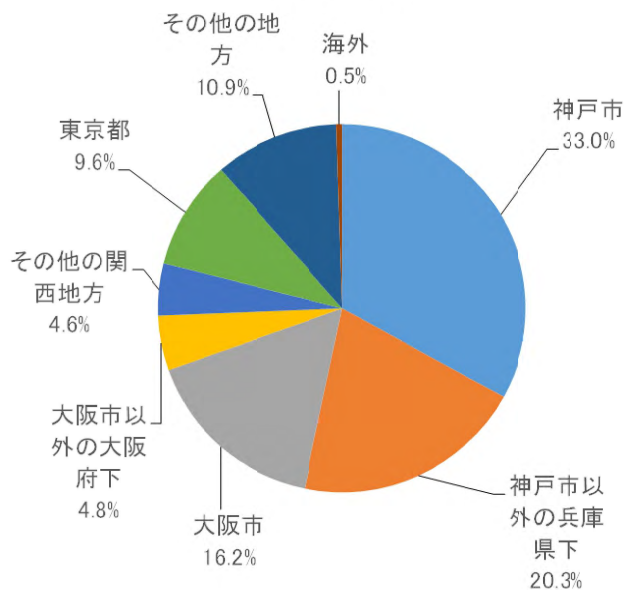
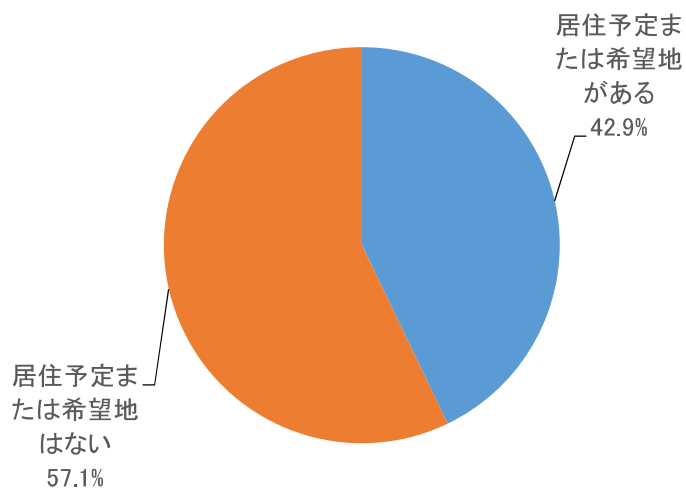
働き始めてからの居住希望地

居住希望地の有無(全体)

n=924

居住希望地

n=394

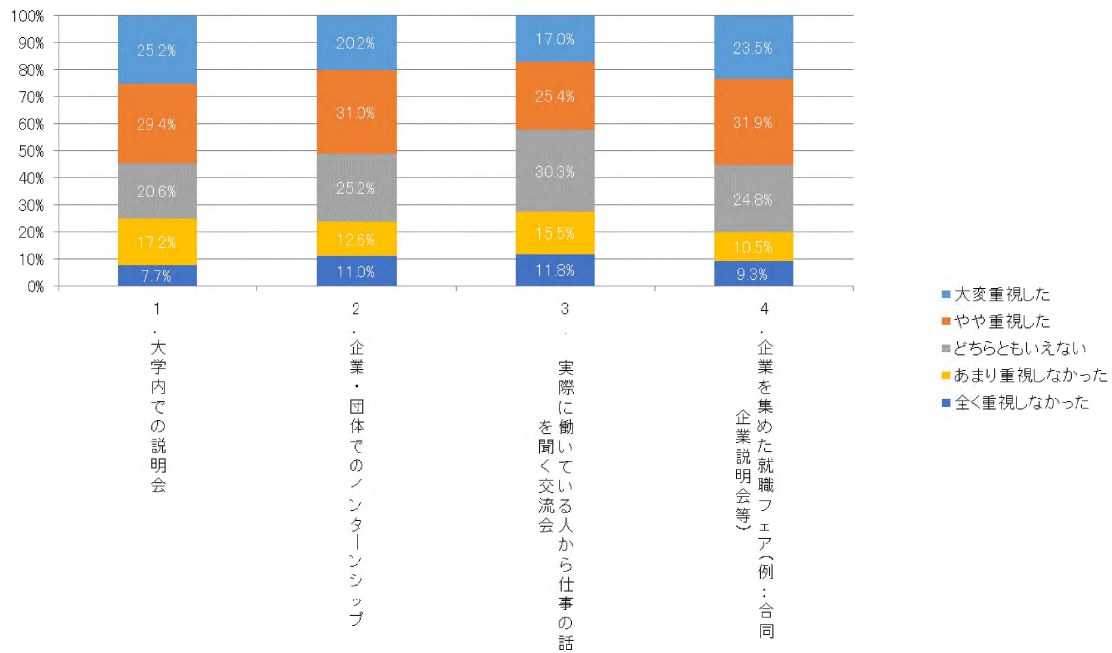


注)「就職活動をしている」及び「かつて就職活動をしていたが今はしていない」人のみ
 注)居住希望地は「居住予定または希望地がある」人のみ



神戸市内で求人のある企業・団体に関する情報の入手方法としてどの程度重視したか

神戸市内で求人のある企業・団体に関する情報の入手方法としてどの程度重視したか n=326



注)「就職活動をしている」及び「かつて就職活動をしていたが今はしていない」人のみ
 注)神戸市内の企業・団体に対して「実際に就職活動を行った、行っている」人のみ

市在住外国人グループインタビューのご意見（抜粋）

（神戸市の強み）

- ・外国人が多く安心する。多文化を受け入れる包容力がある。

（神戸市の弱み）

- ・多言語表示が不十分。学校の先生が英語を話さずコミュニケーション困難。
- ・日本人と外国人の交流が少ない。

（神戸に住みたいと思わせるためには）

- ・外国人コミュニティの確保、形成。
- ・情報を届ける際に外国人でも理解しやすい表現とする。

（将来の神戸への定住希望）

- ・始めに住んだ神戸に愛着があり、今後も住み続けたい。